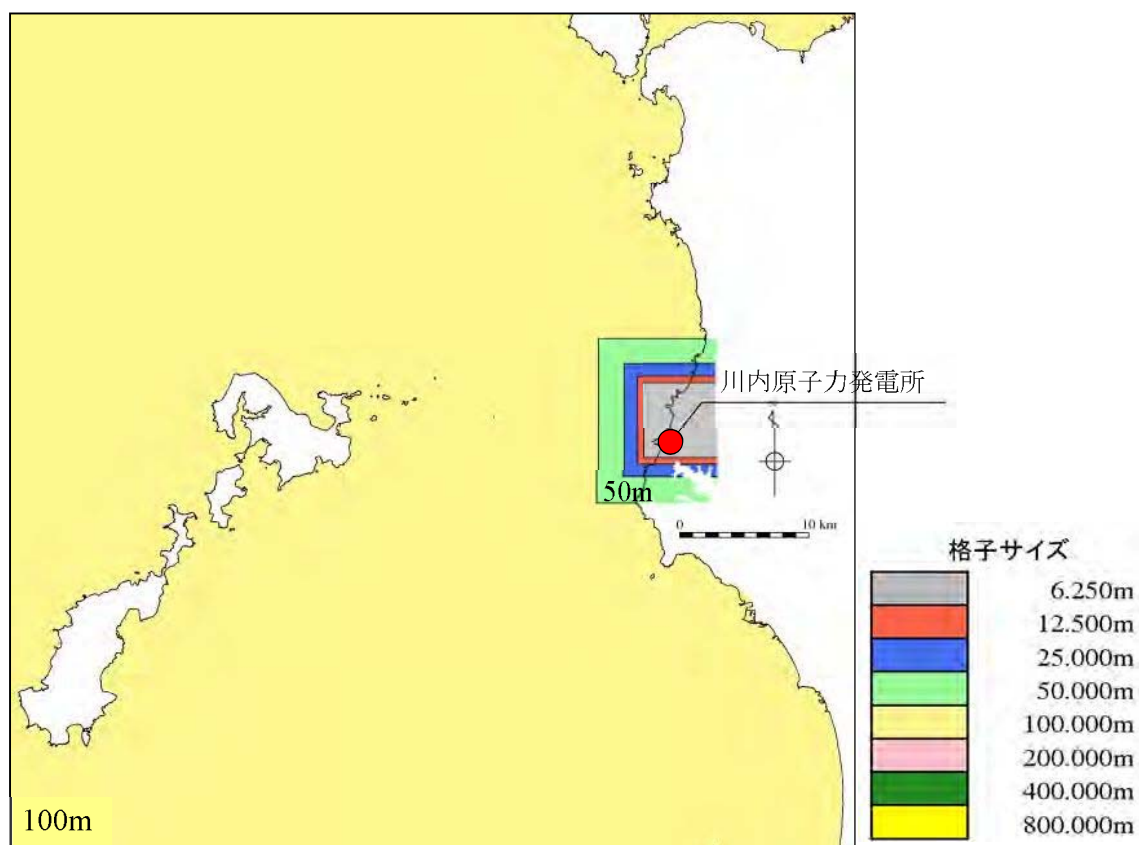
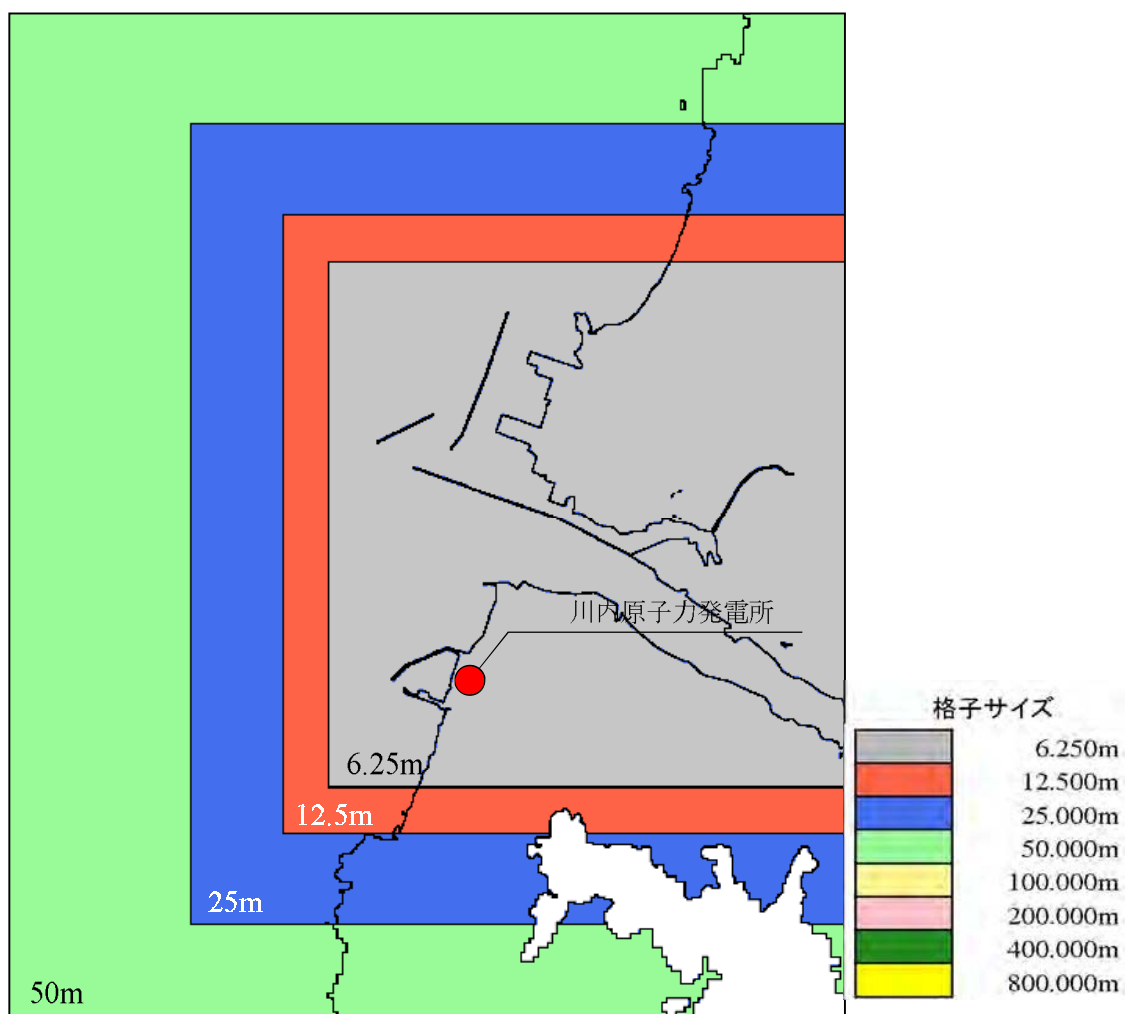
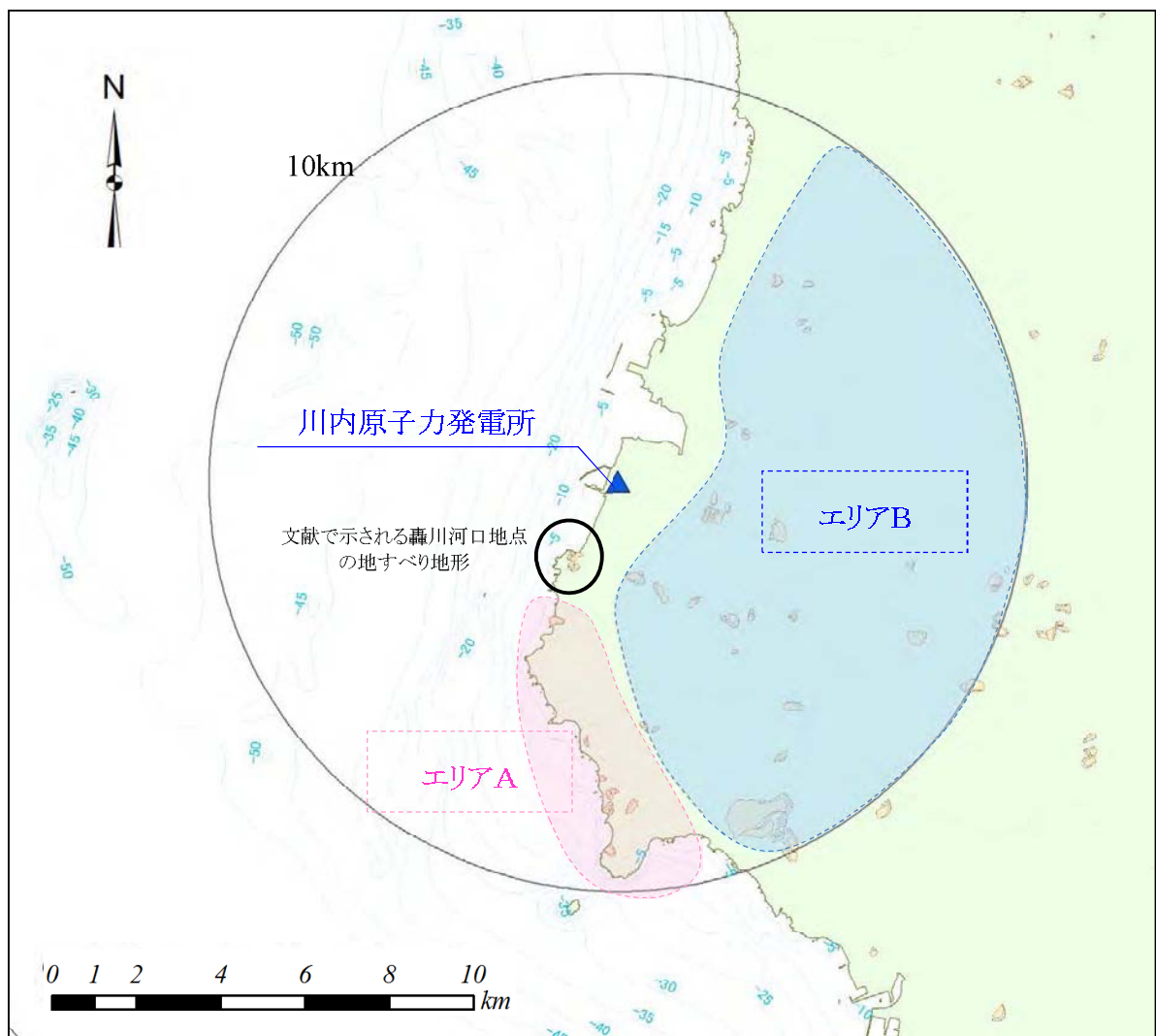




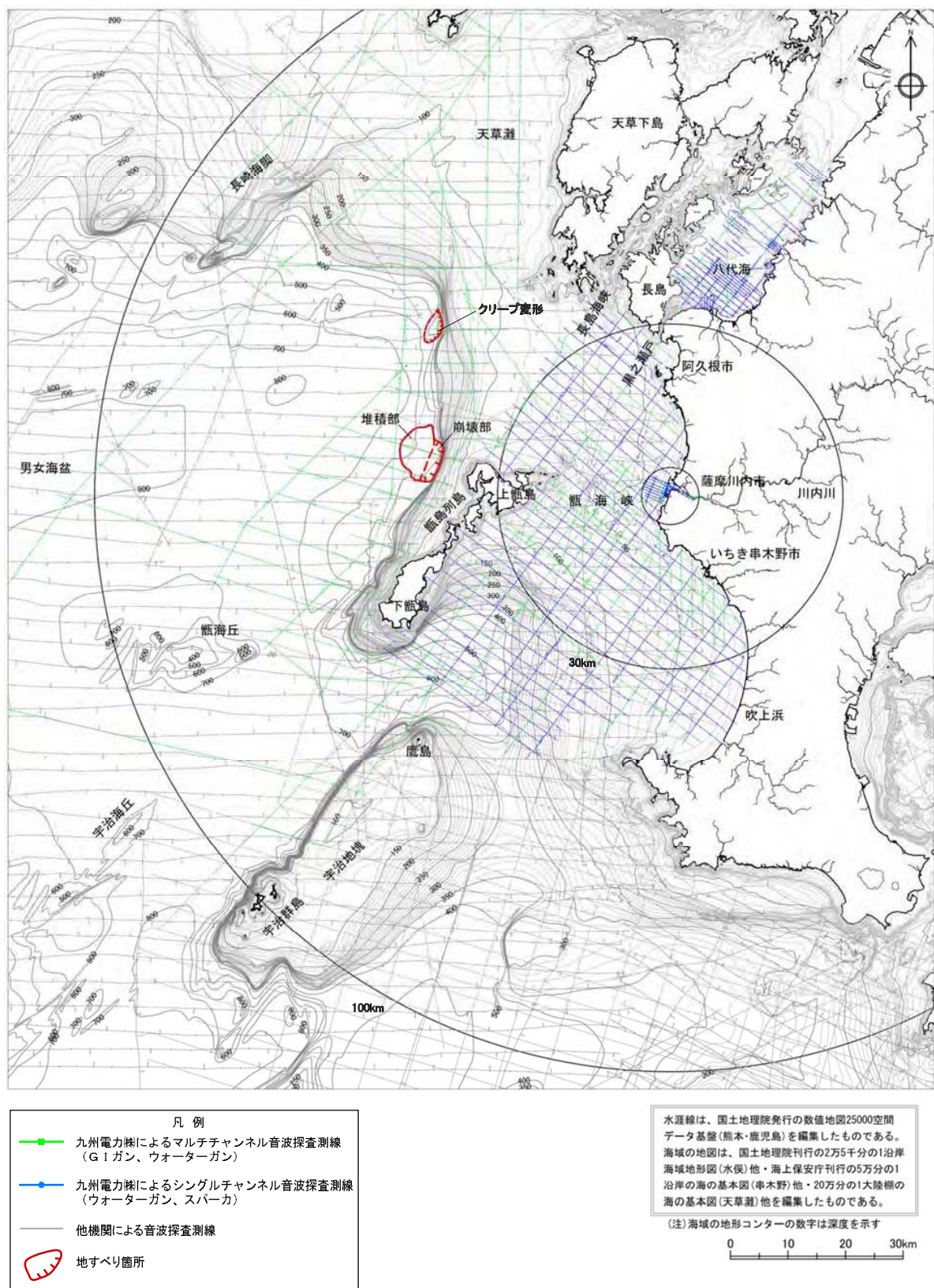
第1.2-15図(2) 計算格子分割(敷地前面海域)



第1.2-15図(3) 計算格子分割(敷地近傍海域)

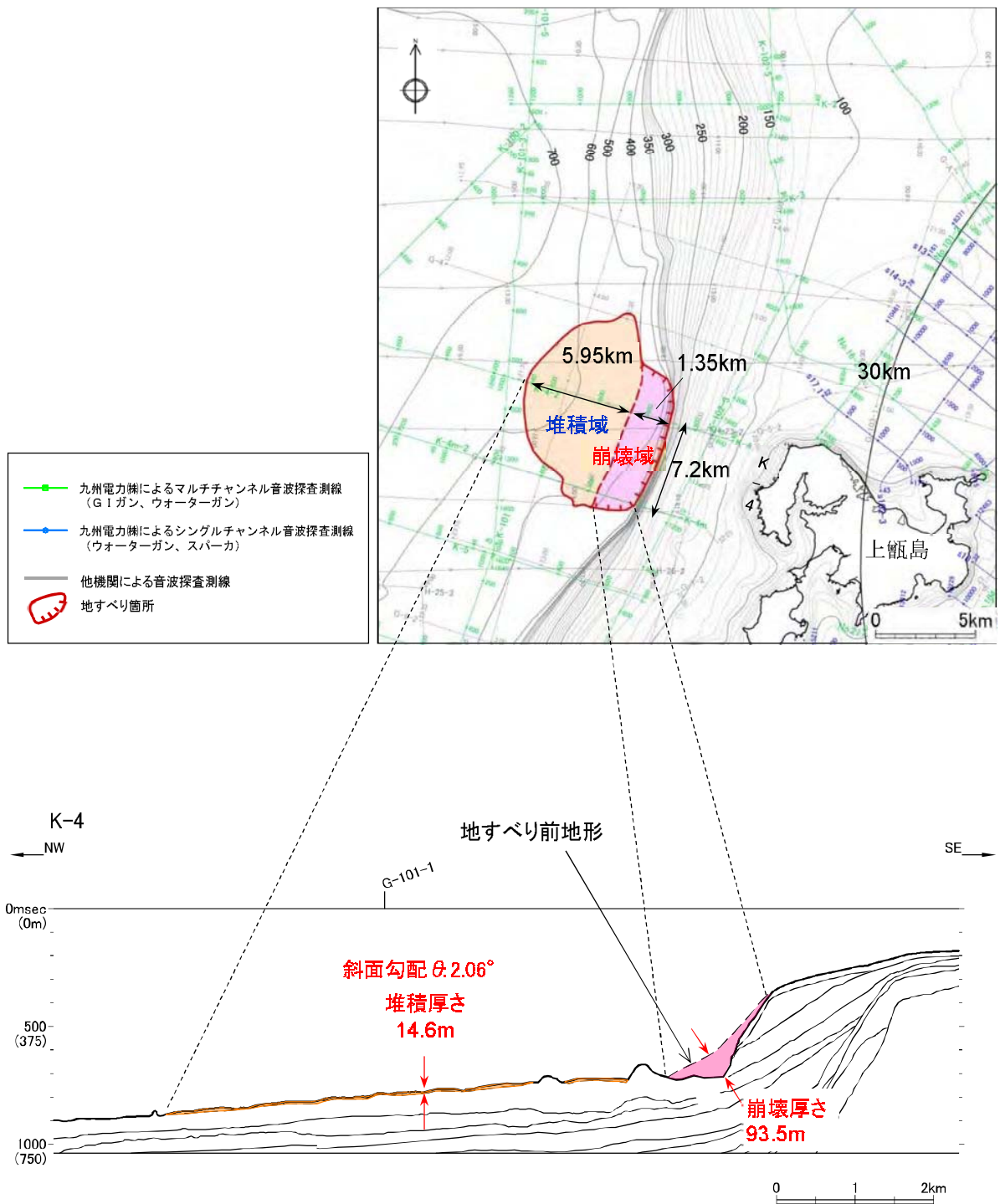


第1.2-16図 沿岸陸域の地すべり地形の位置

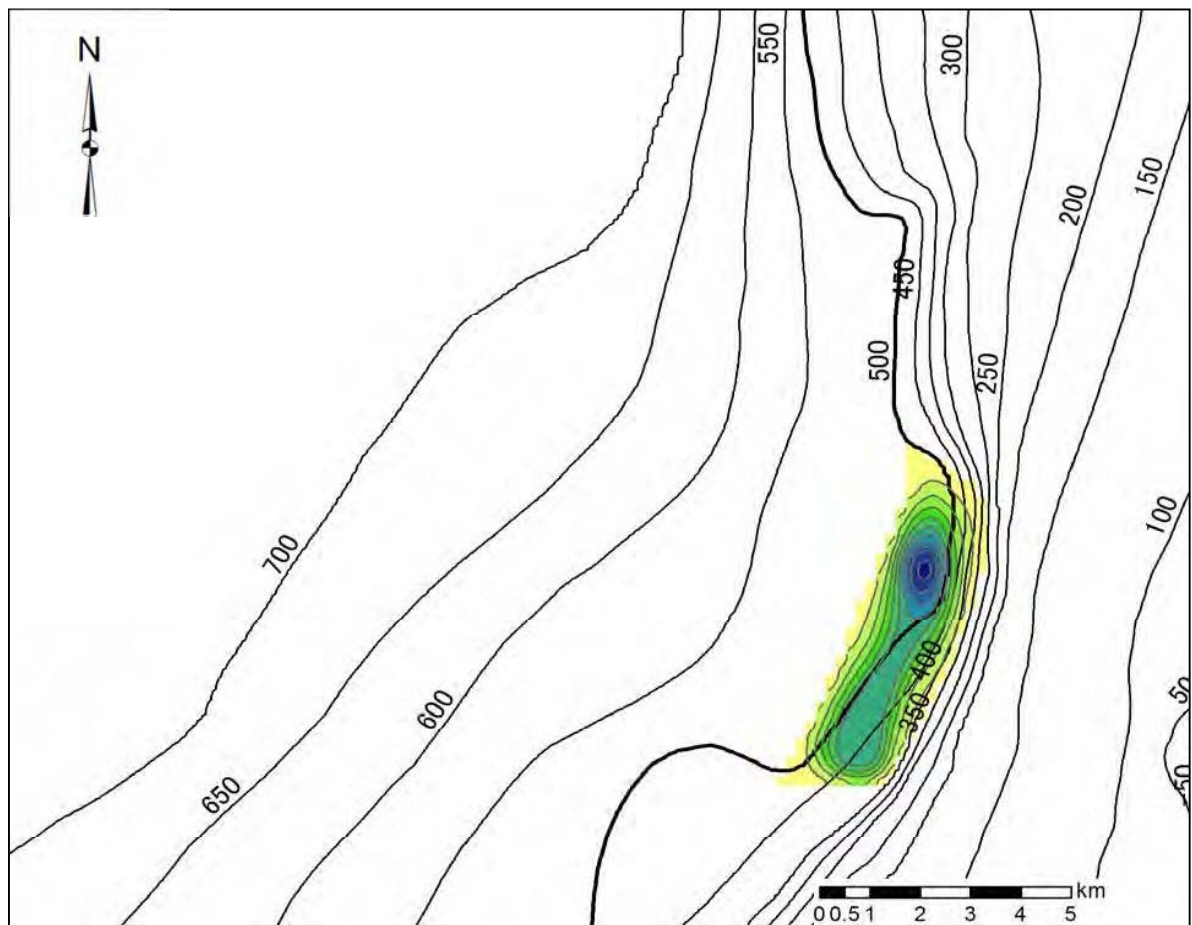


第1.2-17図 海底地すべり地形の位置

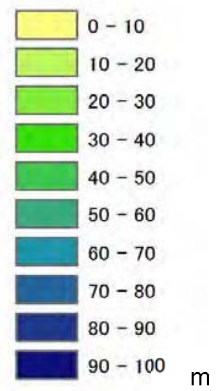




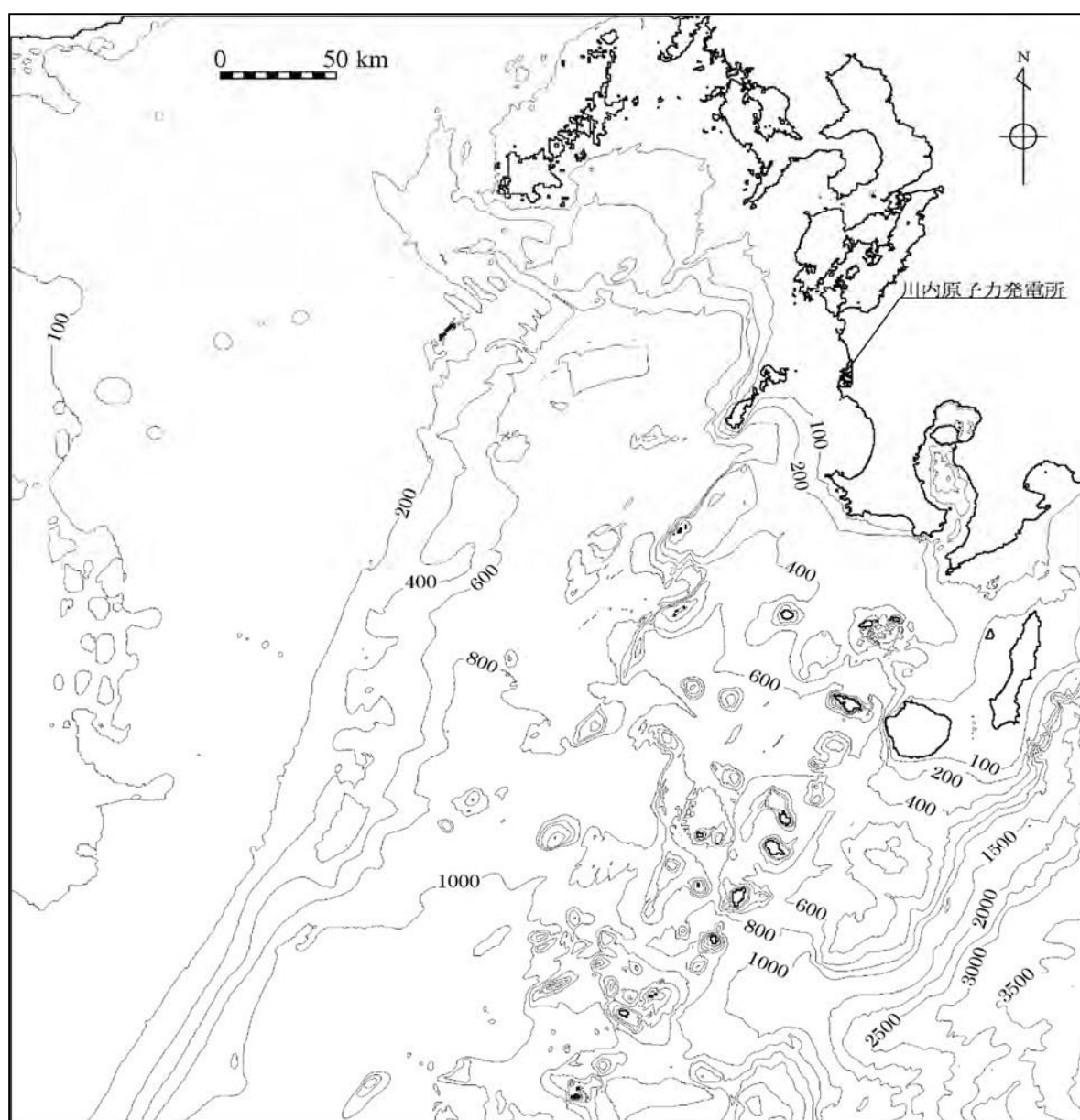
第1.2-18図(1) 海底地すべりモデル  
(Watts et al. (2005) の予測式に基づく手法)



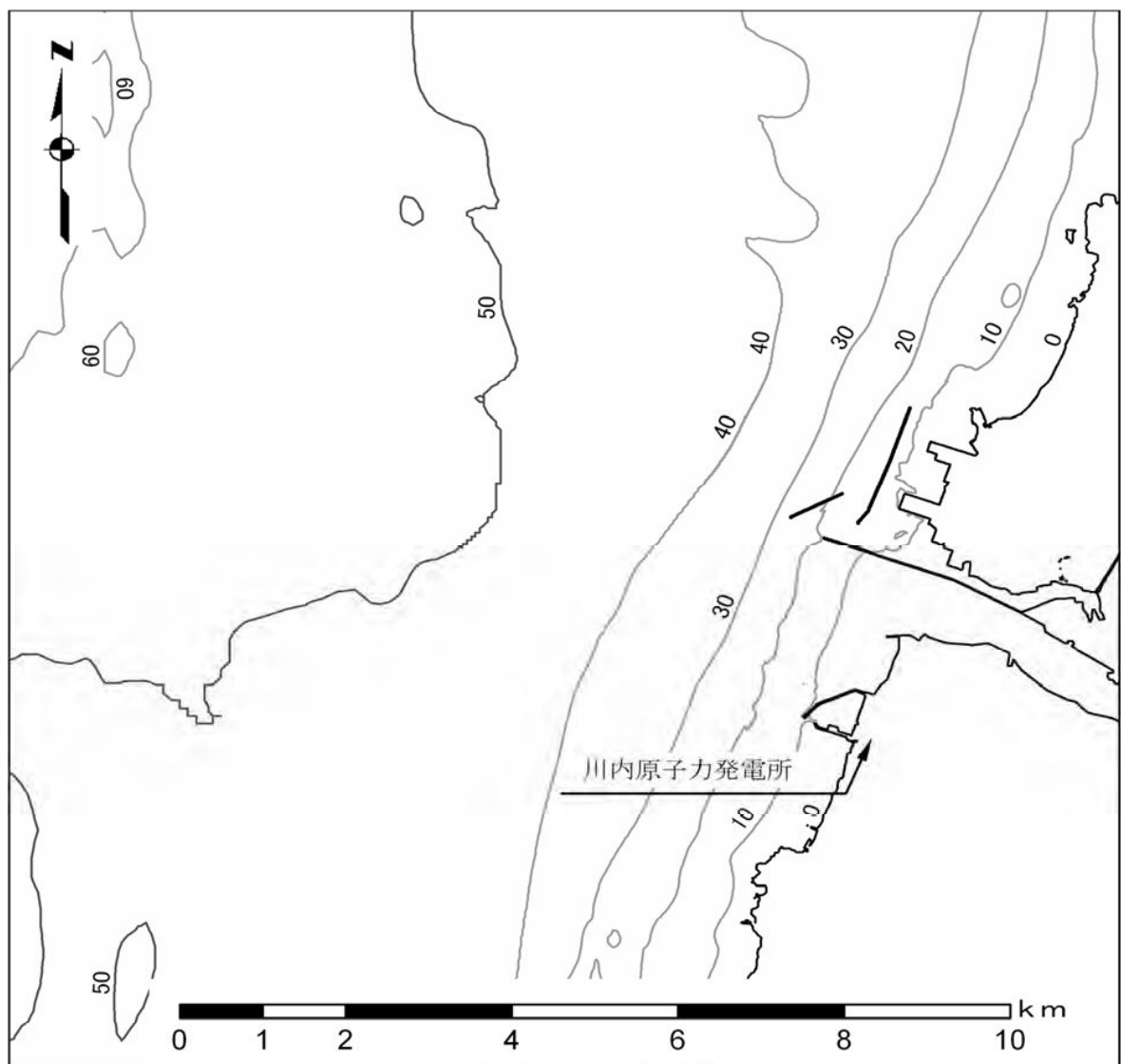
地すべり地塊厚さ



第1.2-18図(2) 海底地すべりモデル  
(二層流モデルに基づく手法)

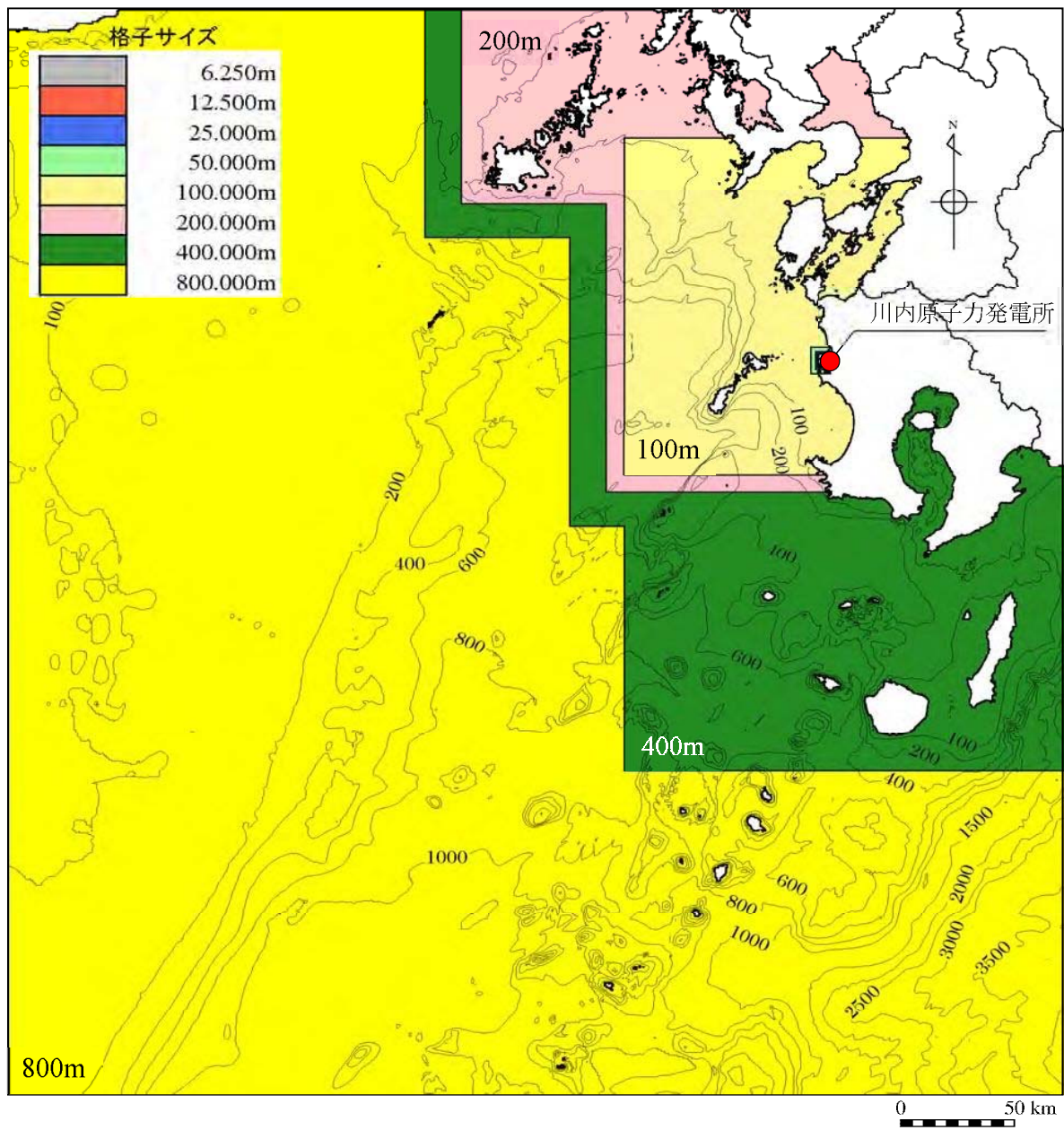


第1.2-19図(1) 海底地形(計算領域全体)

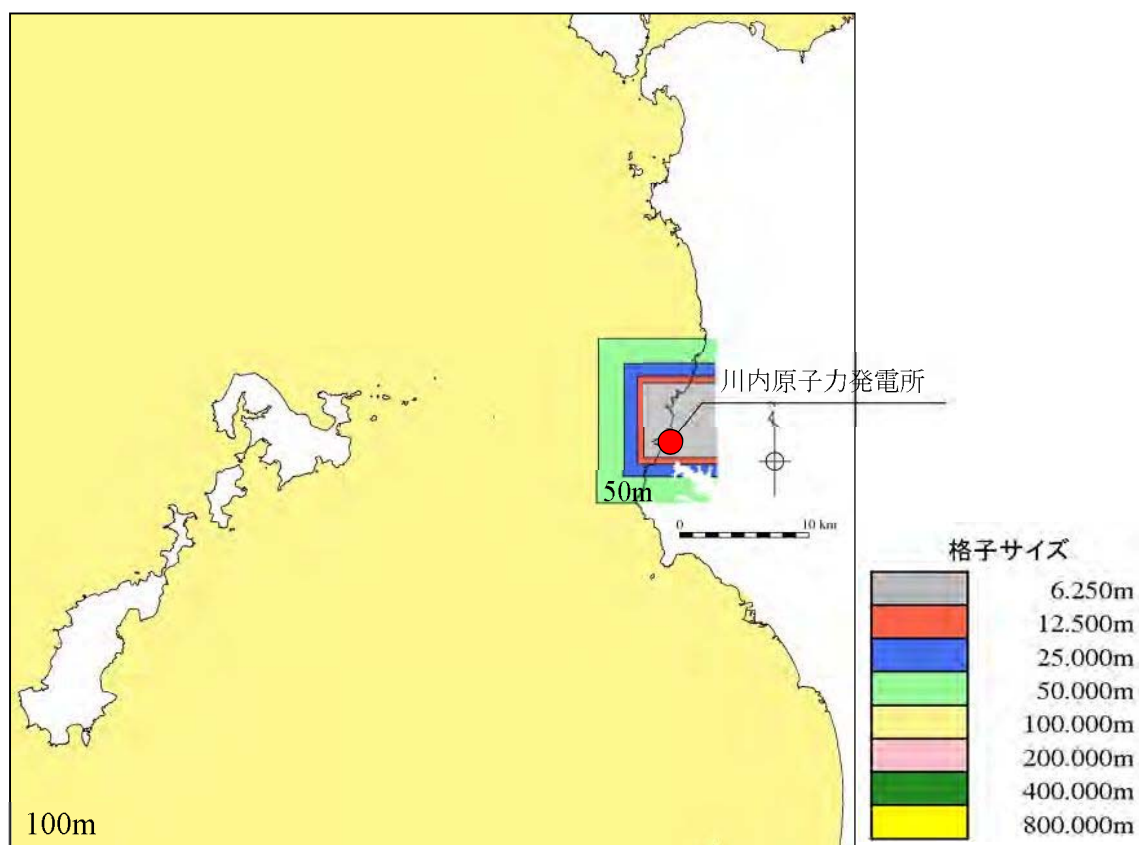


第1.2-19図(2) 海底地形(敷地近傍海域)

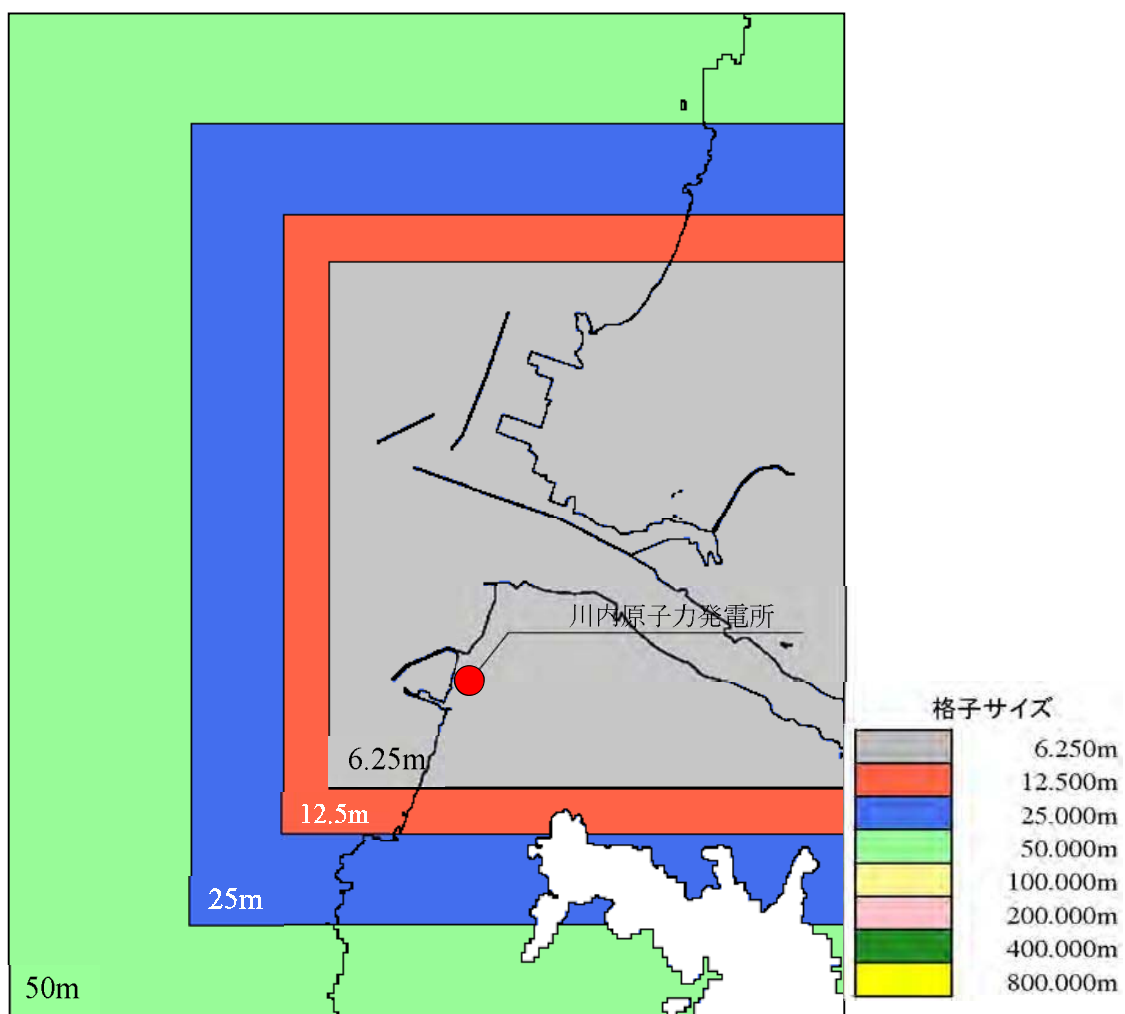




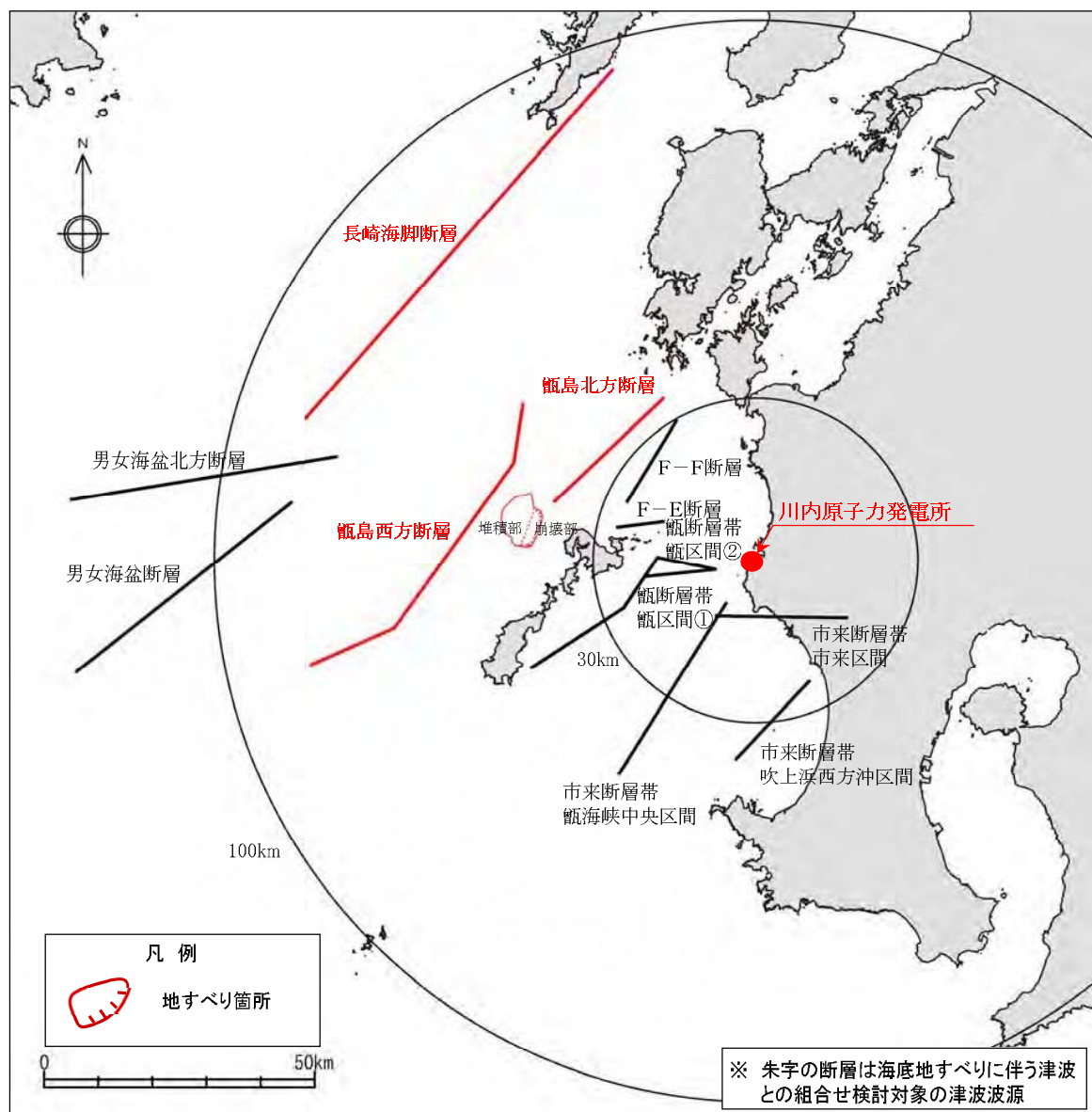
第1.2-20図(1) 計算格子分割(計算領域全体)



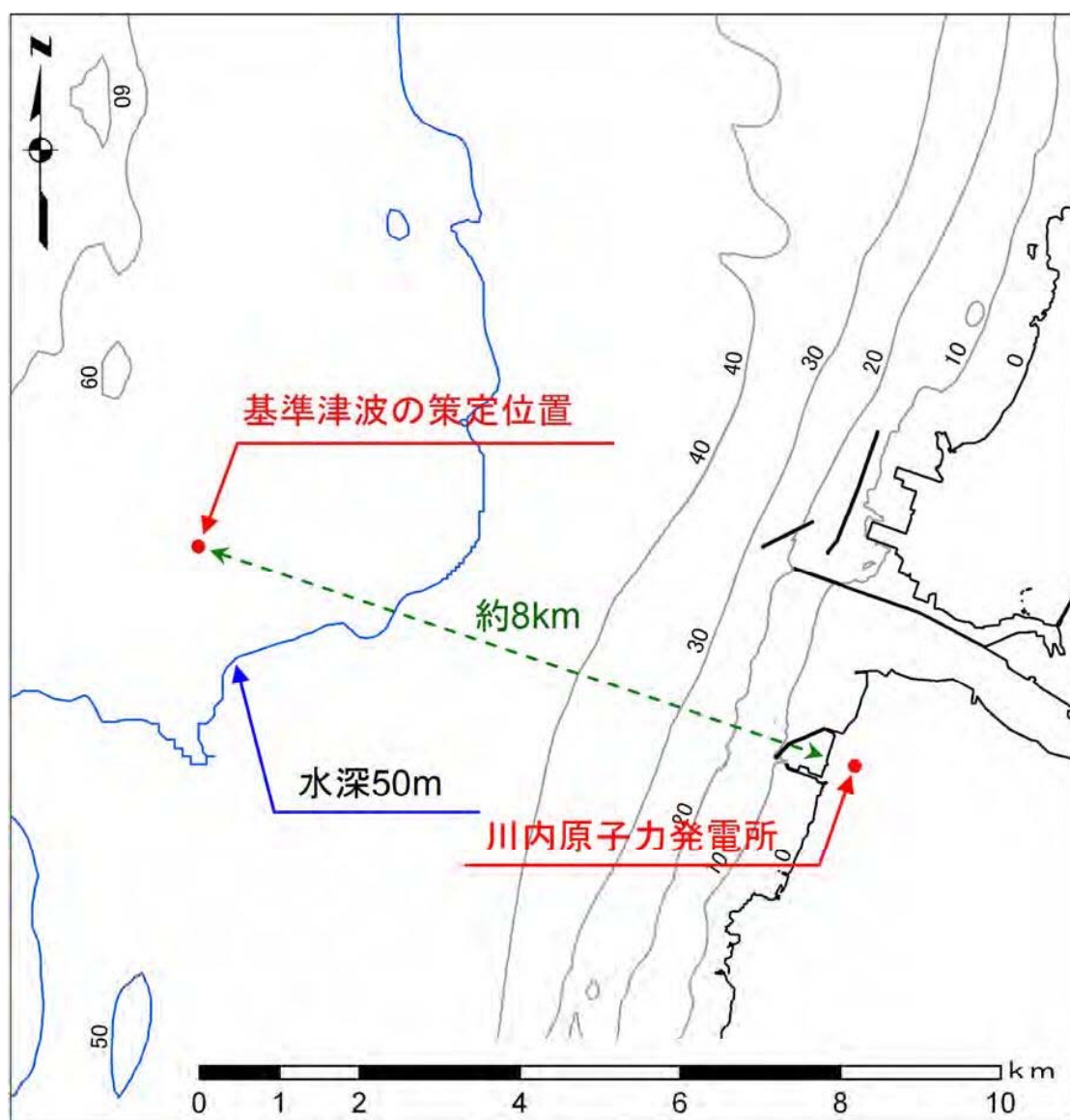
第1.2-20図(2) 計算格子分割(敷地前面海域)



第1.2-20図(3) 計算格子分割(敷地近傍海域)

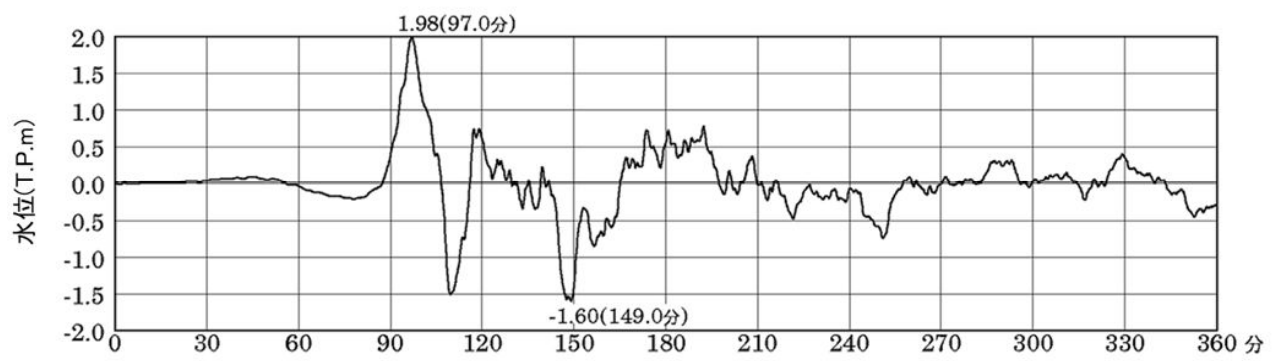


第1.2-21図 敷地周辺の海域活断層の津波波源  
及び海底地すべりの位置



第1.2-22図 基準津波の策定位置





第1.2-23図 基準津波の時刻歴波形(初期潮位:T.P.±0.00m)



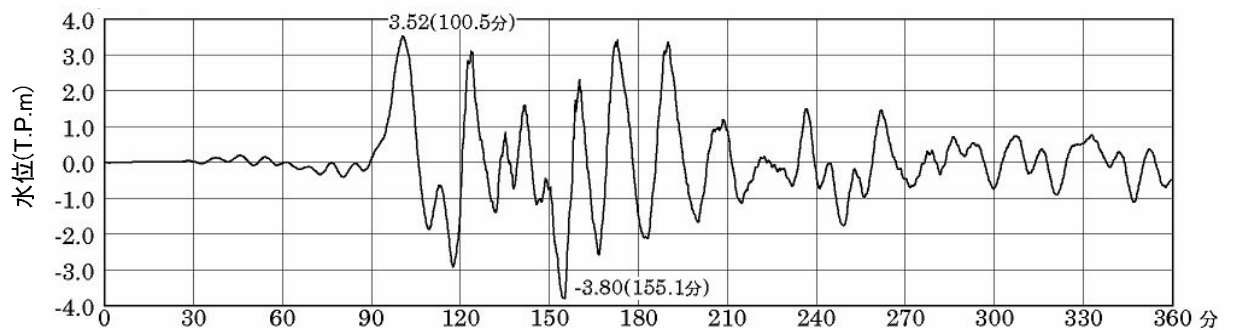
第1.2-24図(1) 基準津波の最大水位上昇量分布

(初期潮位:T.P.±0.00m)



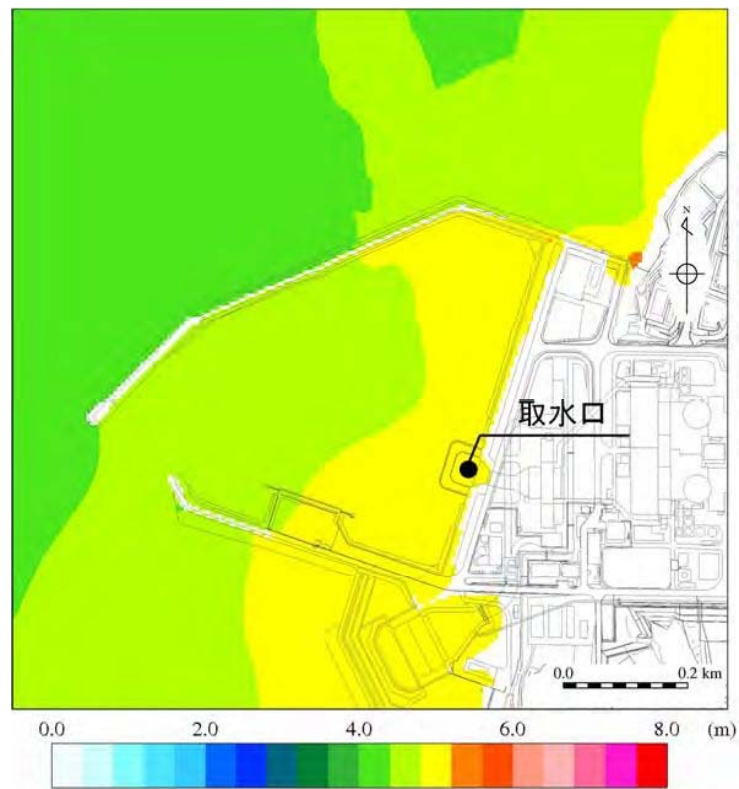
第1.2-24図(2) 基準津波の最大水位下降量分布

(初期潮位:T.P.±0.00m)

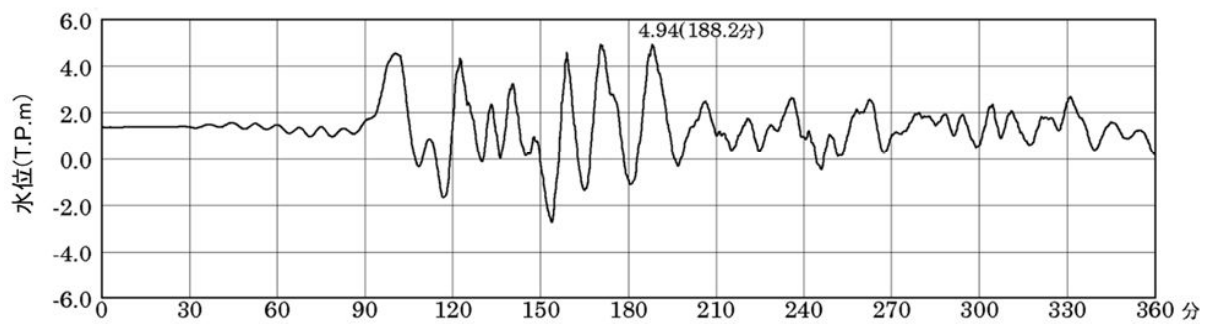


第1.2-24図(3) 基準津波の取水口位置での時刻歴波形

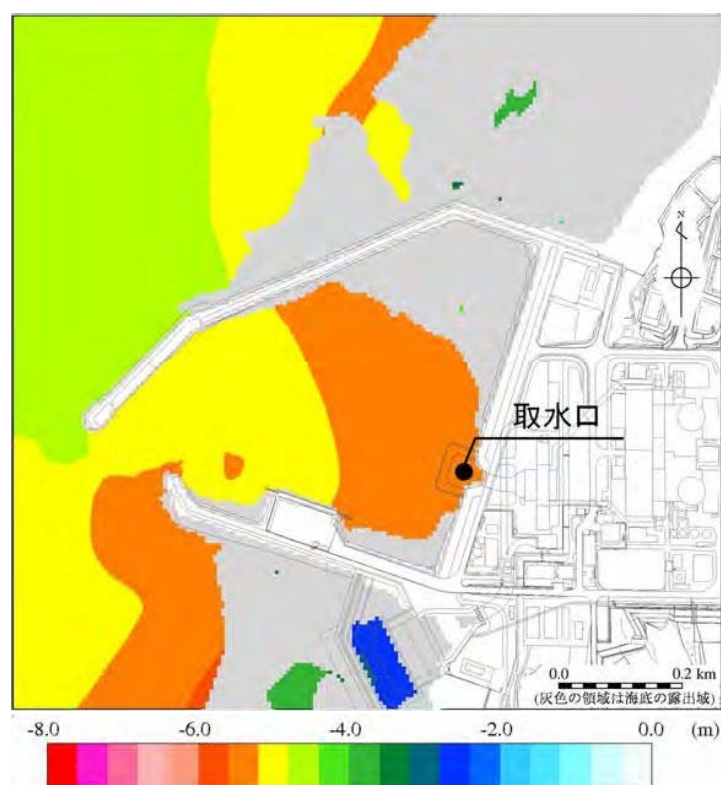
(初期潮位:T.P.±0.00m)



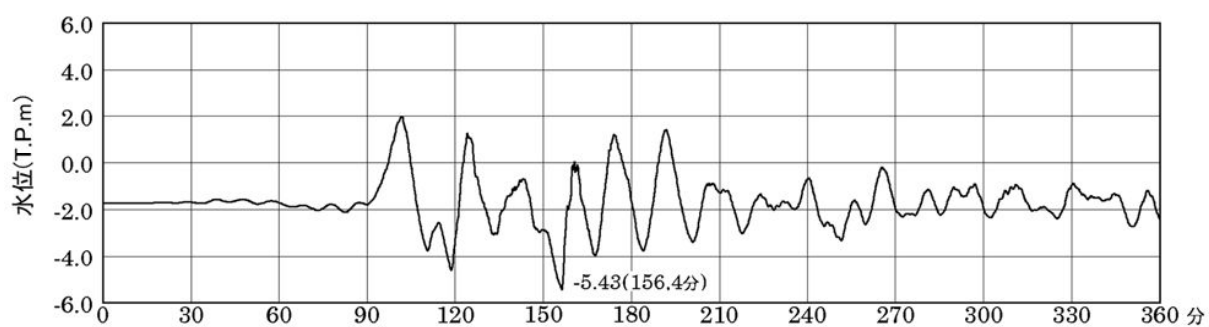
第1.2-25図(1) 基準津波の最高水位分布(朔望平均満潮位を考慮)



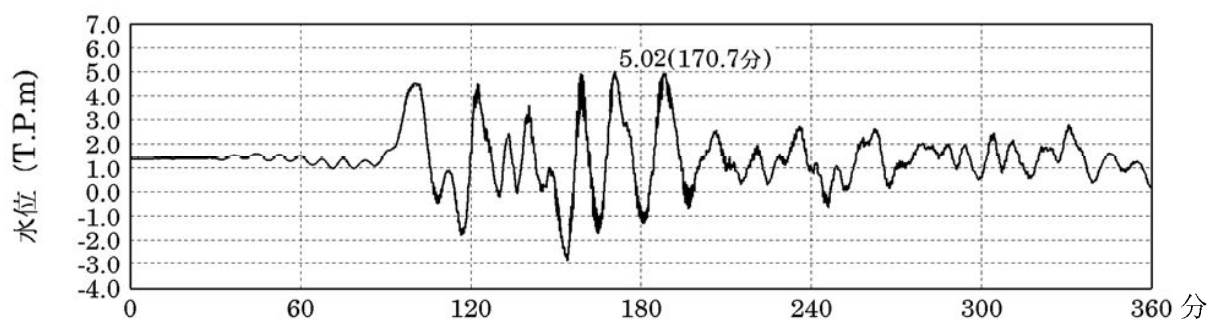
第1.2-25図(2) 基準津波の取水口位置での時刻歴波形  
(朔望平均満潮位を考慮)



第1.2-25図(3) 基準津波の最低水位分布(朔望平均干潮位を考慮)

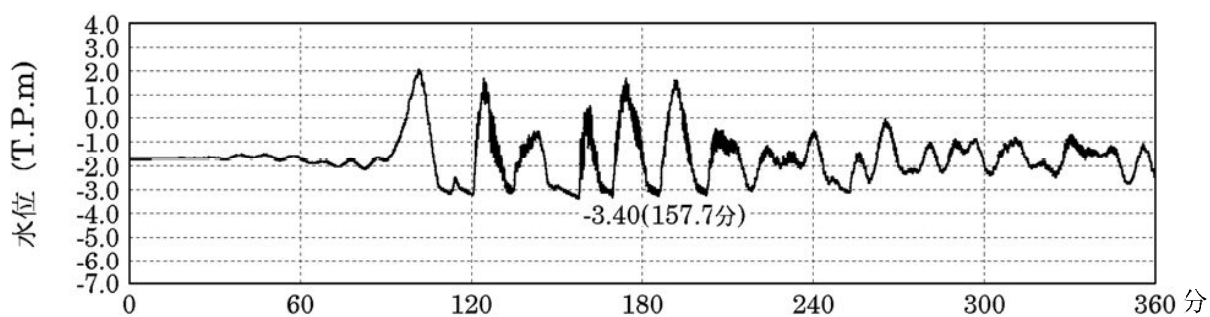


第1.2-25図(4) 基準津波の取水口位置での時刻歴波形  
(朔望平均干潮位を考慮)



第1.2-27図(1) 取水ピットでの時刻歴波形

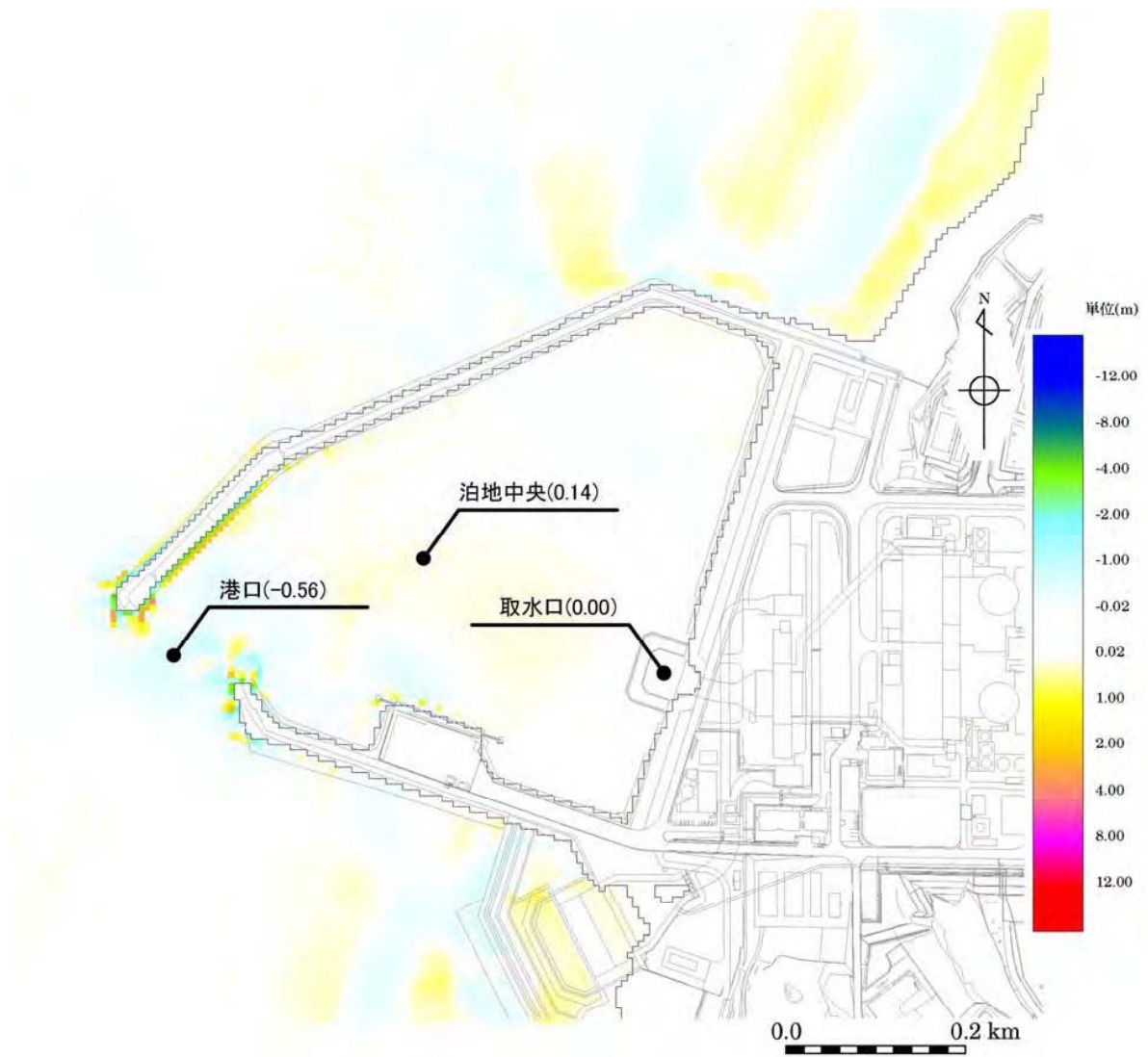
(水位上昇側、朔望平均満潮位を考慮)



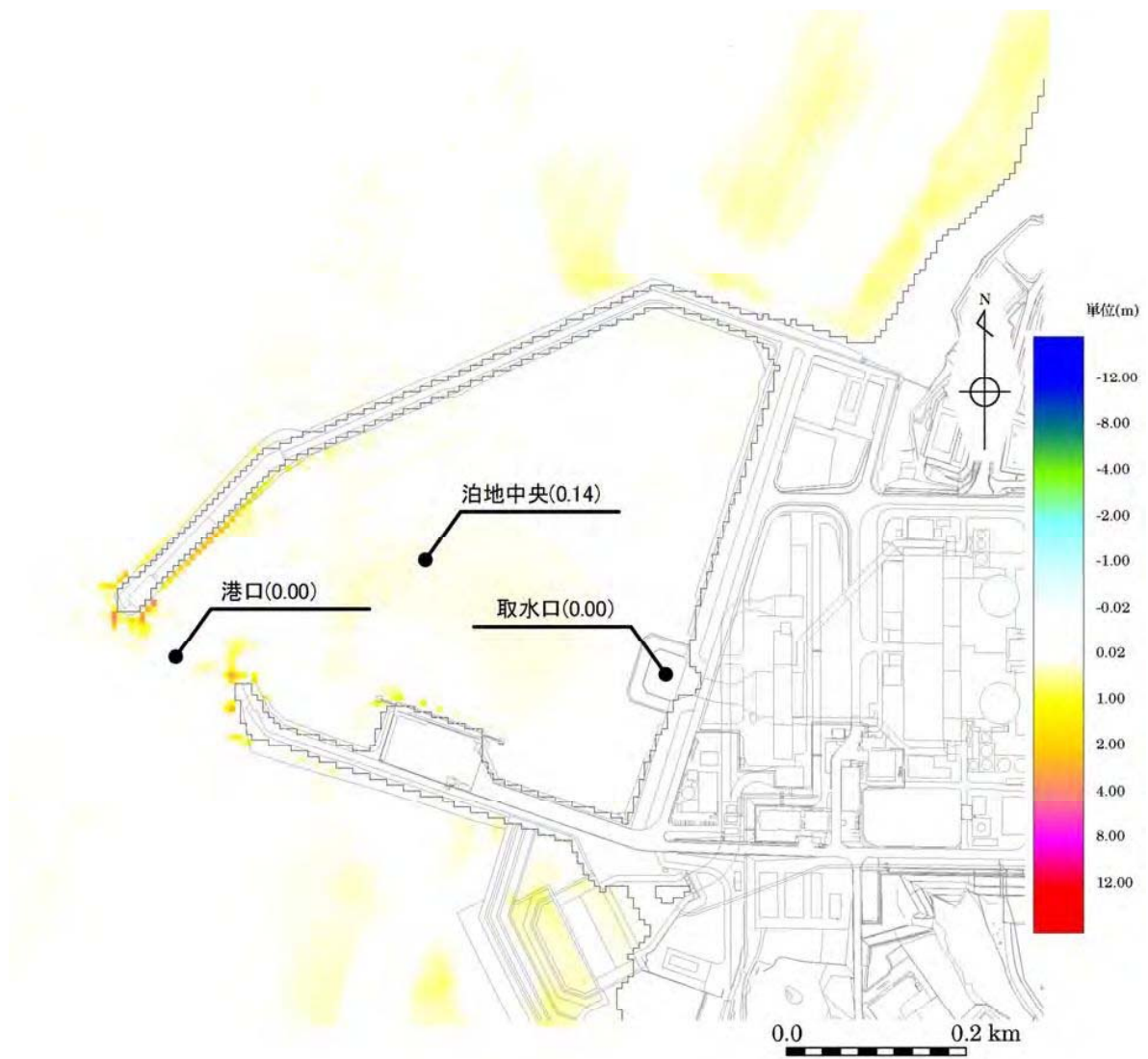
第1.2-27図(2) 取水ピットでの時刻歴波形

(水位下降側、朔望平均干潮位を考慮)

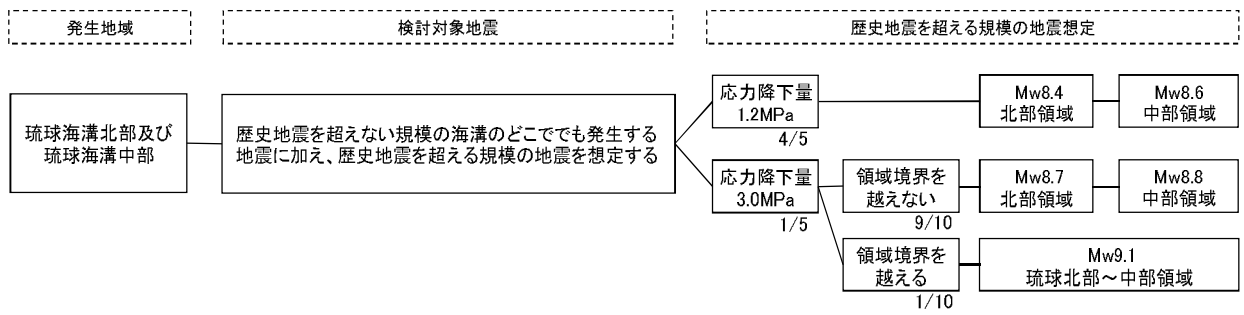




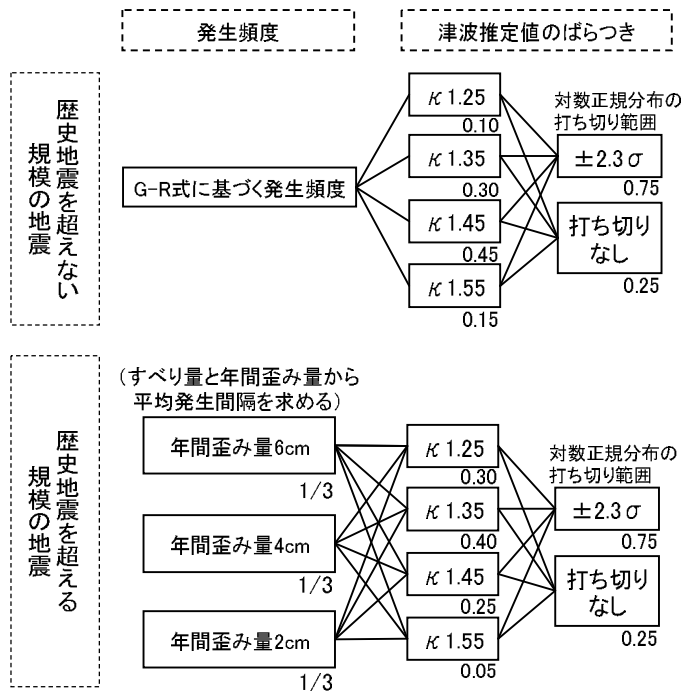
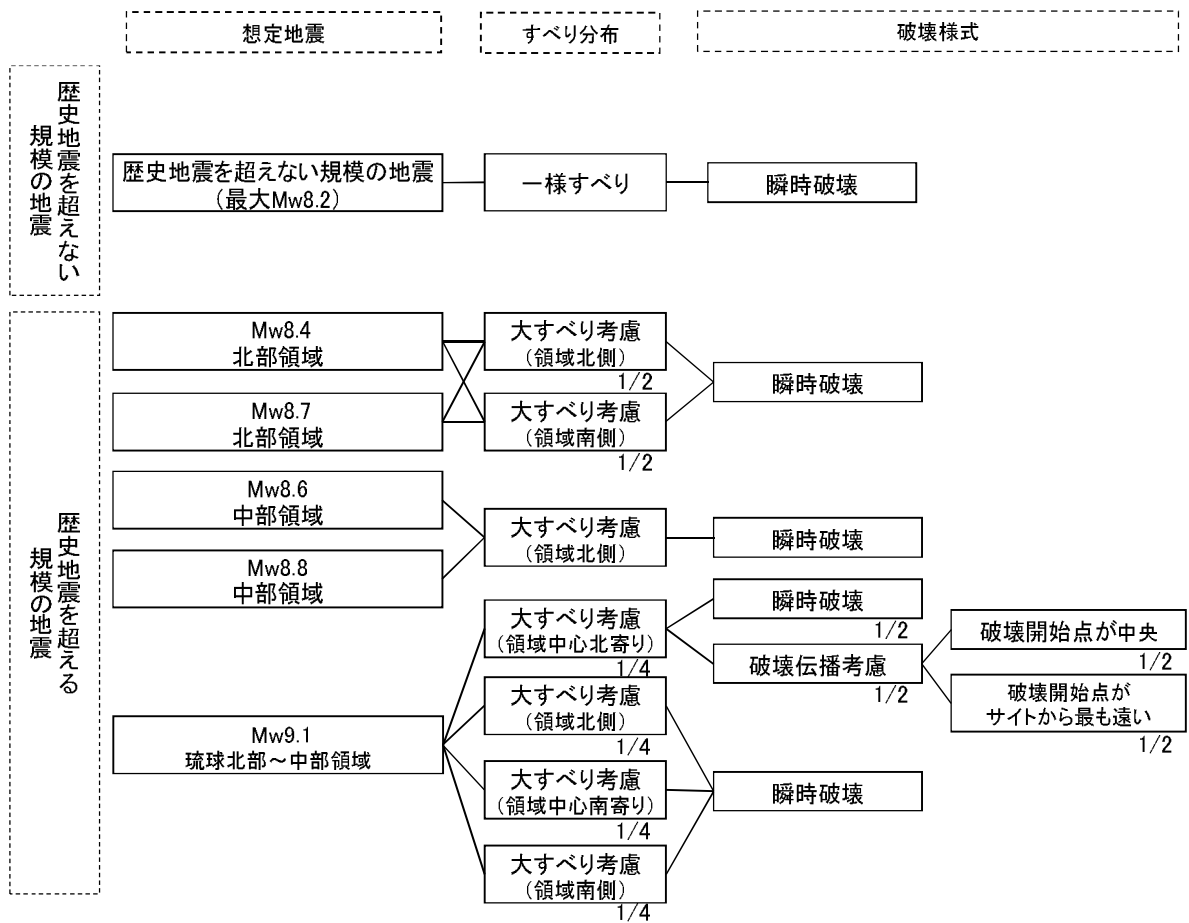
第1.2-28図(1) 砂移動による最終地形変化量



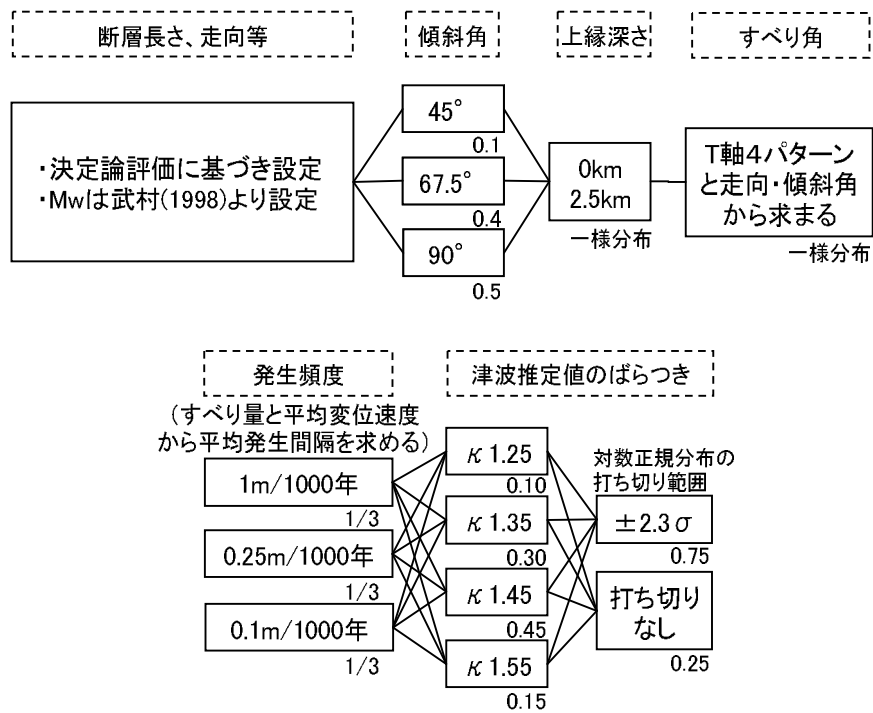
第1.2-28図(2) 砂移動による最大堆積厚



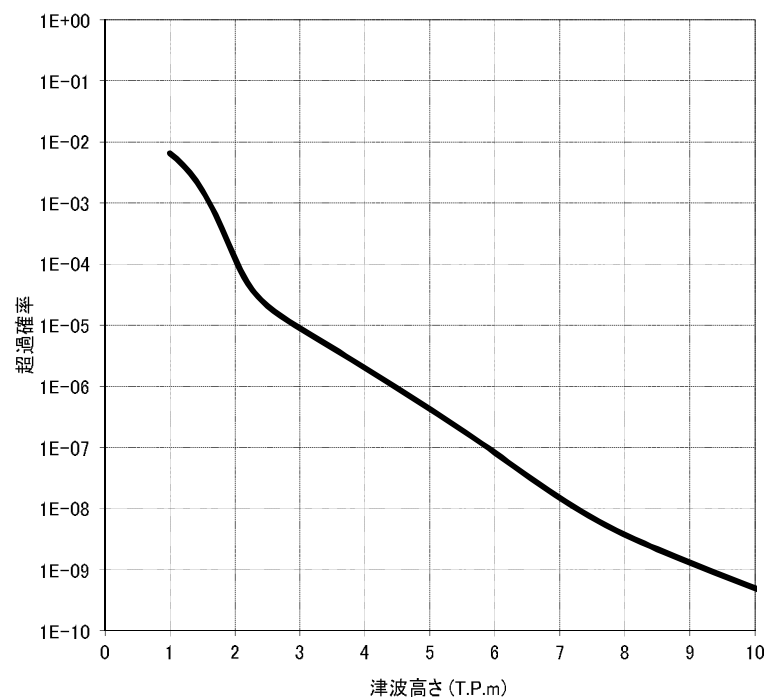
第1.2-29図(1) ロジックツリー(プレート間地震)



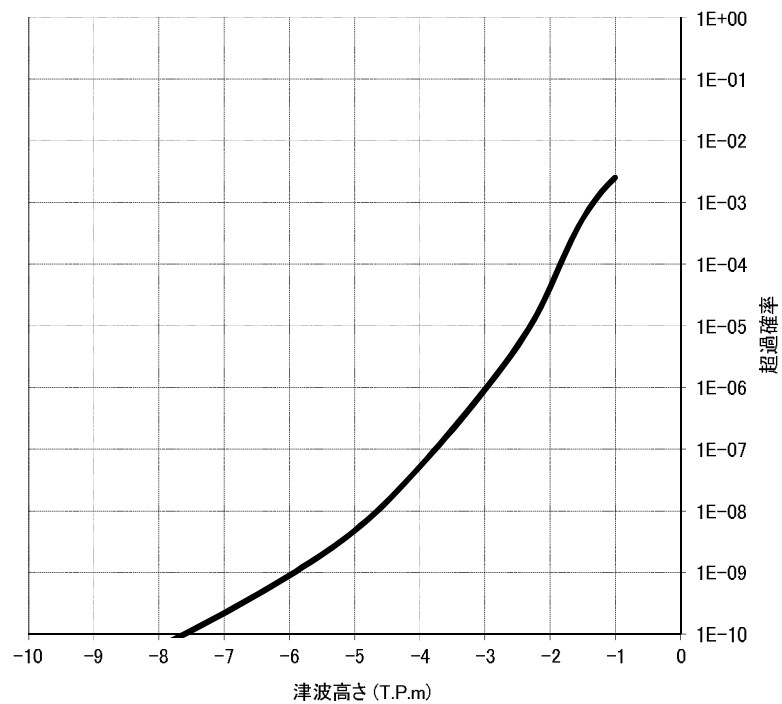
第1.2-29図(2) ロジックツリー(プレート間地震)



第1.2-29図 (3) ロジックツリー (海域活断層による地殻内地震)

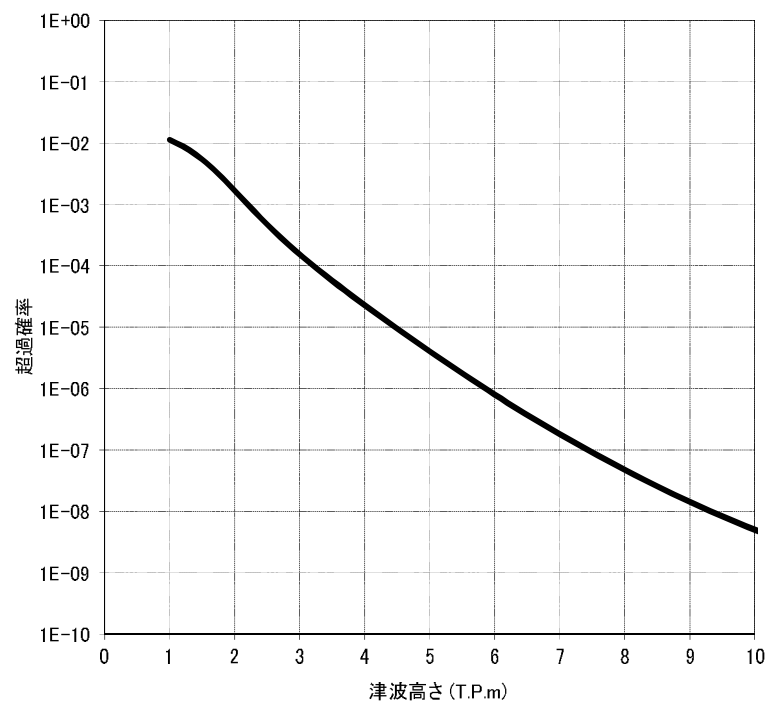


第1.2-30図(1) 基準津波の策定位置における  
水位と年超過確率の関係(水位上昇側)

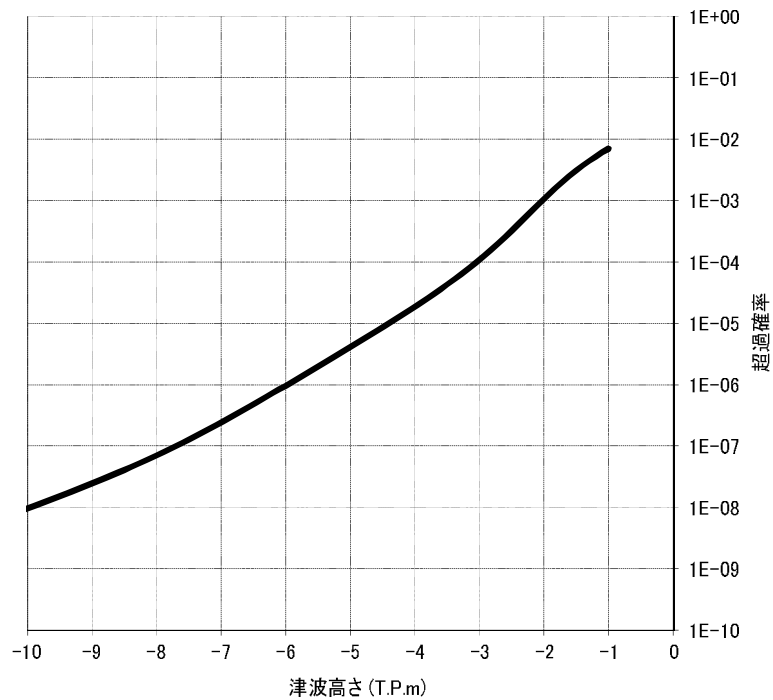


第1.2-30図(2) 基準津波の策定位置における  
水位と年超過確率の関係(水位下降側)

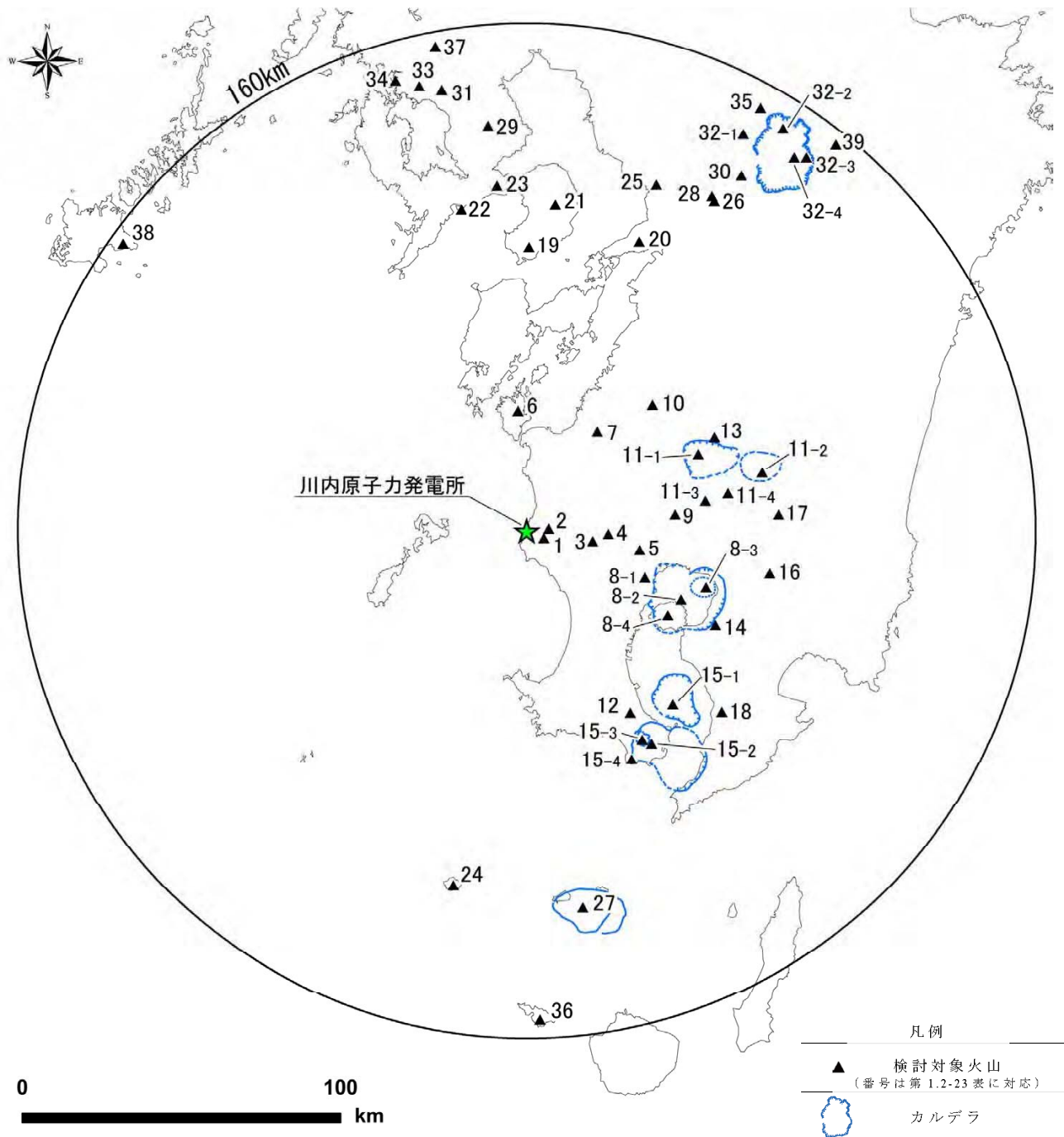




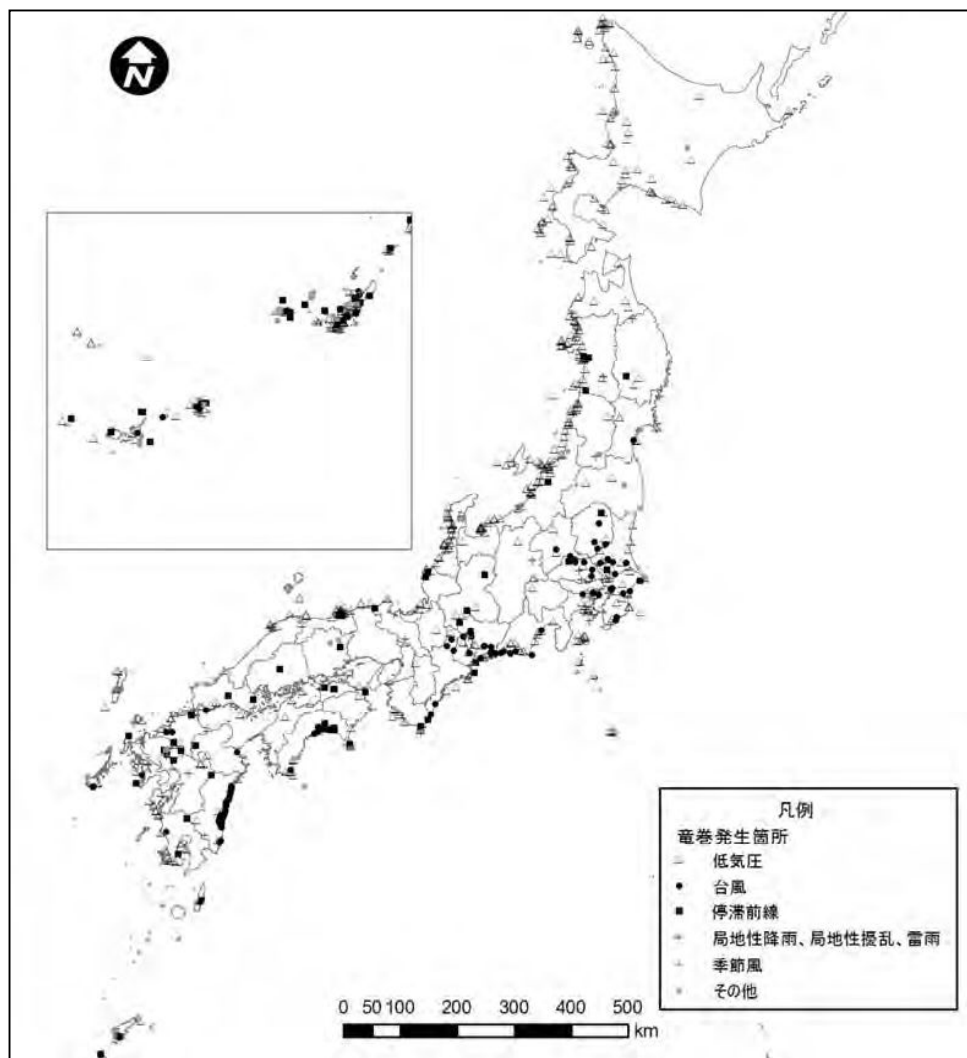
第1.2-30図(3) 取水口位置における  
水位と年超過確率の関係(水位上昇側)



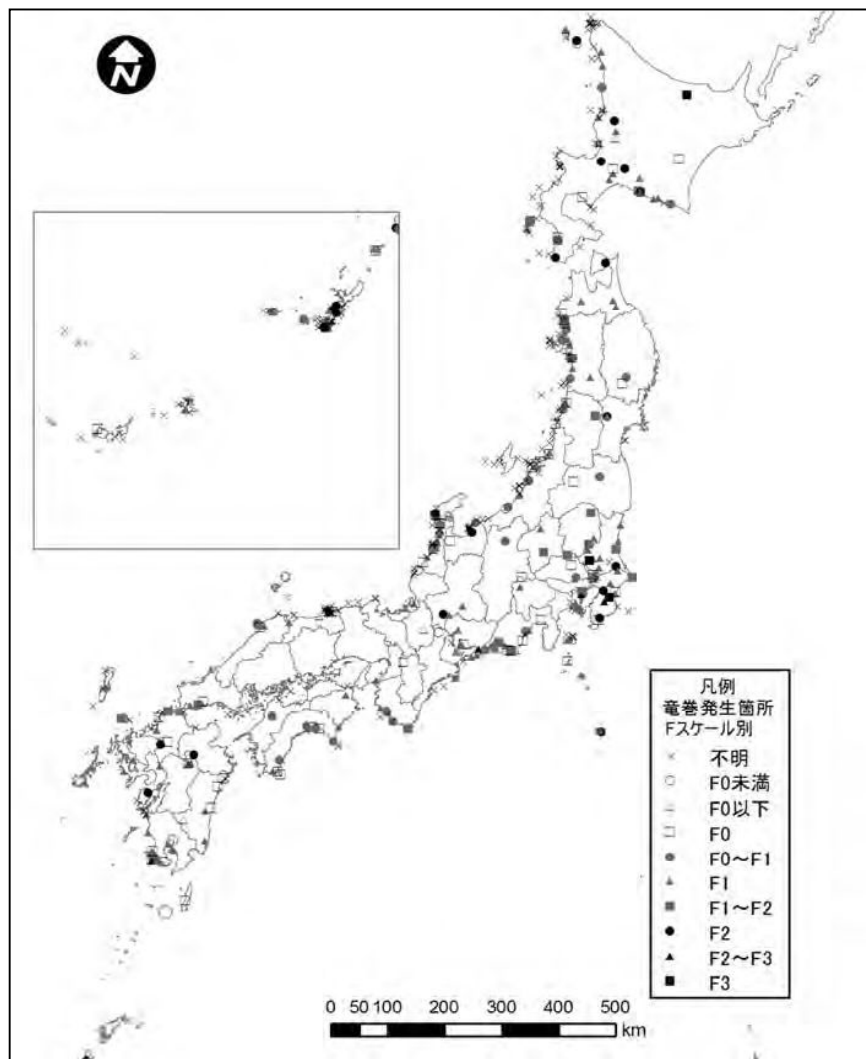
第1.2-30図(4) 取水口位置における  
水位と年超過確率の関係(水位下降側)



第 1.2-31 図 地理的領域の検討対象火山の位置



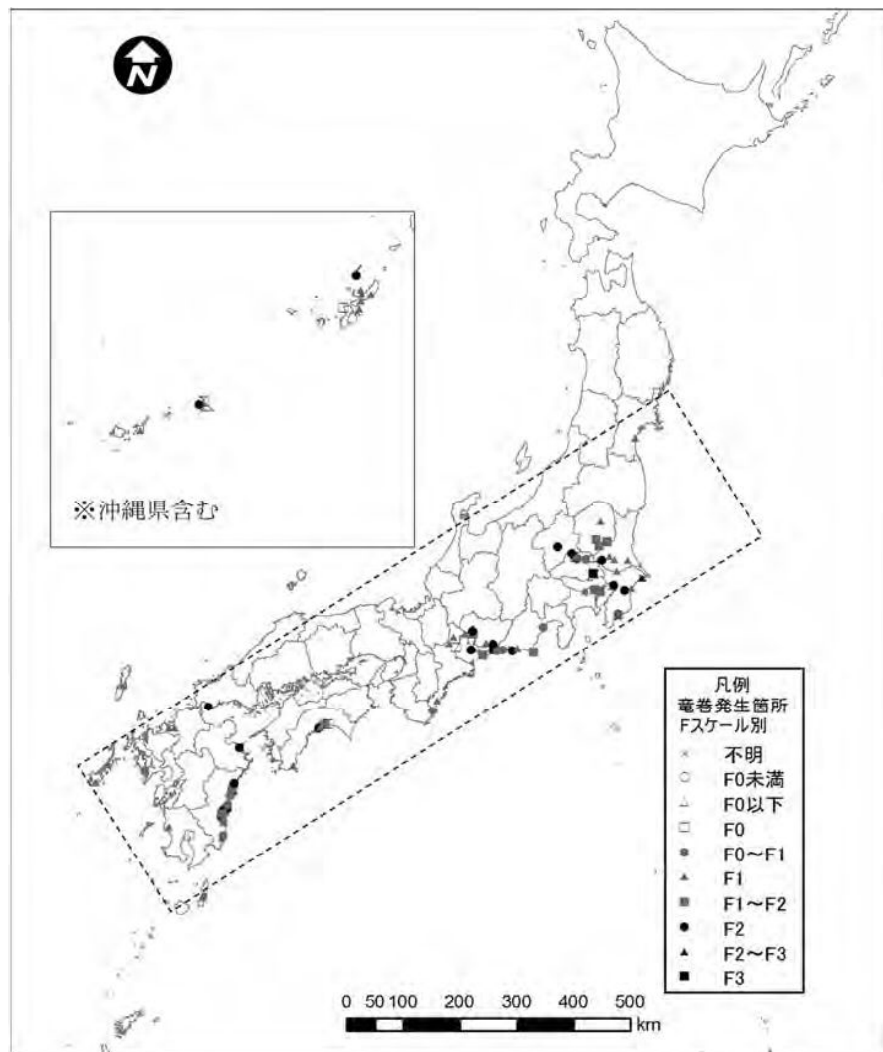
第1.2-32図 気象要因別の竜巻発生位置



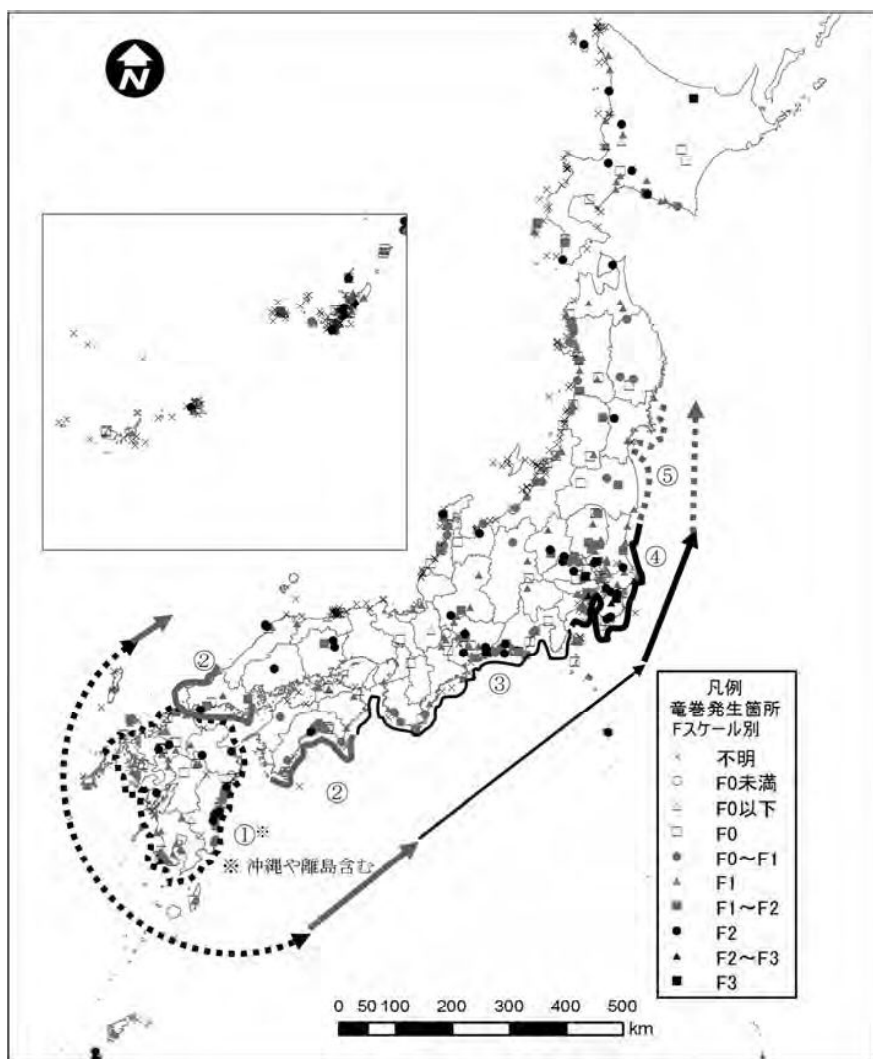
第1.2-33図 竜巻発生位置(低気圧起因)



第1.2-34図 竜巻発生位置(停滞前線起因)

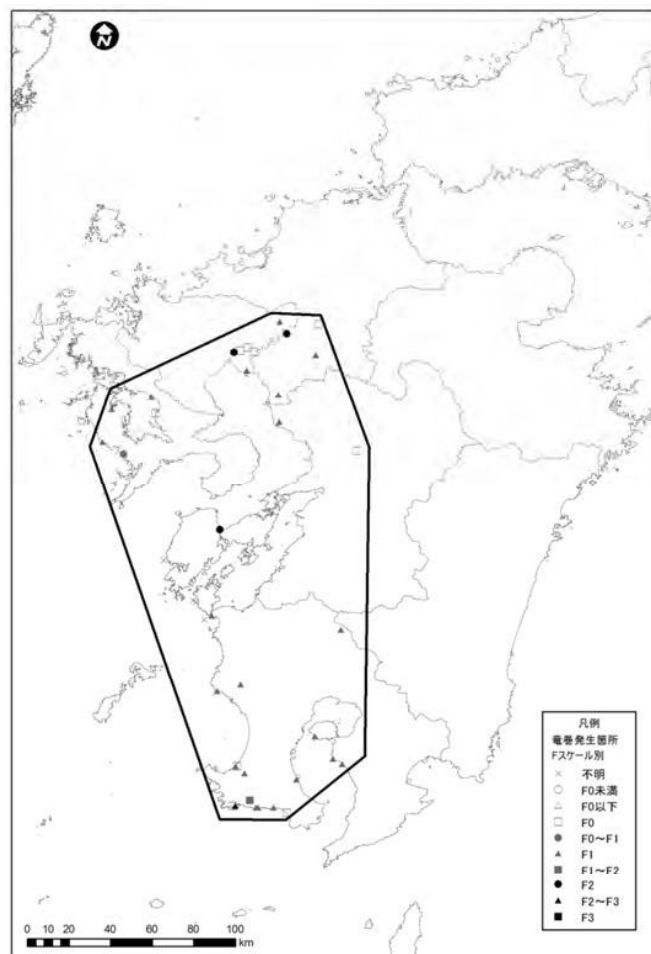


第1.2-35図 竜巻発生位置(台風起因)

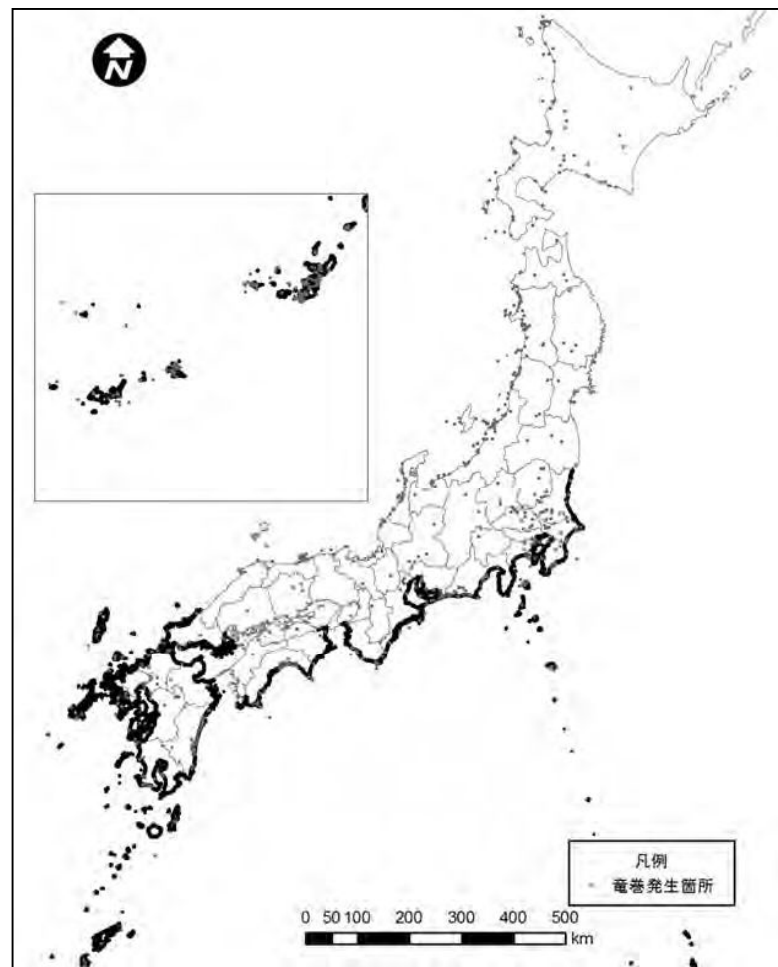


第1.2-36図 Fスケール別の竜巻発生位置

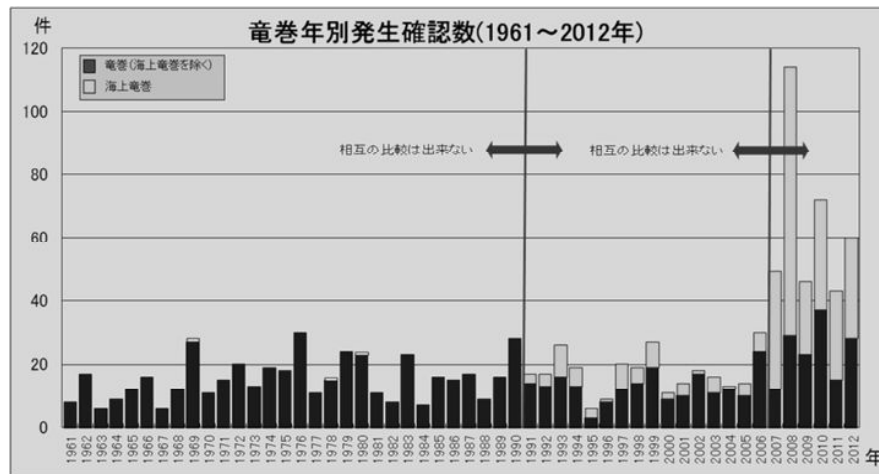




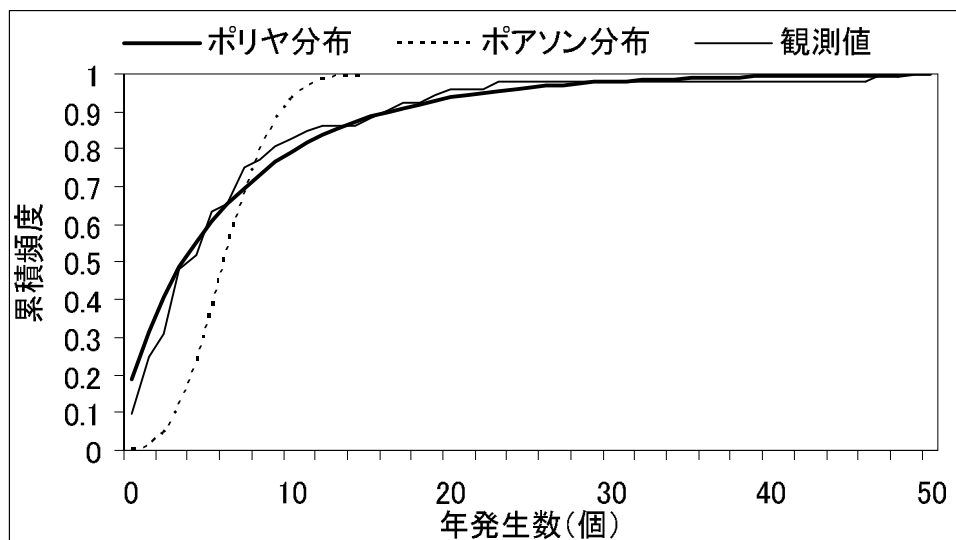
第1.2-37図 集中地域⑨におけるFスケール別竜巻発生位置



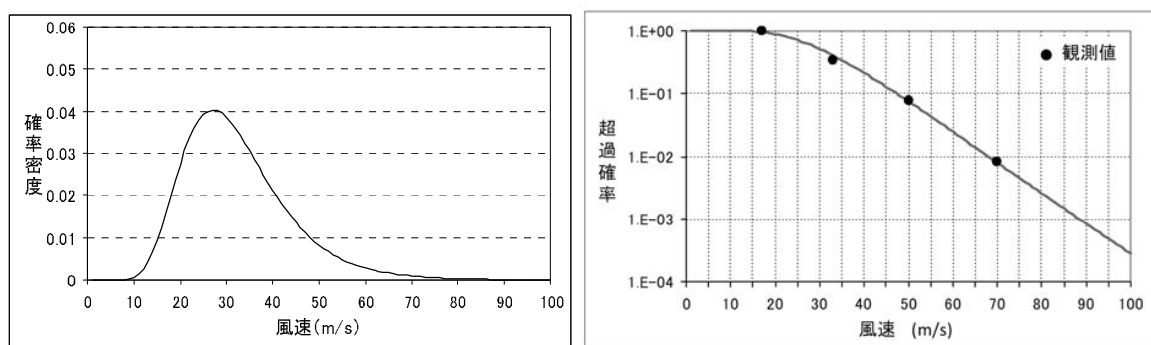
第1.2-38図 竜巻検討地域



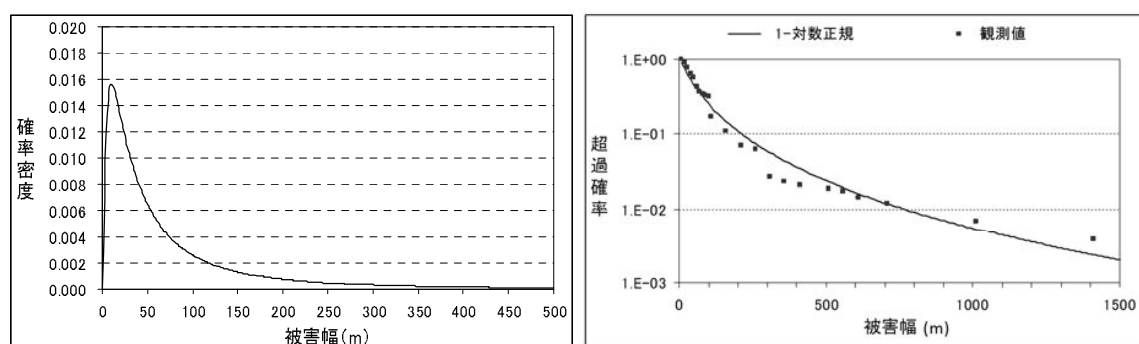
第1.2-39図 竜巻の年発生数(出典:気象庁ホームページ)



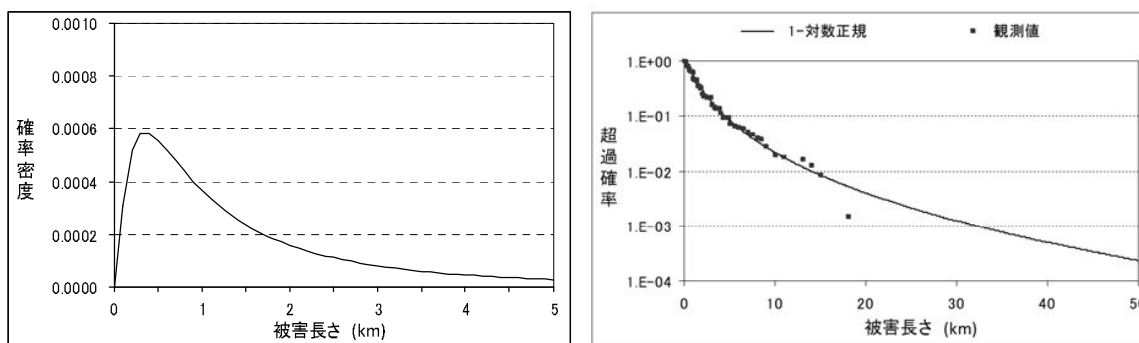
第1.2-40図 竜巻検討地域における竜巻の年発生数の累積頻度



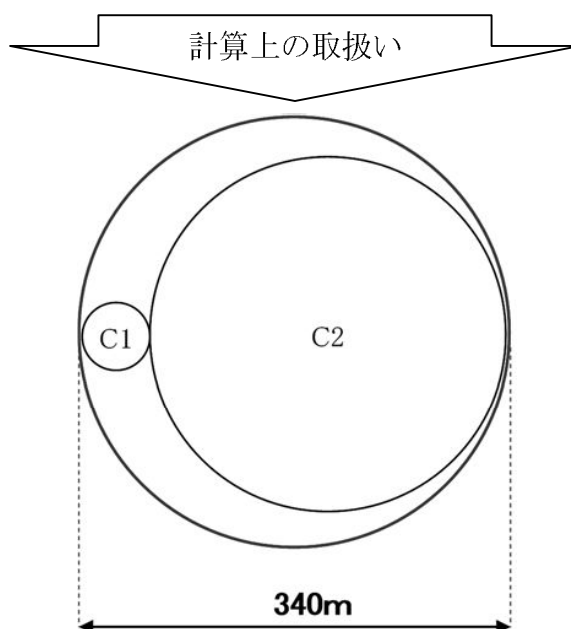
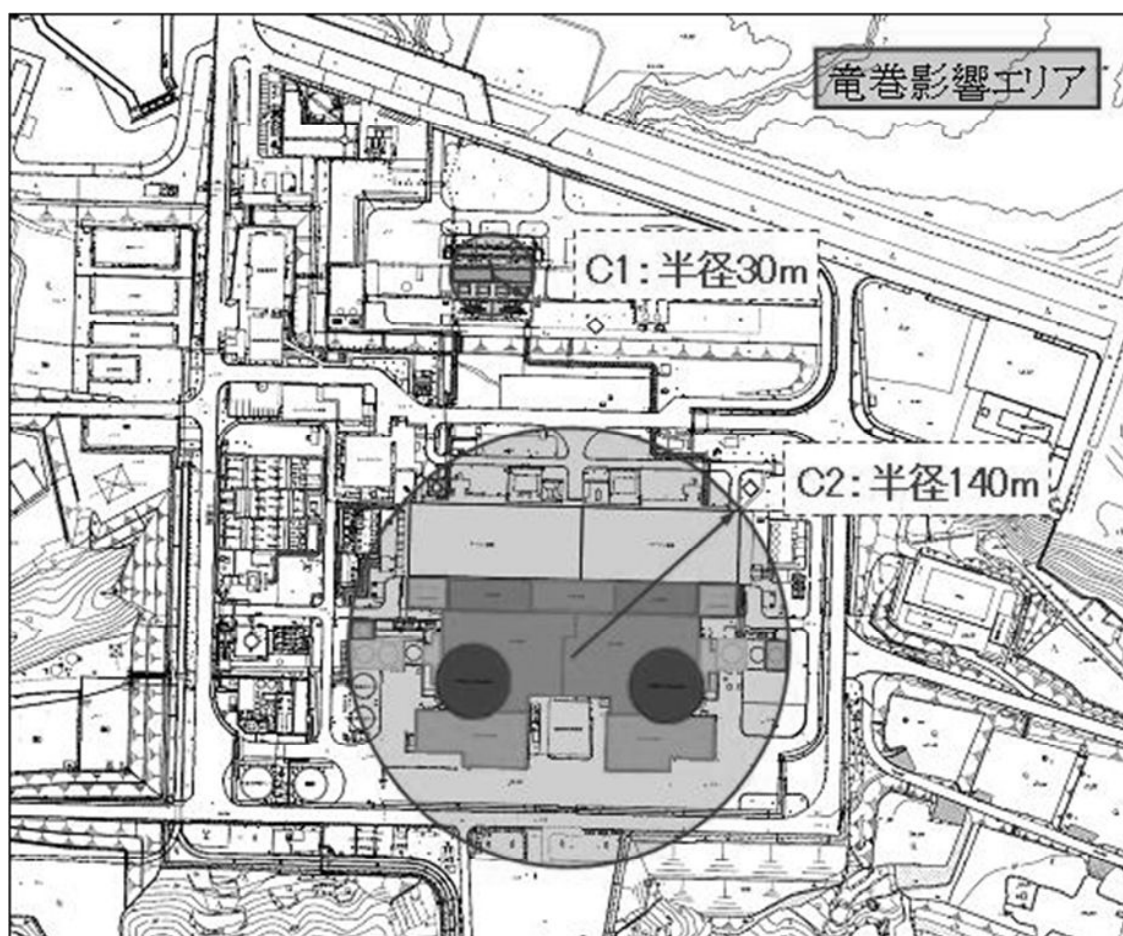
第1.2-41図 風速の確率密度分布(左)と超過確率(右)



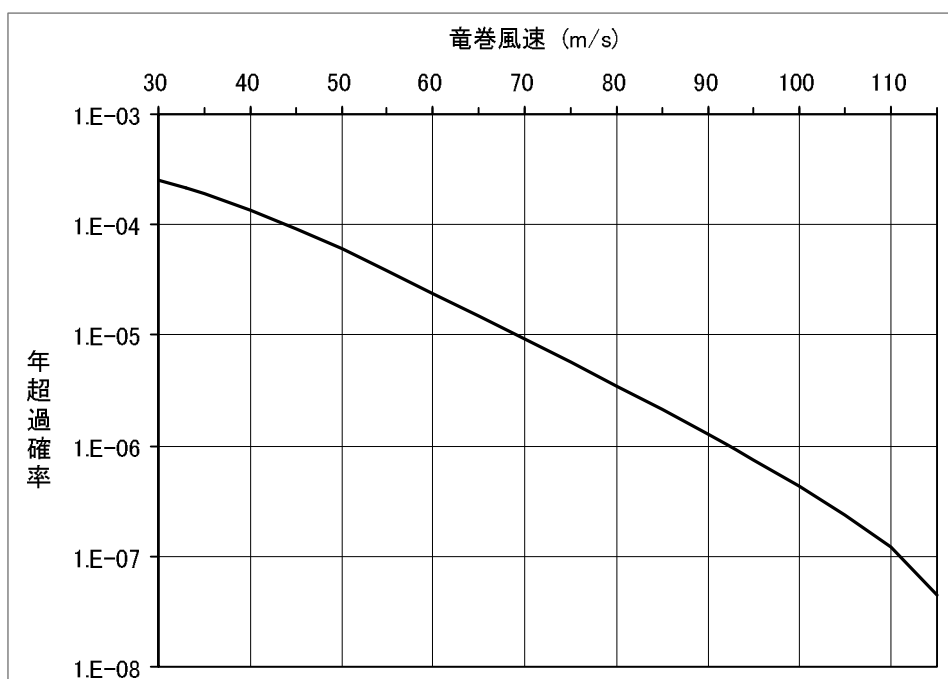
第1.2-42図 被害幅の確率密度分布(左)と超過確率(右)



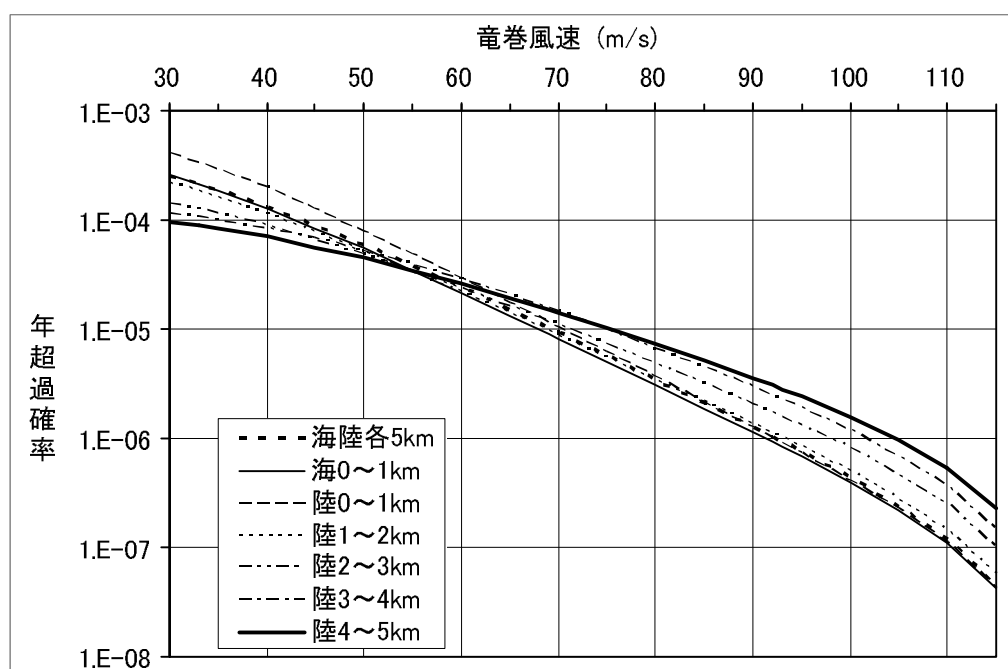
第1.2-43図 被害長さの確率密度分布(左)と超過確率(右)



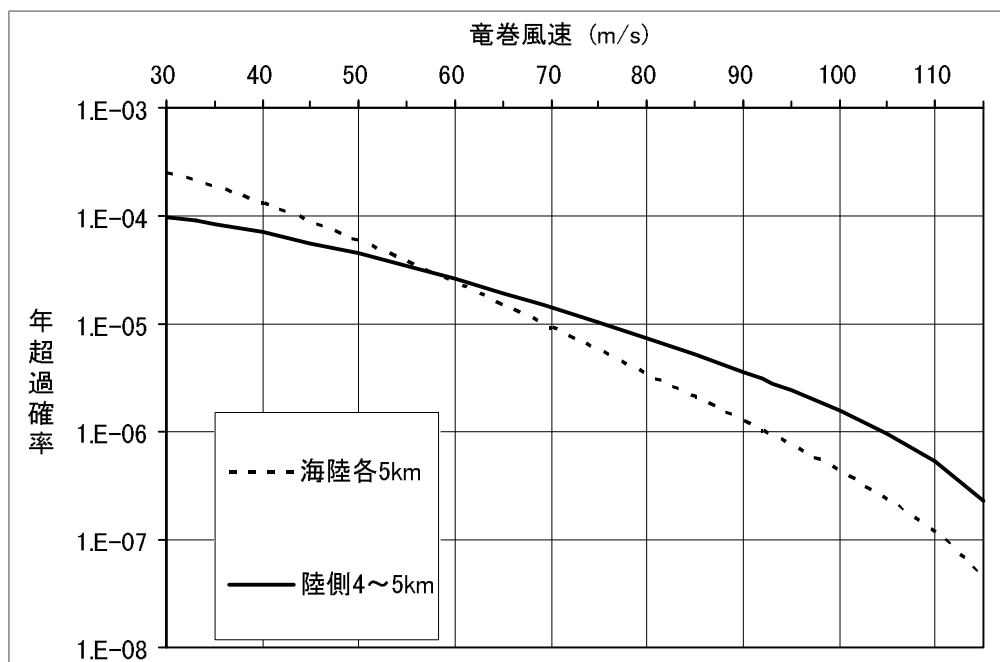
第1.2-44図 竜巻影響エリア



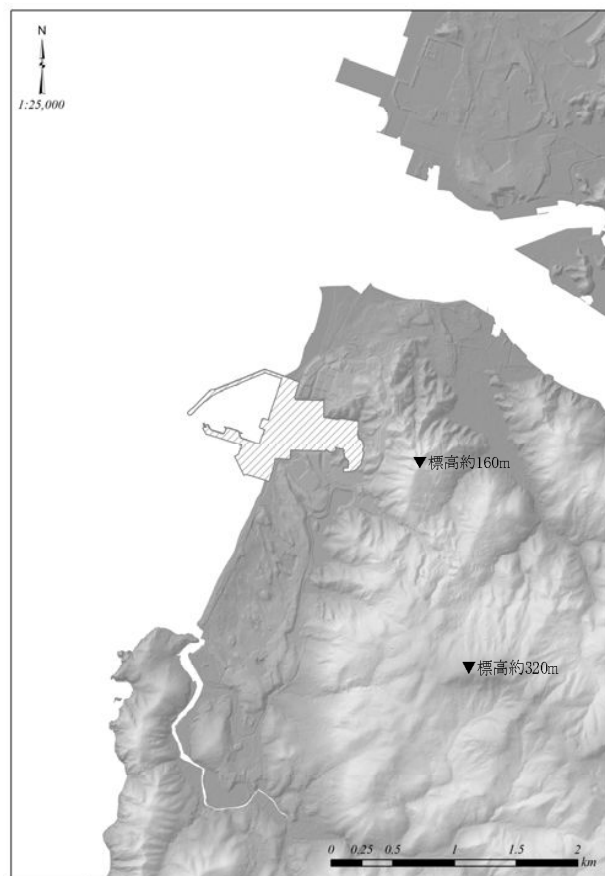
第1.2-45図 竜巻最大風速のハザード曲線(海側、陸側5km範囲)



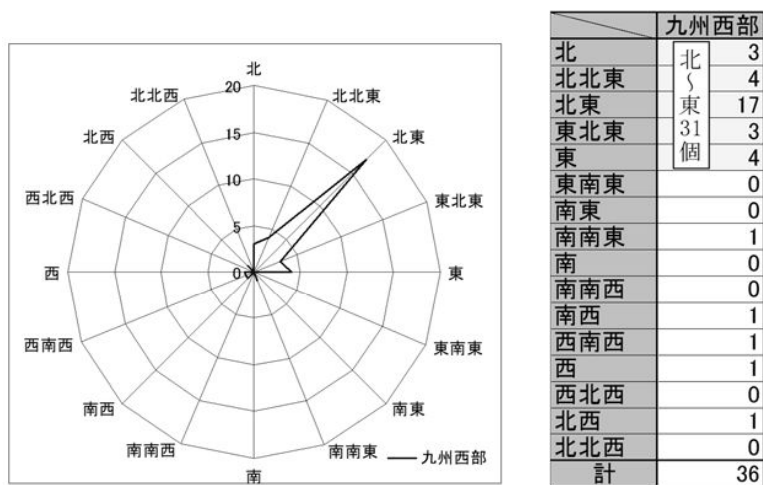
第1.2-46図 竜巻最大風速のハザード曲線(1km範囲)



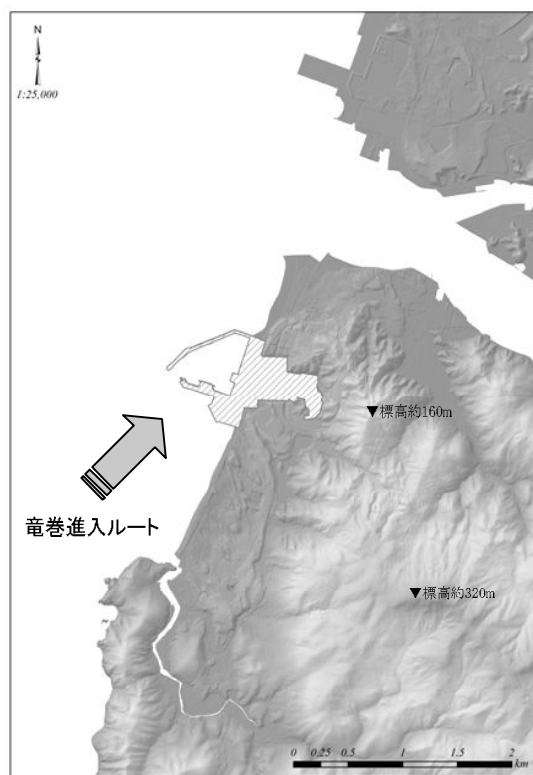
第1.2-47図 竜巻最大風速のハザード曲線



第1.2-48図 川内原子力発電所周辺の地形



第1.2-49図 九州西部で発生した竜巻の移動方向

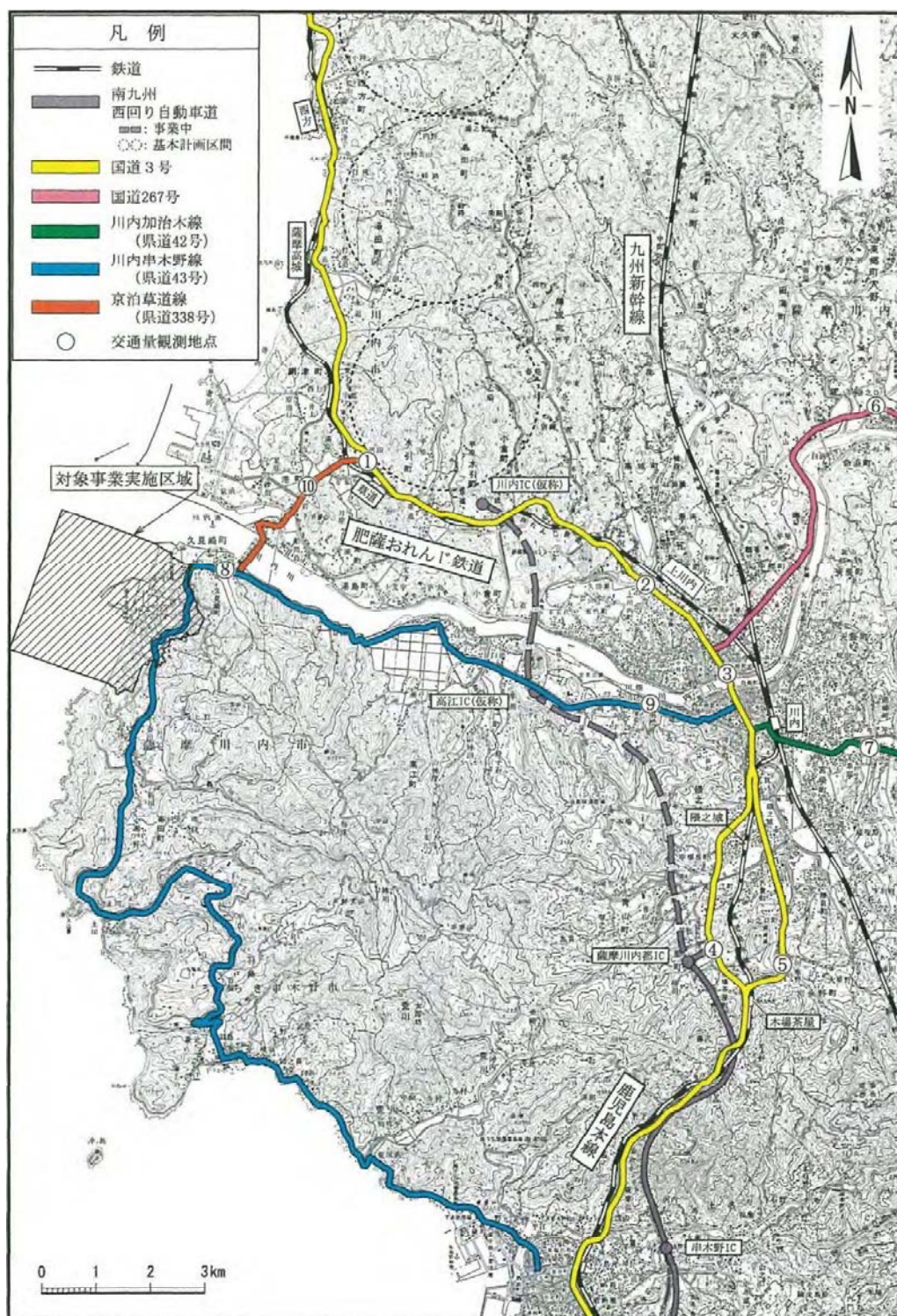


第1.2-50図 竜巻の移動方向と川内原子力発電所の位置関係





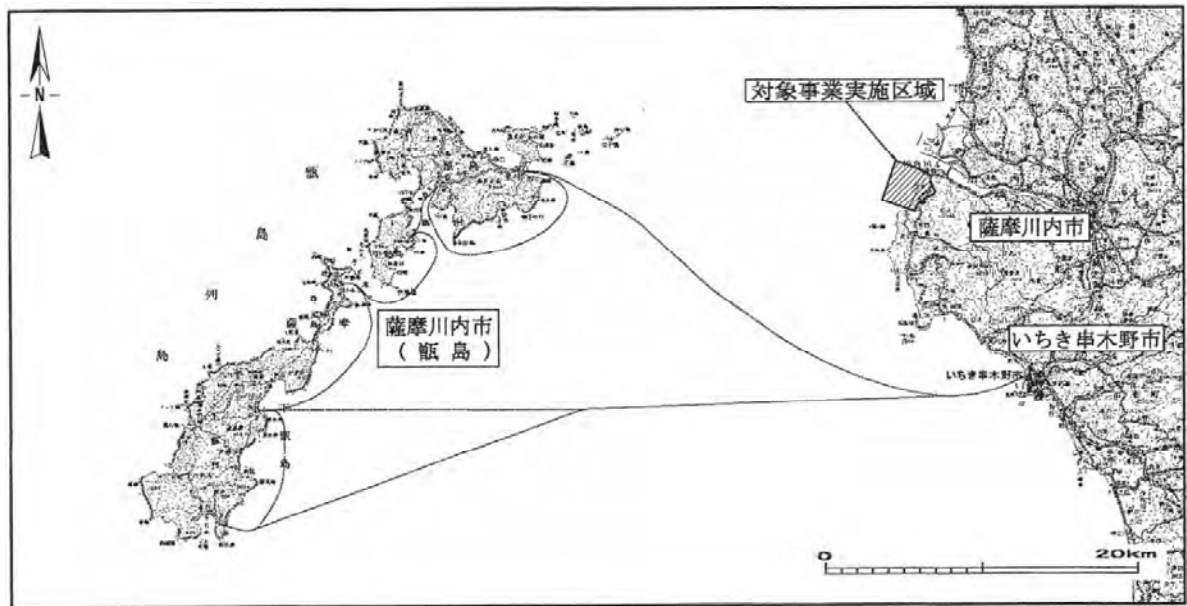
第 1.2-51 図 川内原子力発電所周辺のコンビナート施設の位置図



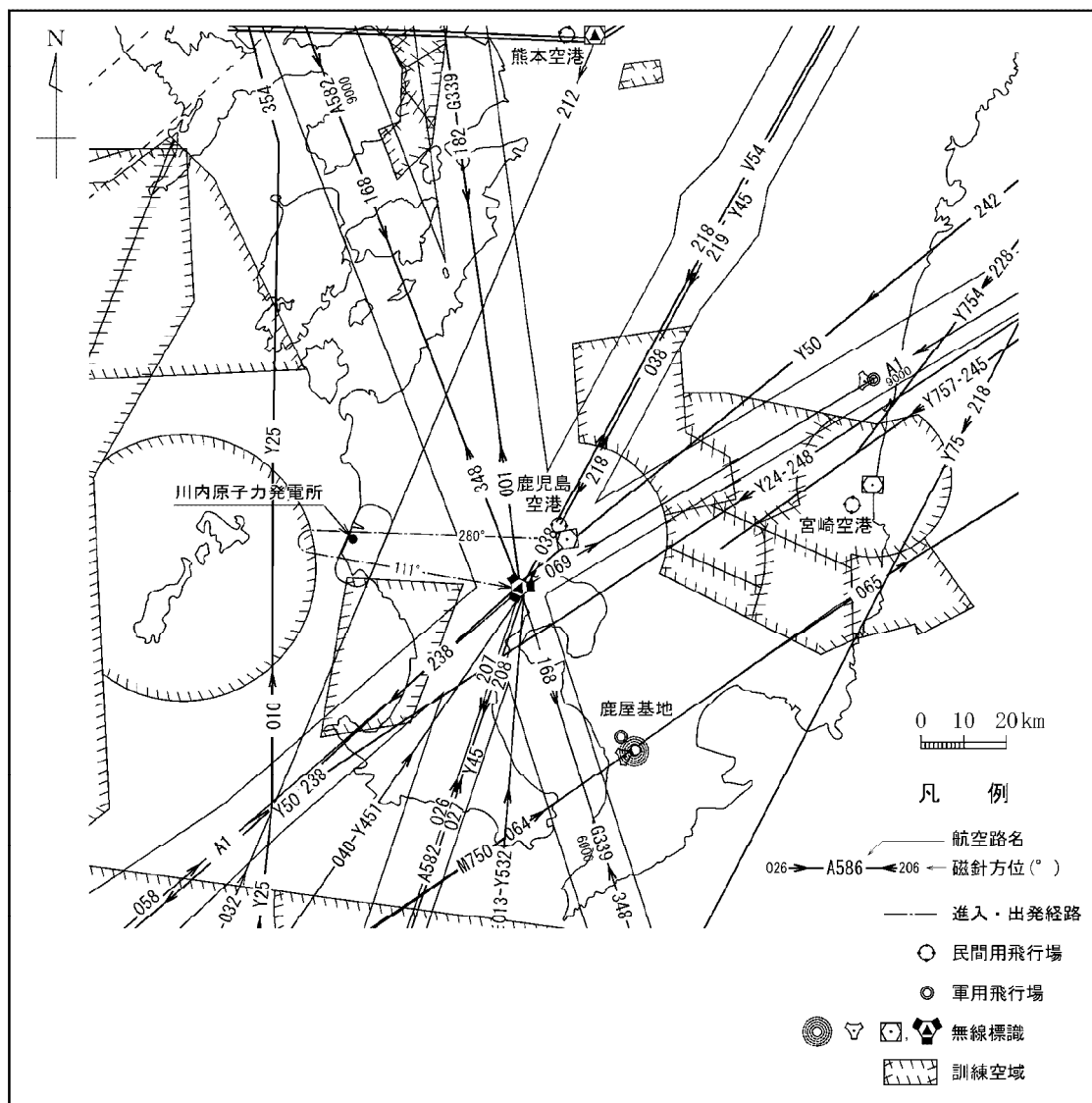
「平成17年度 道路交通センサス一般交通量図」(国土交通省、平成19年)

「未来へと、ふれあいひろげる 南九州西回り自動車道」(国土交通省、平成19年)より作成

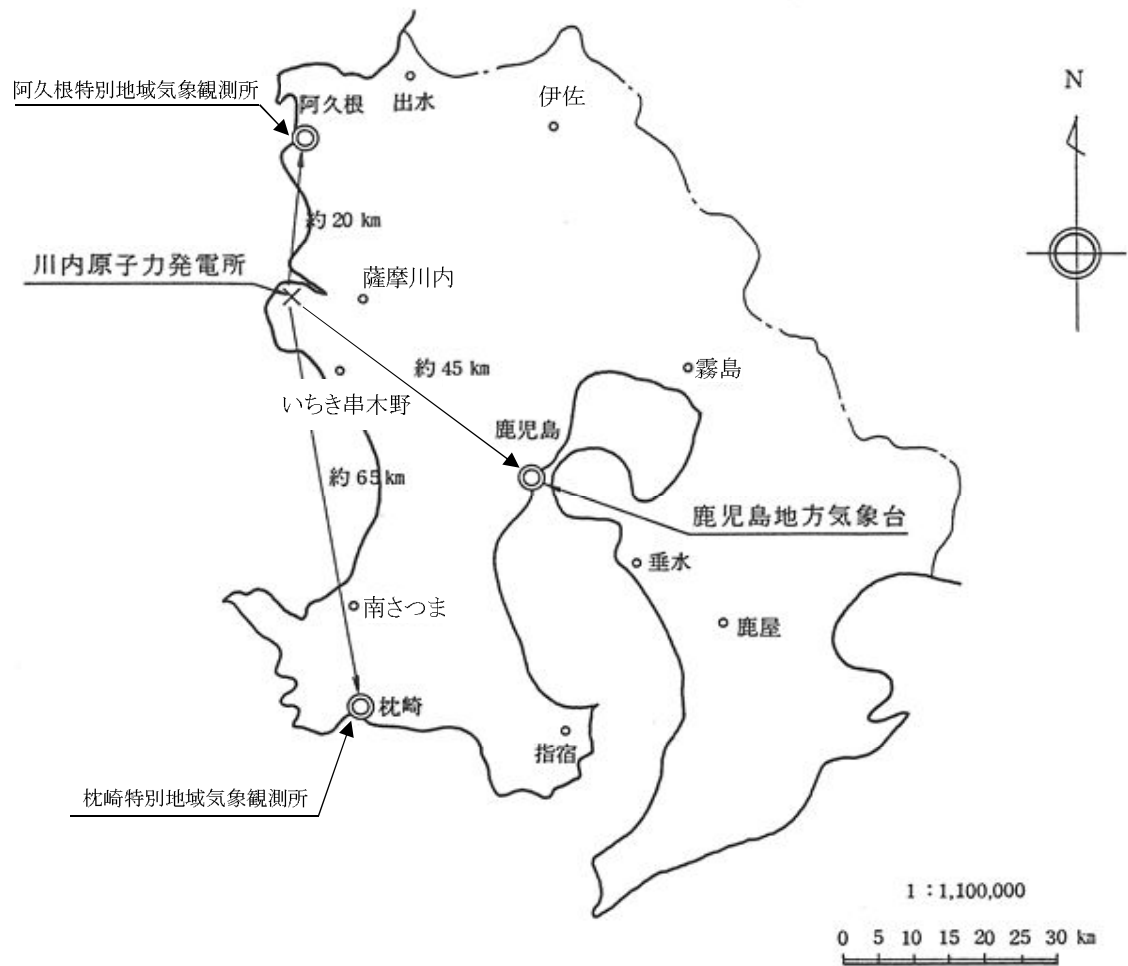
第1.2-52図 主要な道路、鉄道及び交通量観測位置



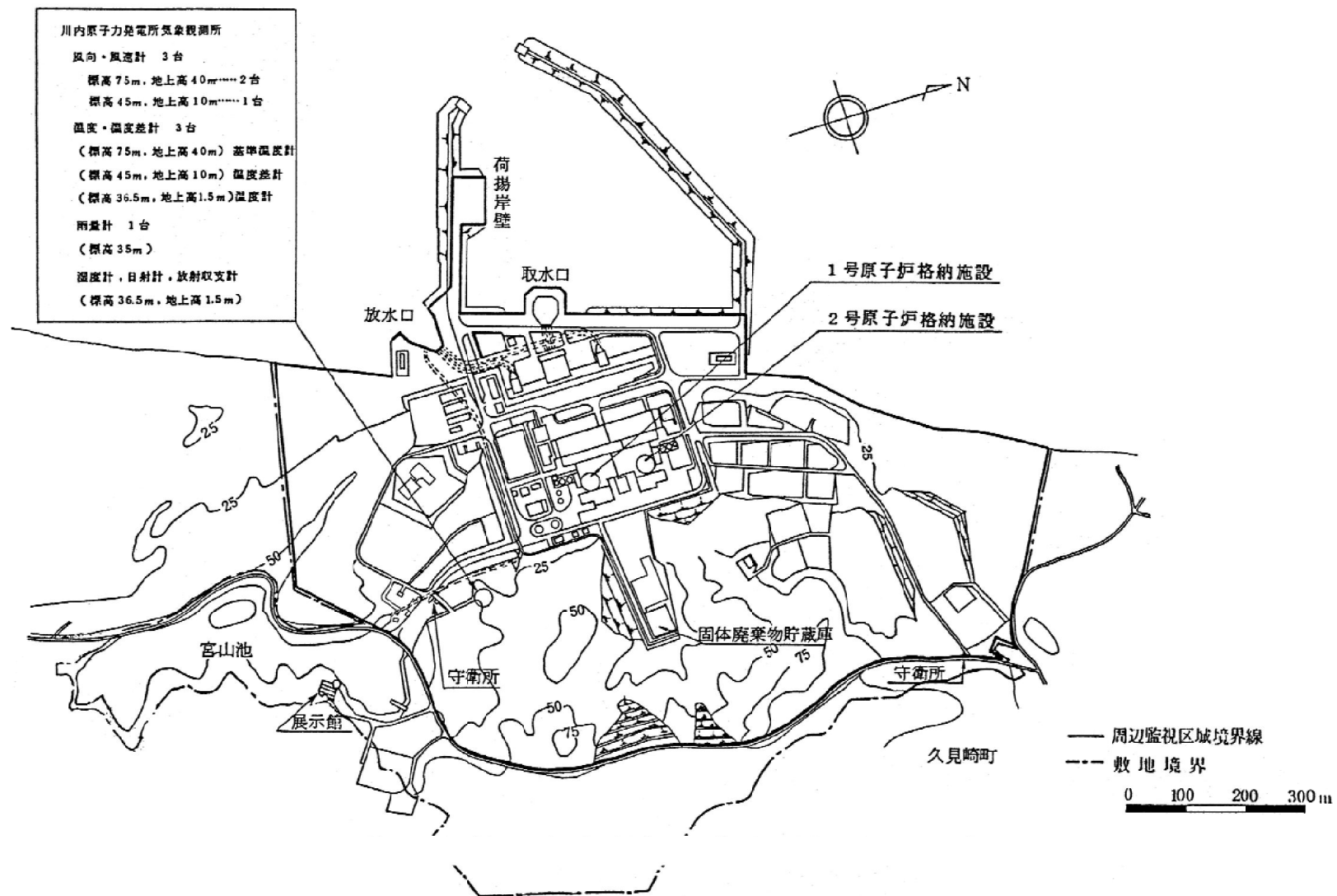
第 1.2-53 図 甌島航路の位置



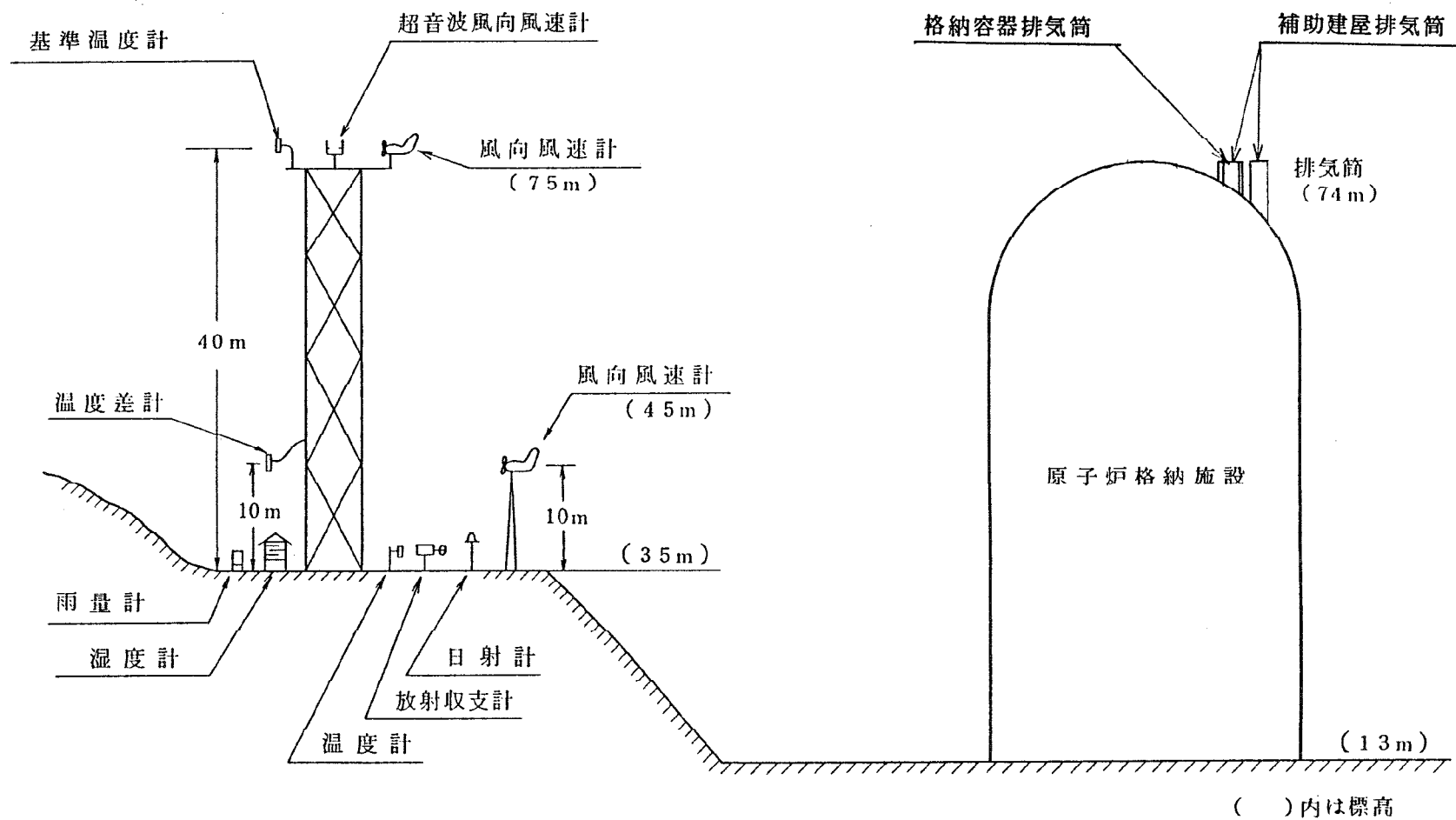
第 1.2-54 図 航空路等図



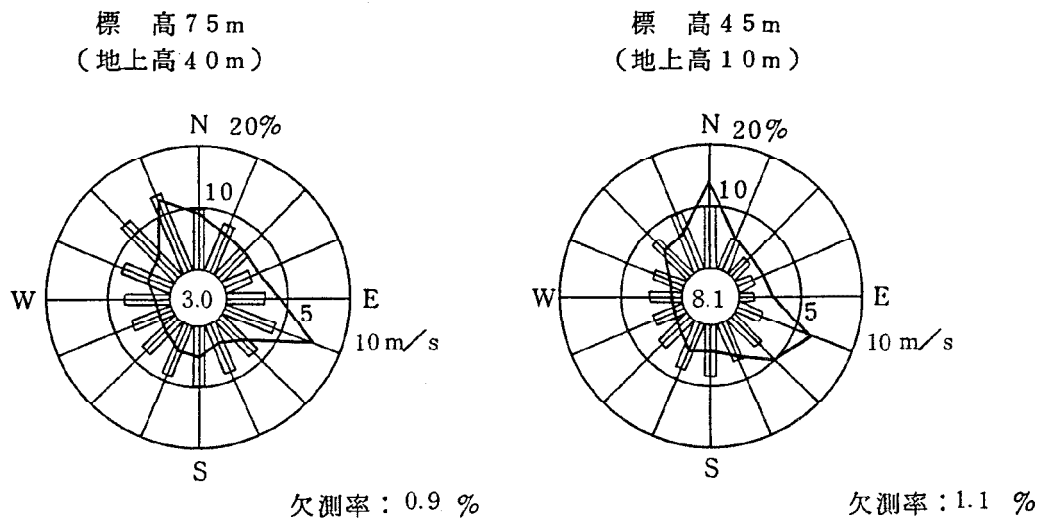
第1.2-55図 気象官署の所在地



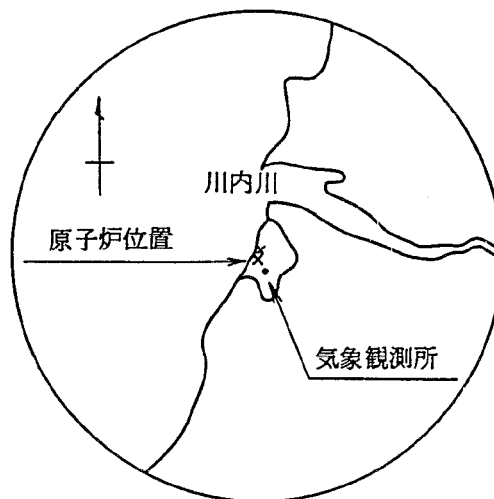
第1.2-56図(1) 気象観測設備配置図(その1)



第1.2-56図(2) 気象観測設備配置図(その2)

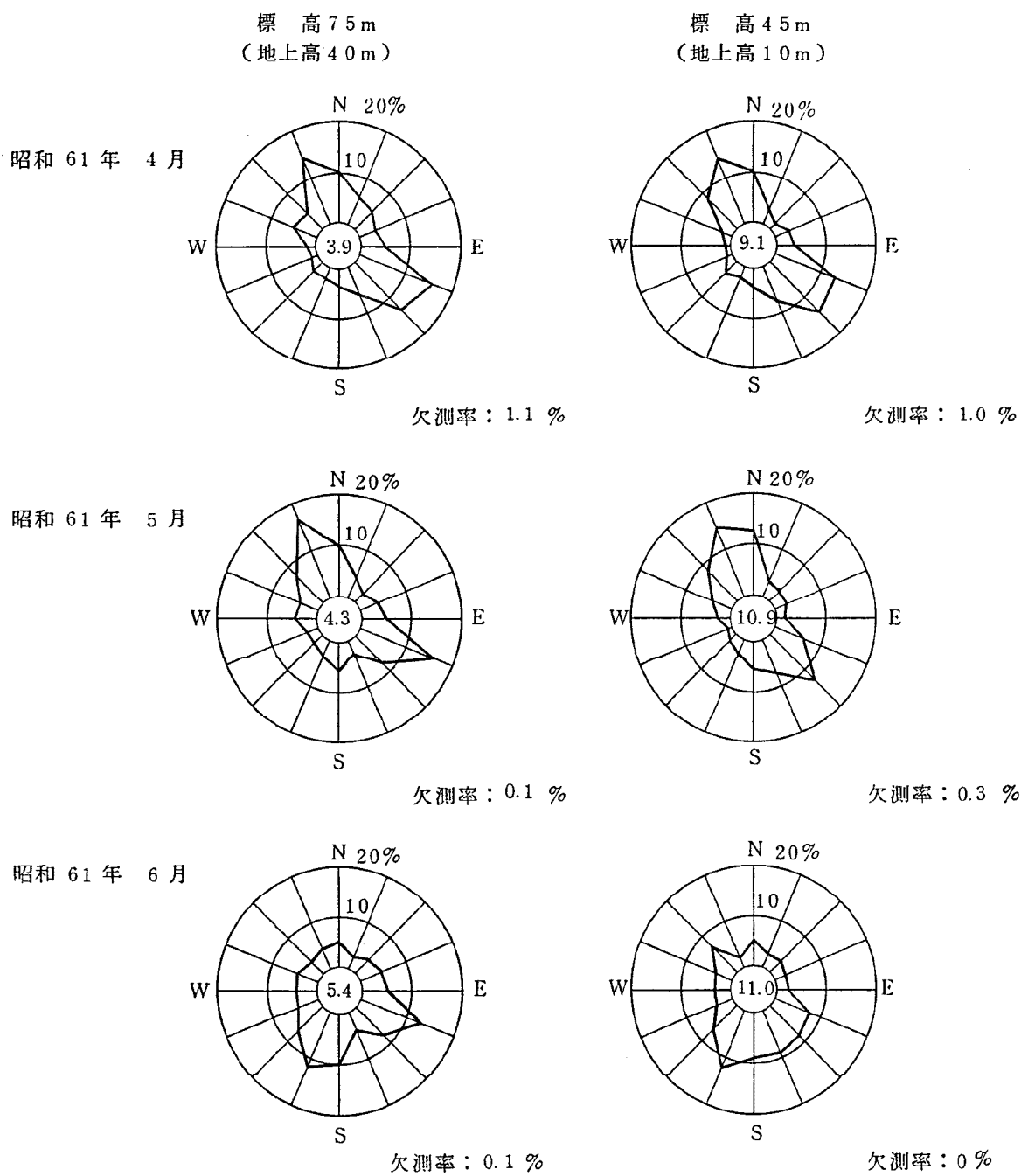


- 注) 1. — 風向出現頻度 (%)  
 2. 小円内の数字は静穏 (0.5 m/s 未満) の頻度 (%)



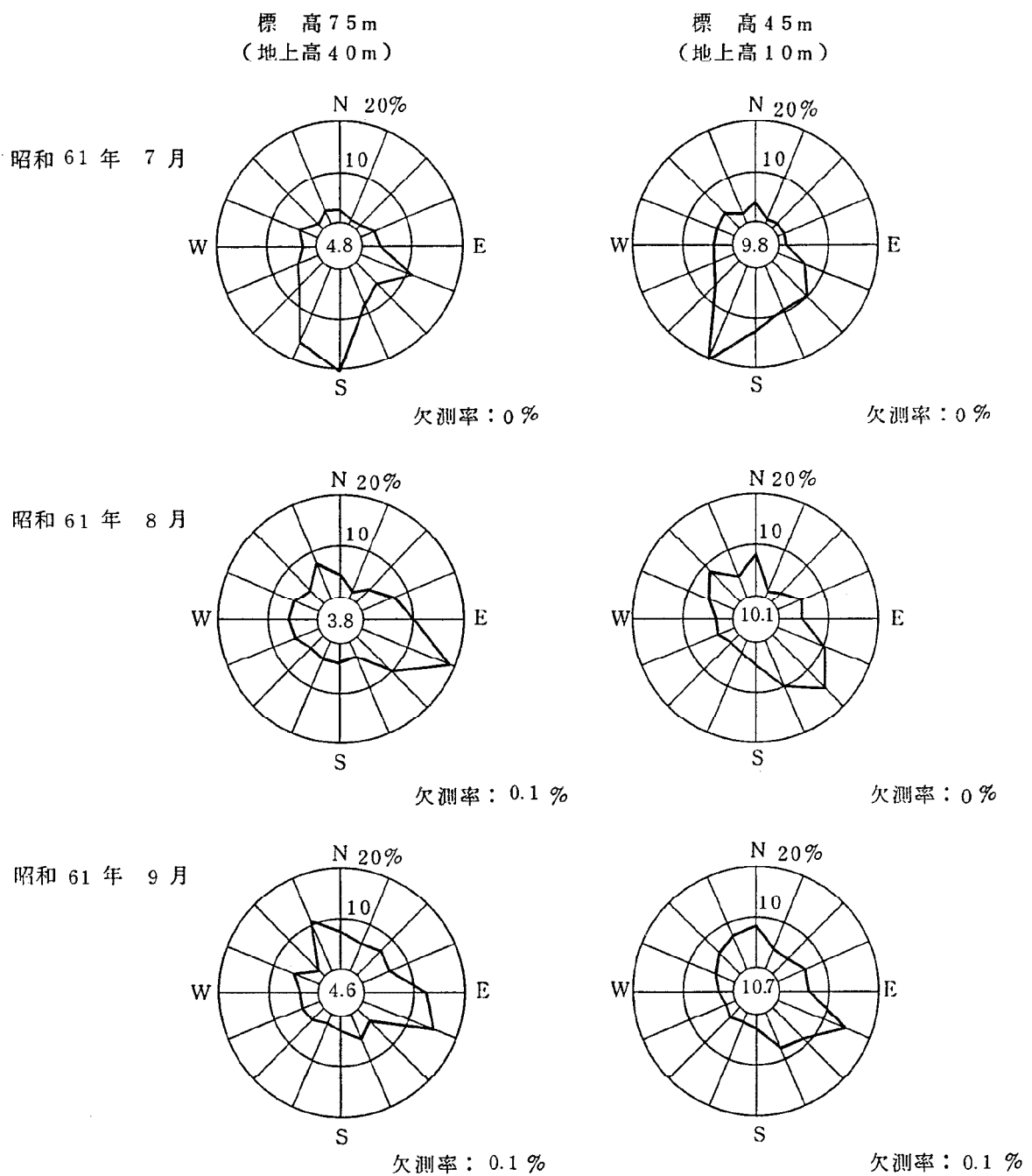
第1.2-57図 敷地の風配図(全年)





注) 小円内の数字は静穏 (0.5 m/s 未満) の頻度 (%)

第1.2-58図(1) 敷地の風配図(その1)(4~6月)



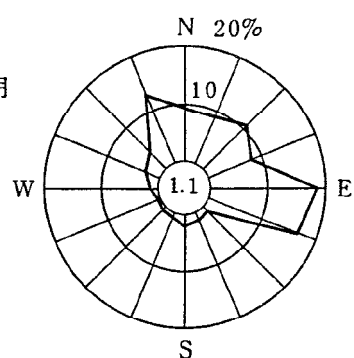
注) 小円内の数字は静穏 (0.5 m/s 未満) の頻度 (%)

第1.2-58図(2) 敷地の風配図(その2)(7~9月)

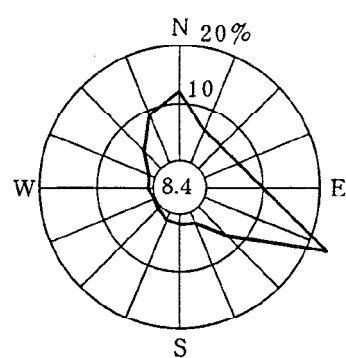
標 高 75 m  
(地上高 40 m)

標 高 45 m  
(地上高 10 m)

昭和 61 年 10 月

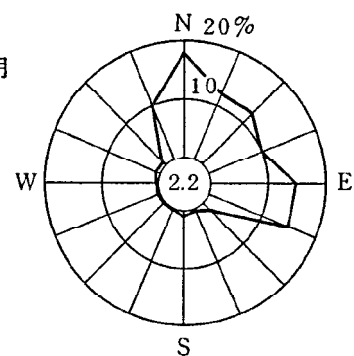


欠測率：0.9 %

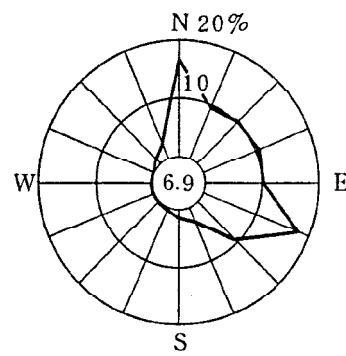


欠測率：0.5 %

昭和 61 年 11 月

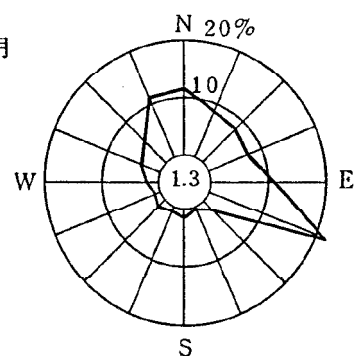


欠測率：0 %

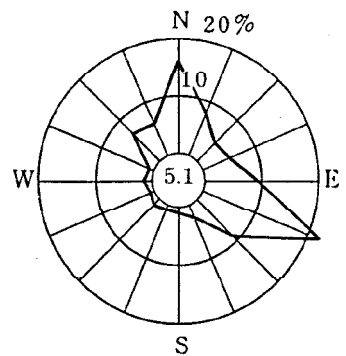


欠測率：0 %

昭和 61 年 12 月



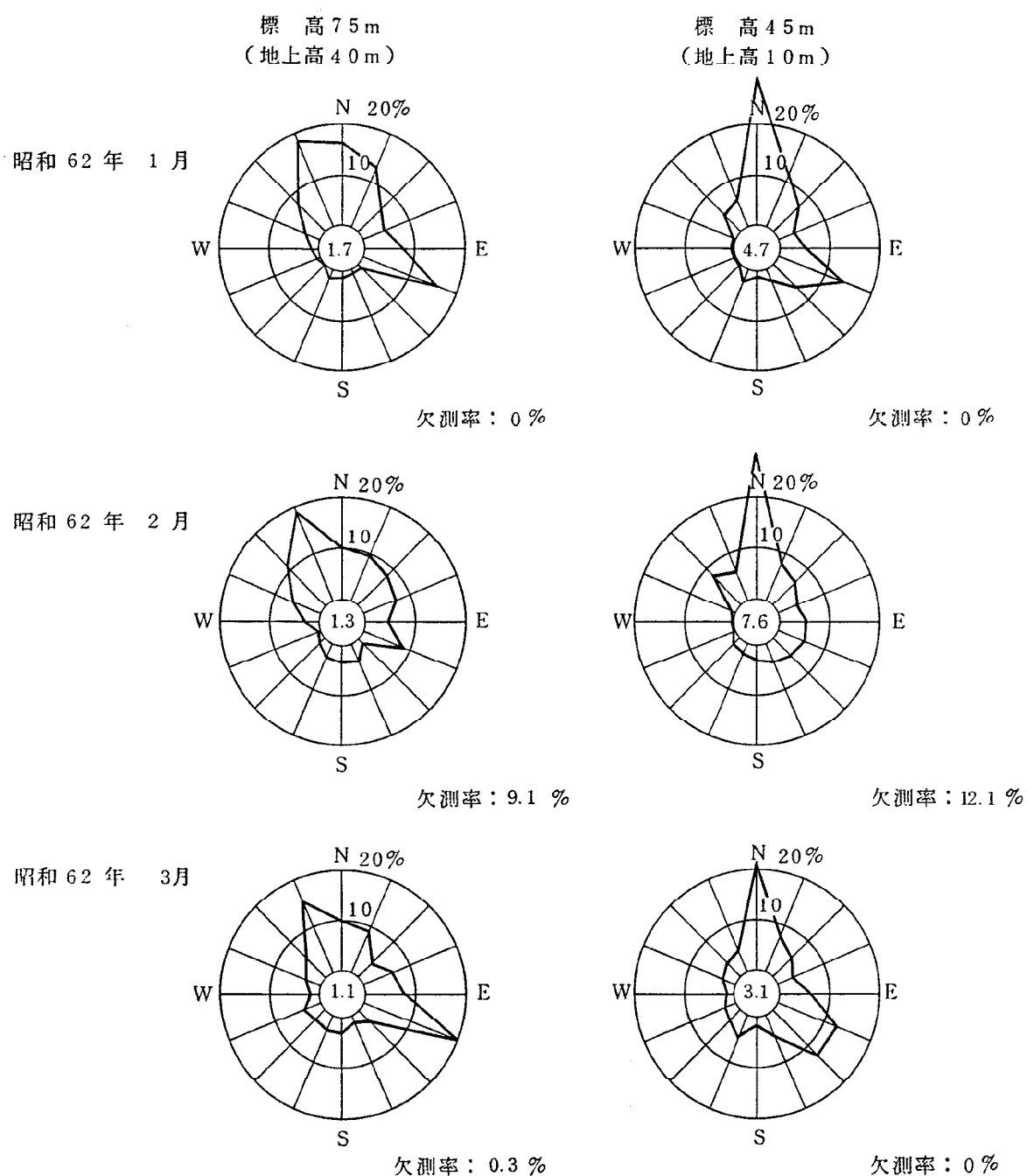
欠測率：0 %



欠測率：0 %

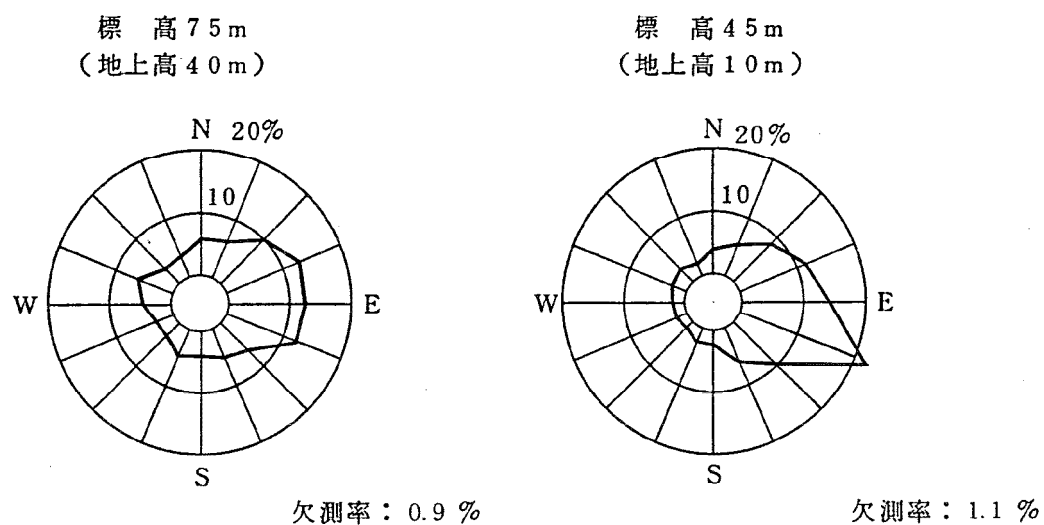
注) 小円内の数字は静穏 (0.5 m/s 未満) の頻度 (%)。

第1.2-58図(3) 敷地の風配図(その3)(10~12月)



注) 小円内の数字は静穏 (0.5 m/s 未満) の頻度 (%)。

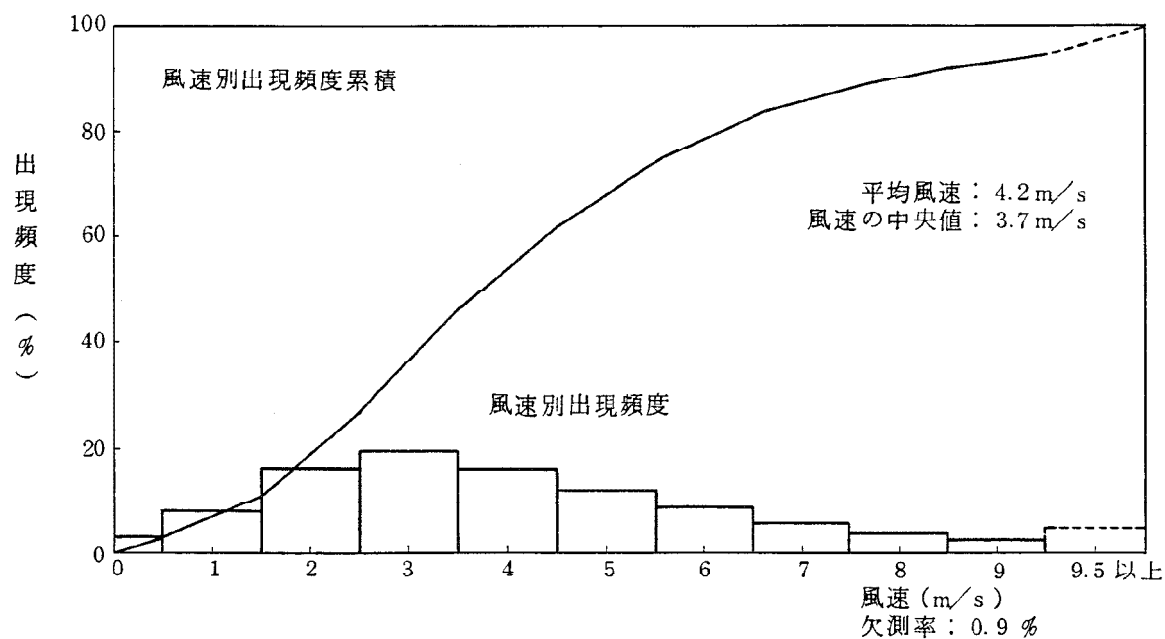
第1.2-58図(4) 敷地の風配図(その4)(1~3月)



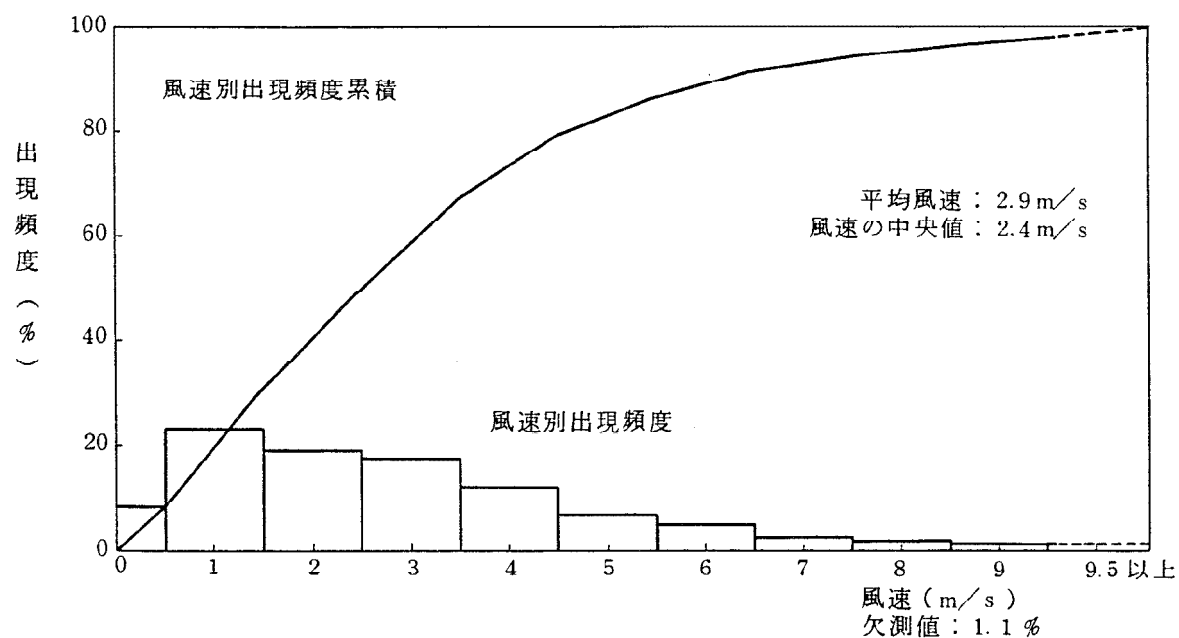
低風速 (0.5 ~ 2.0 m/s) の出現頻度

| 観 測 点   | 出現頻度 (%) |
|---------|----------|
| 標高 45 m | 34.8     |
| 標高 75 m | 16.8     |

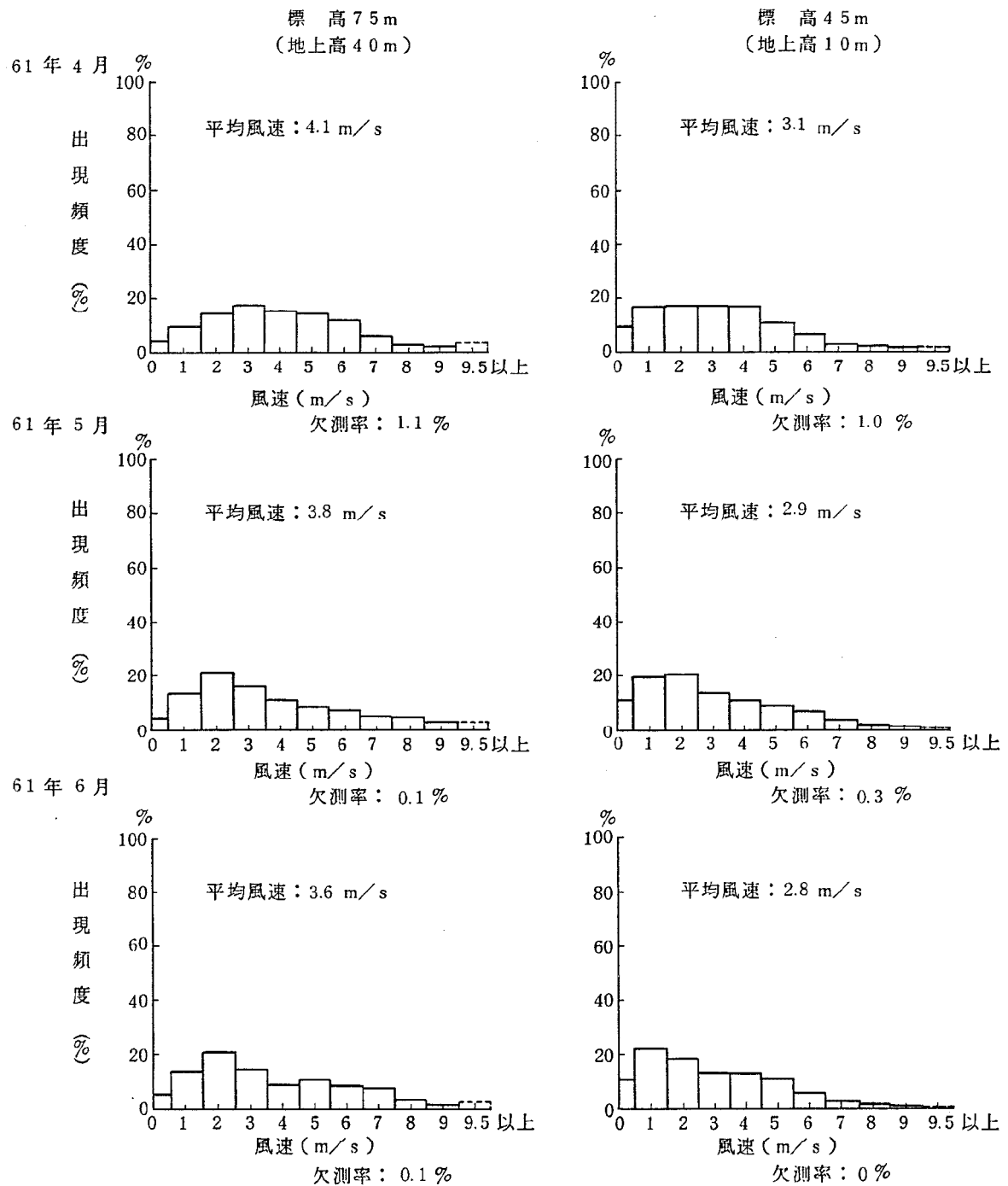
第1.2-59図 低風速 (0.5~2.0m/s) 時の風配図



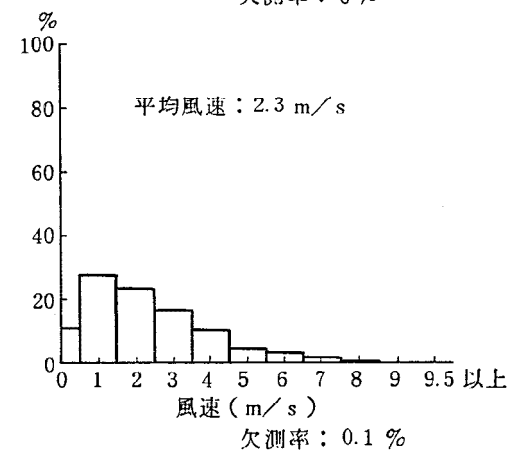
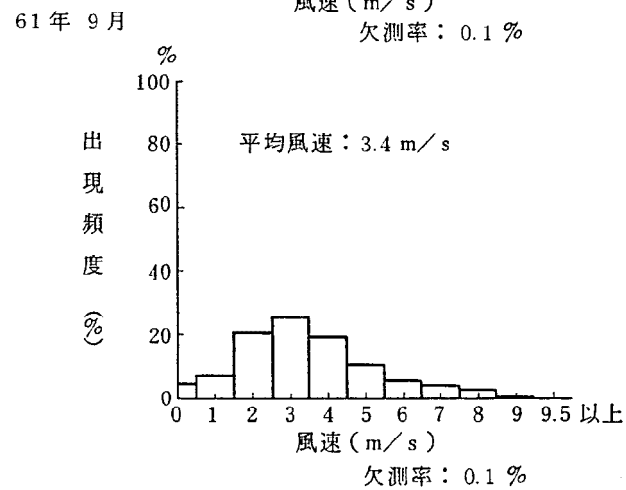
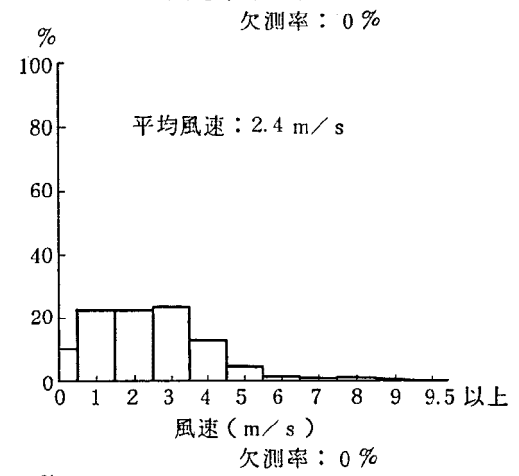
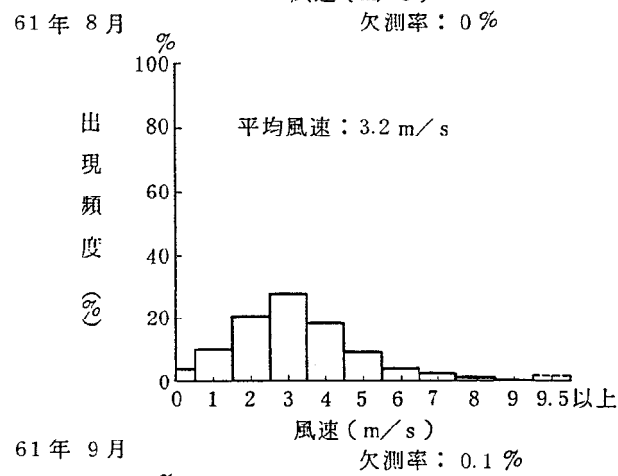
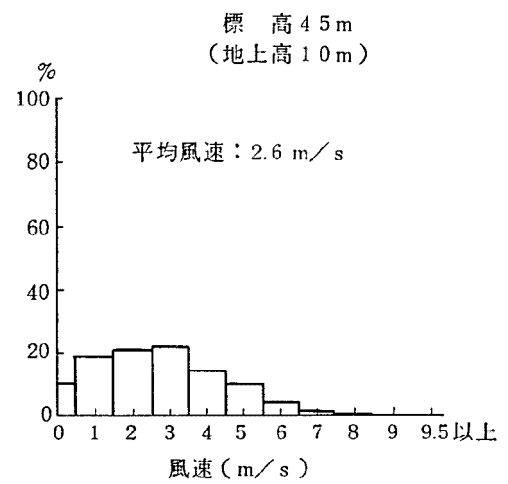
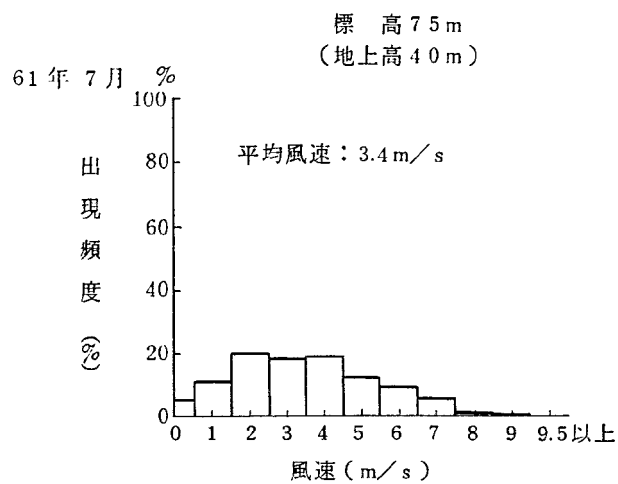
第1.2-60図(1) 年間風速別出現頻度及び風速別出現頻度累積  
(標高75m、地上高40m)



第1.2-60図(2) 年間風速別出現頻度及び風速別出現頻度累積  
(標高45m、地上高10m)

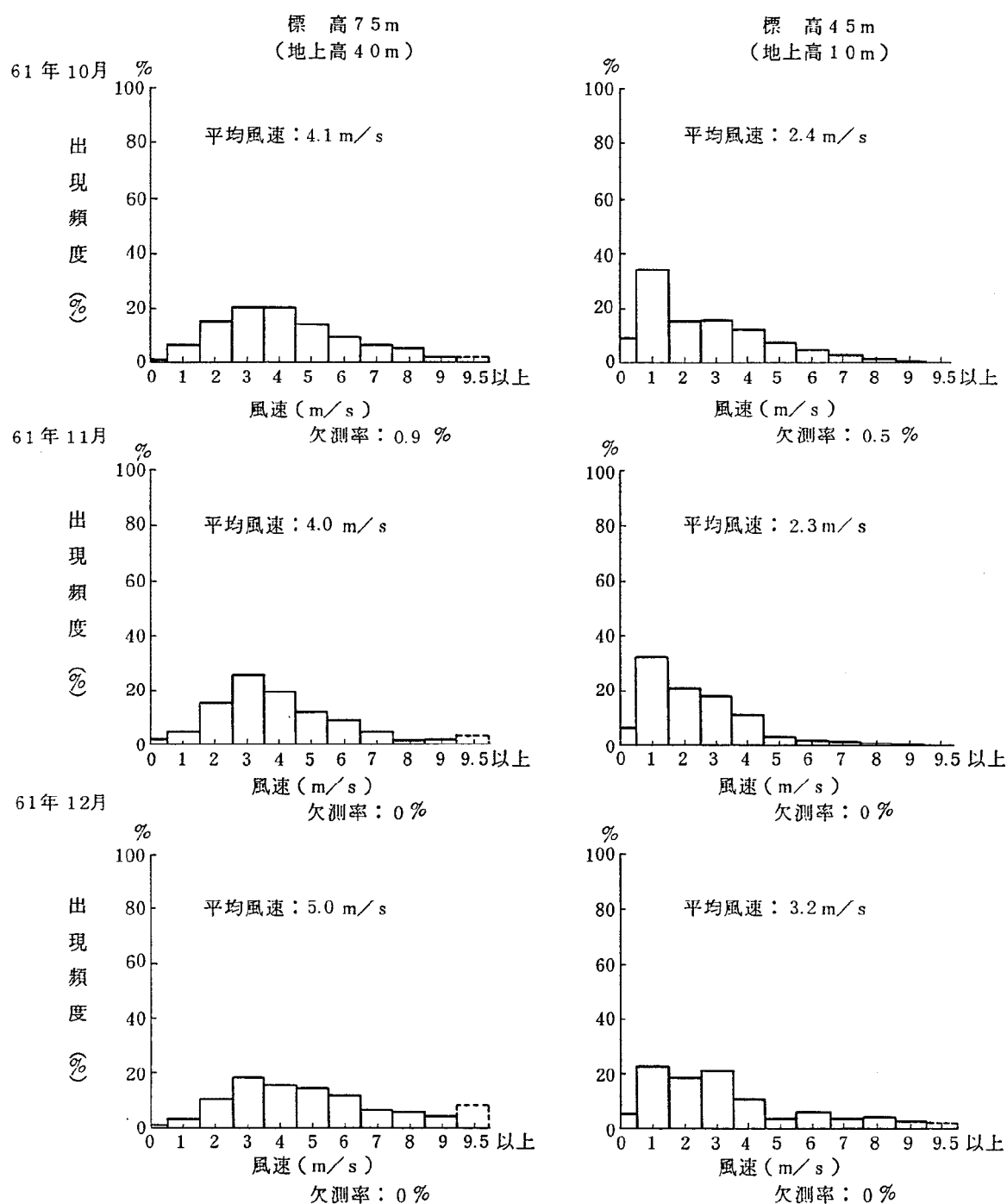


第1.2-61図(1) 月別風速別出現頻度(その1)(4~6月)

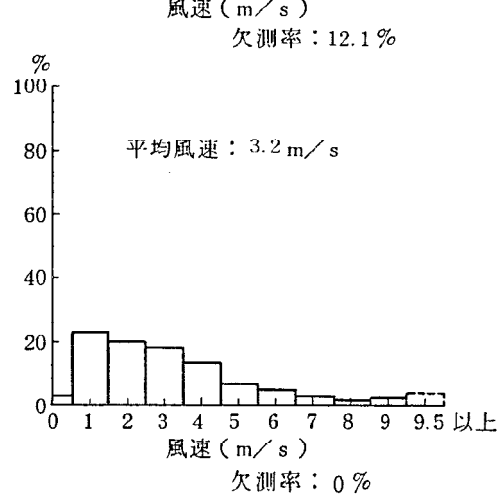
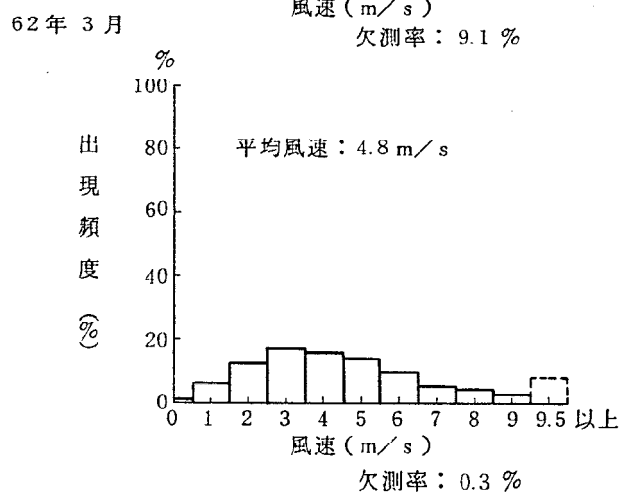
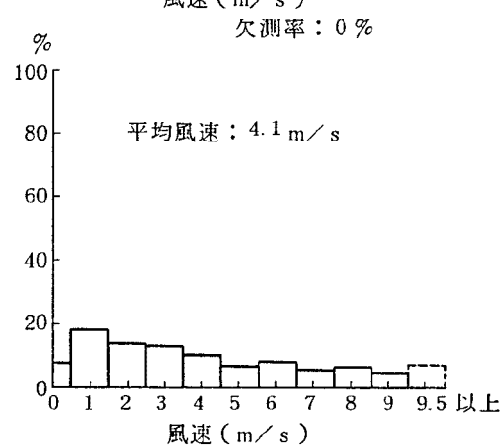
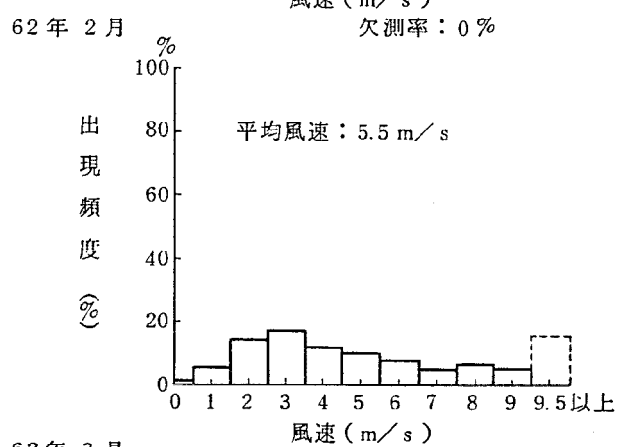
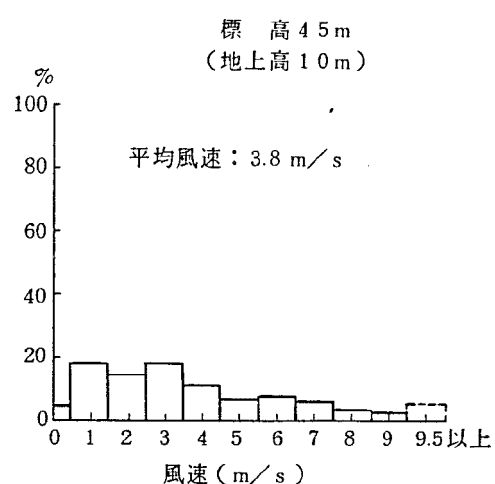
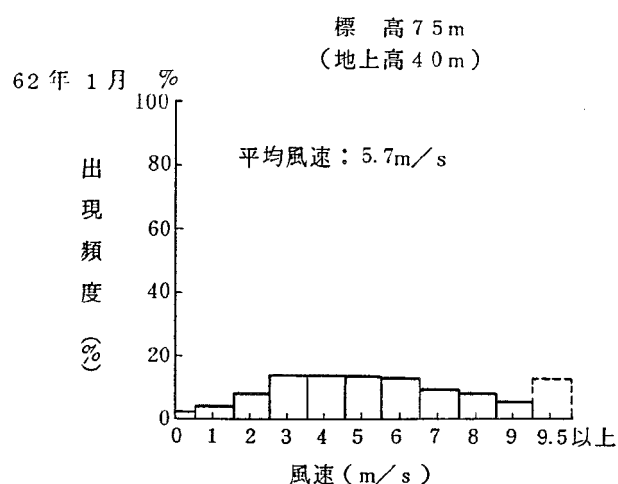


第1.2-61図(2) 月別風速別出現頻度(その2)(7~9月)

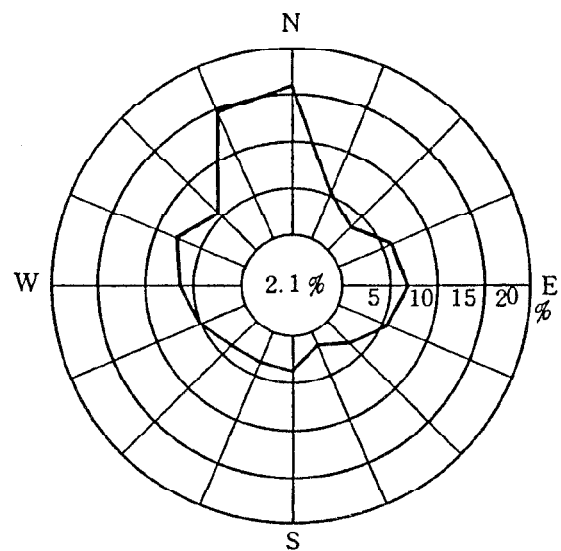




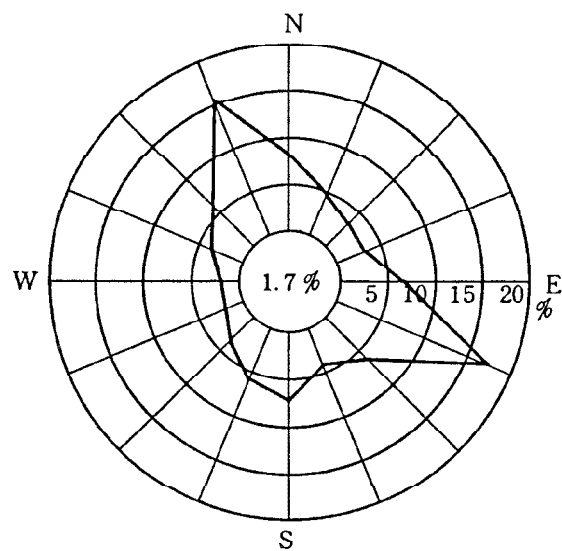
第1.2-61図(3) 月別風速別出現頻度(その3)(10~12月)



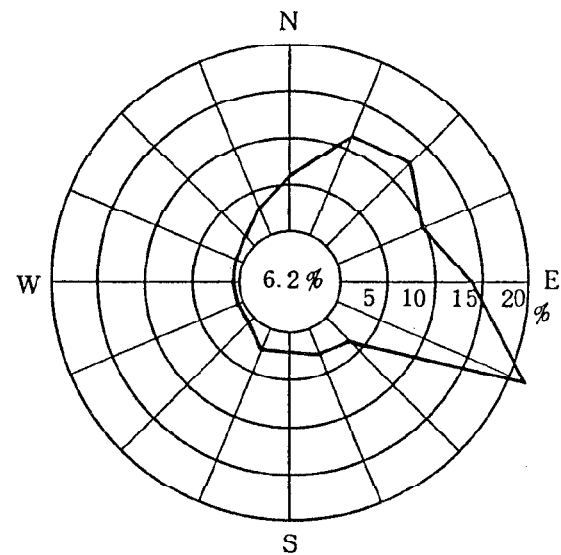
第1.2-61図(4) 月別風速別出現頻度(その4)(1~3月)



安定度 A, B, C型  
(出現頻度 23.8%)



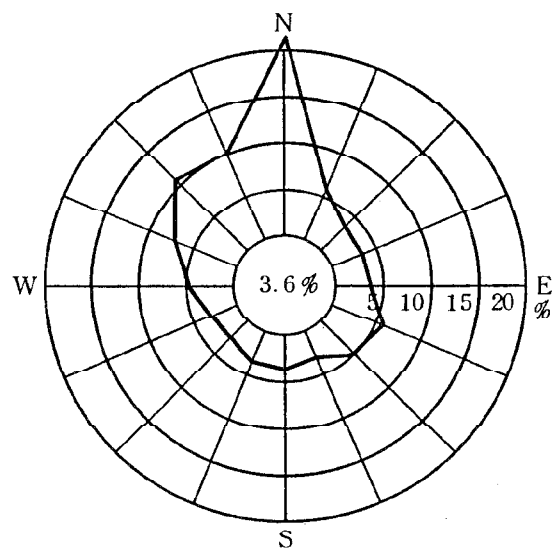
安定度 D型  
(出現頻度 49.4%)



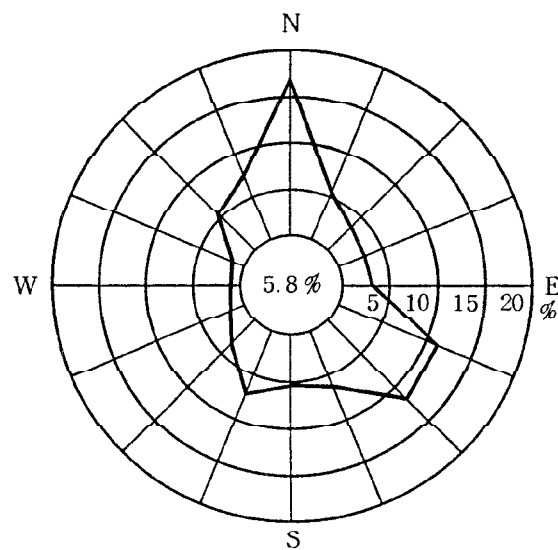
安定度 E, F, G型  
(出現頻度 26.9%)

注) 円内は静穏の出現頻度を示す。

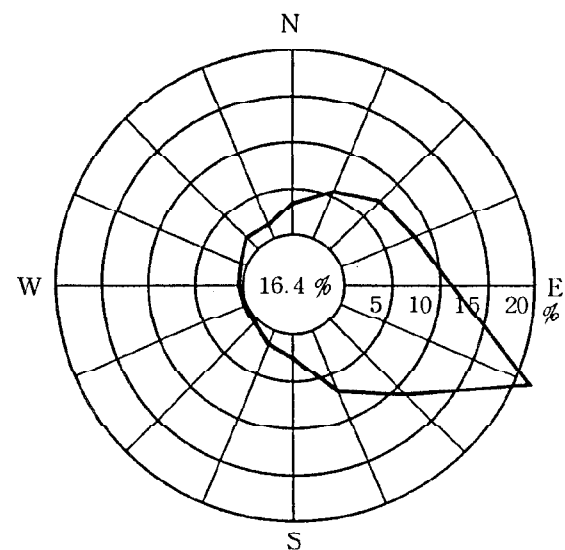
第1.2-62図(1) 年間大気安定度別風配図(標高75m、地上高40m)



安定度 A, B, C型  
(出現頻度 23.8%)



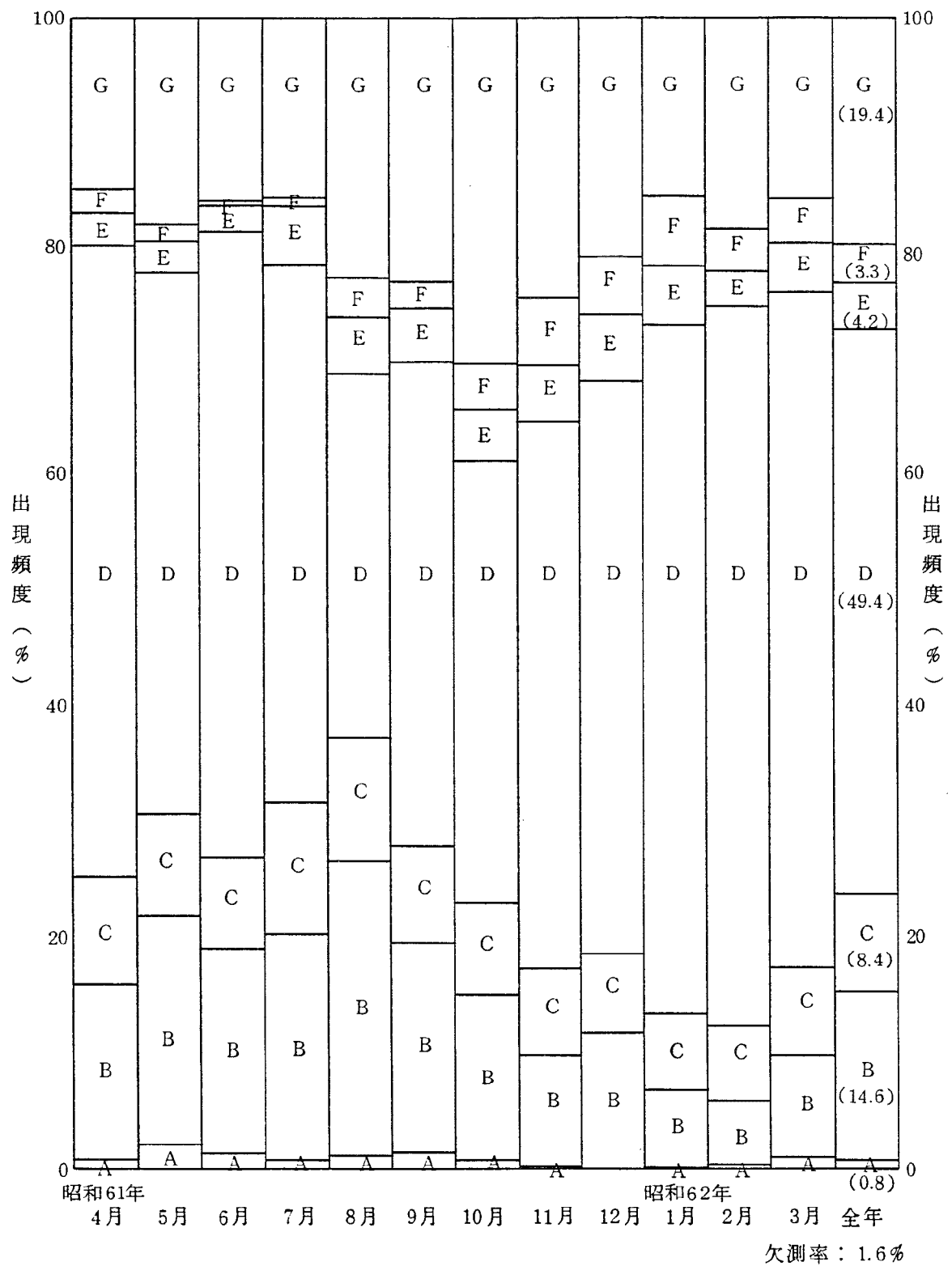
安定度 D型  
(出現頻度 49.4%)



安定度 E, F, G型  
(出現頻度 26.9%)

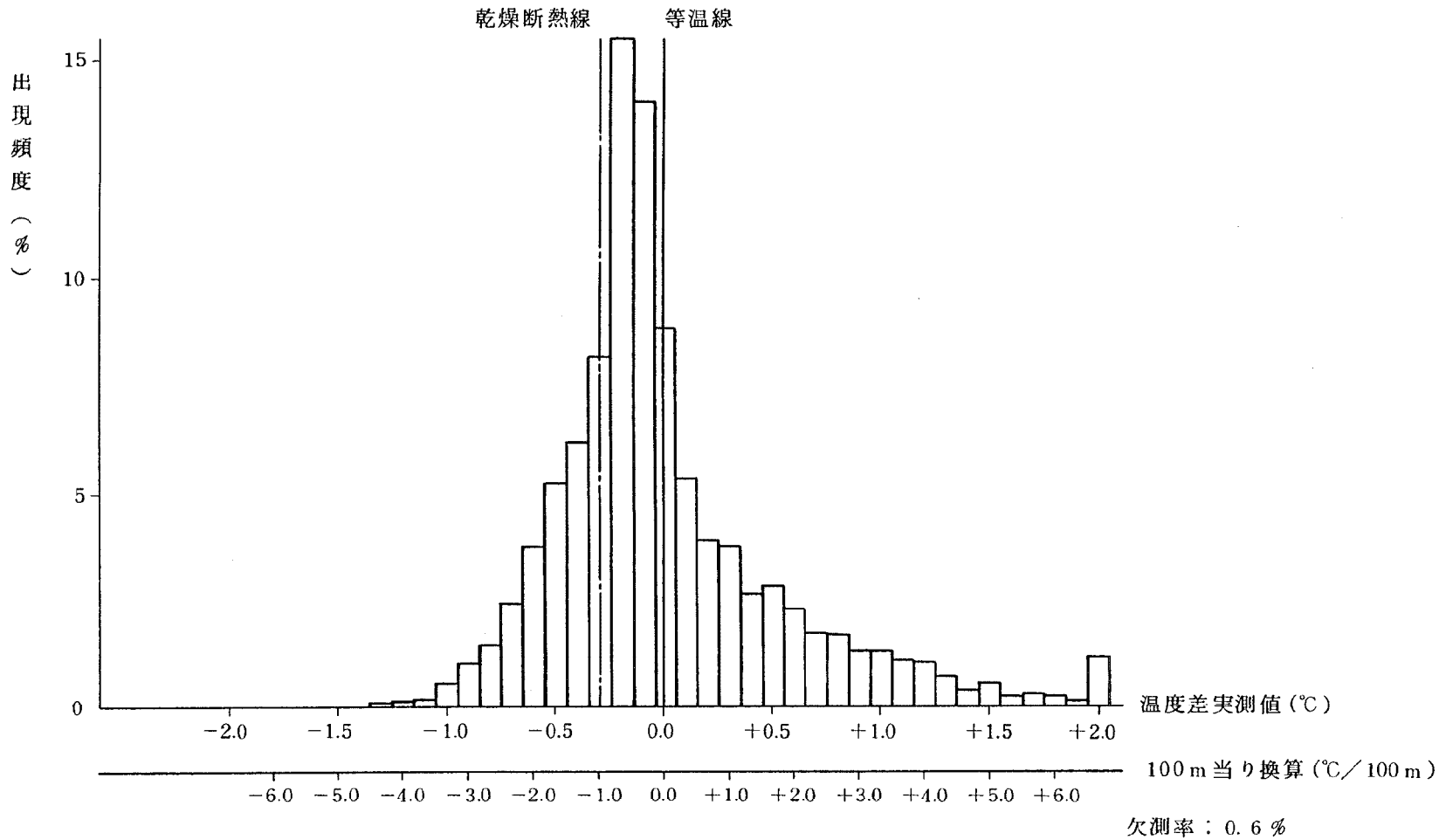
注) 円内は静穏の出現頻度を示す。

第1.2-62図(2) 年間大気安定度別風配図(標高45m、地上高10m)

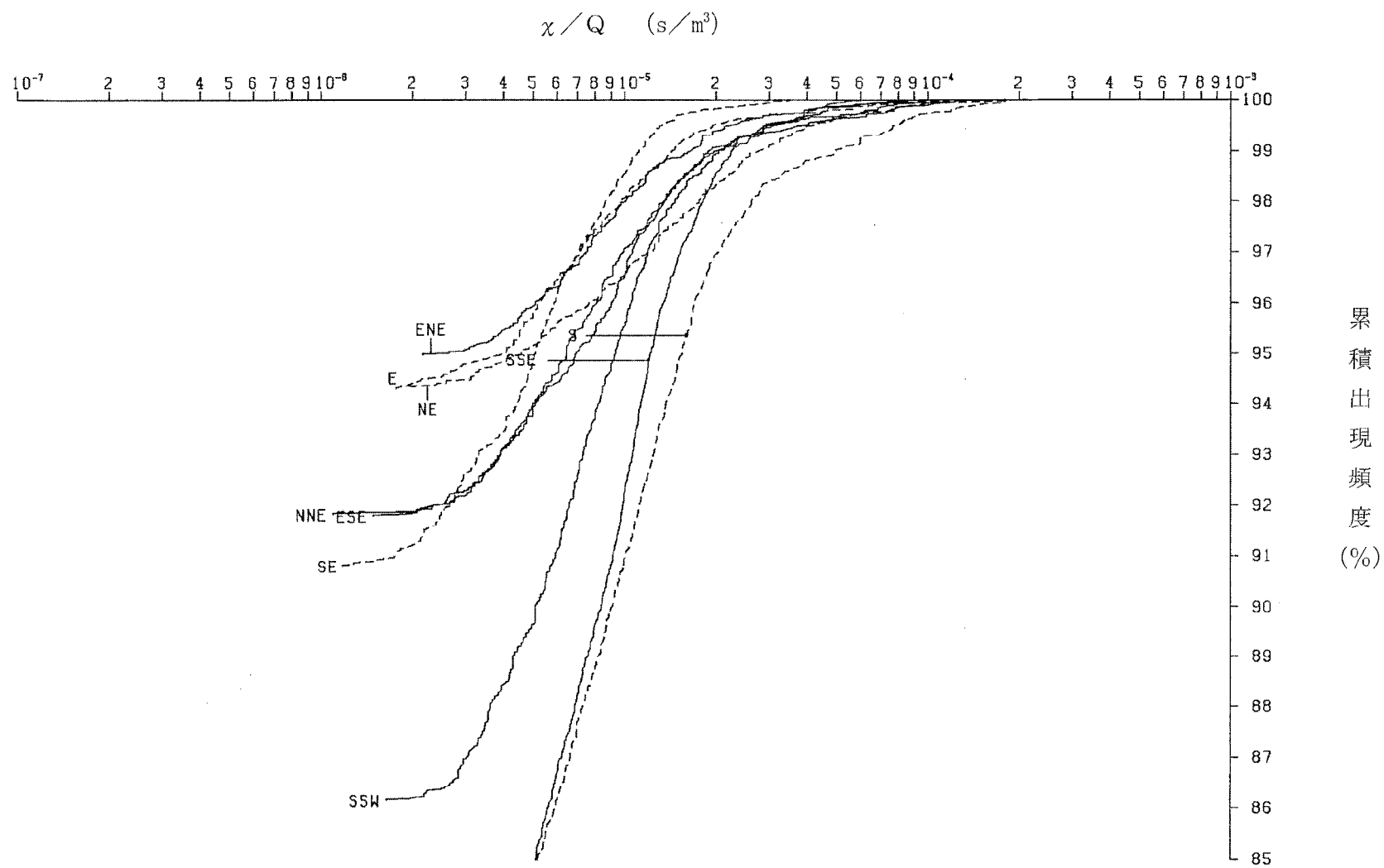


第1.2-63図 年間及び月別の大気安定度出現頻度

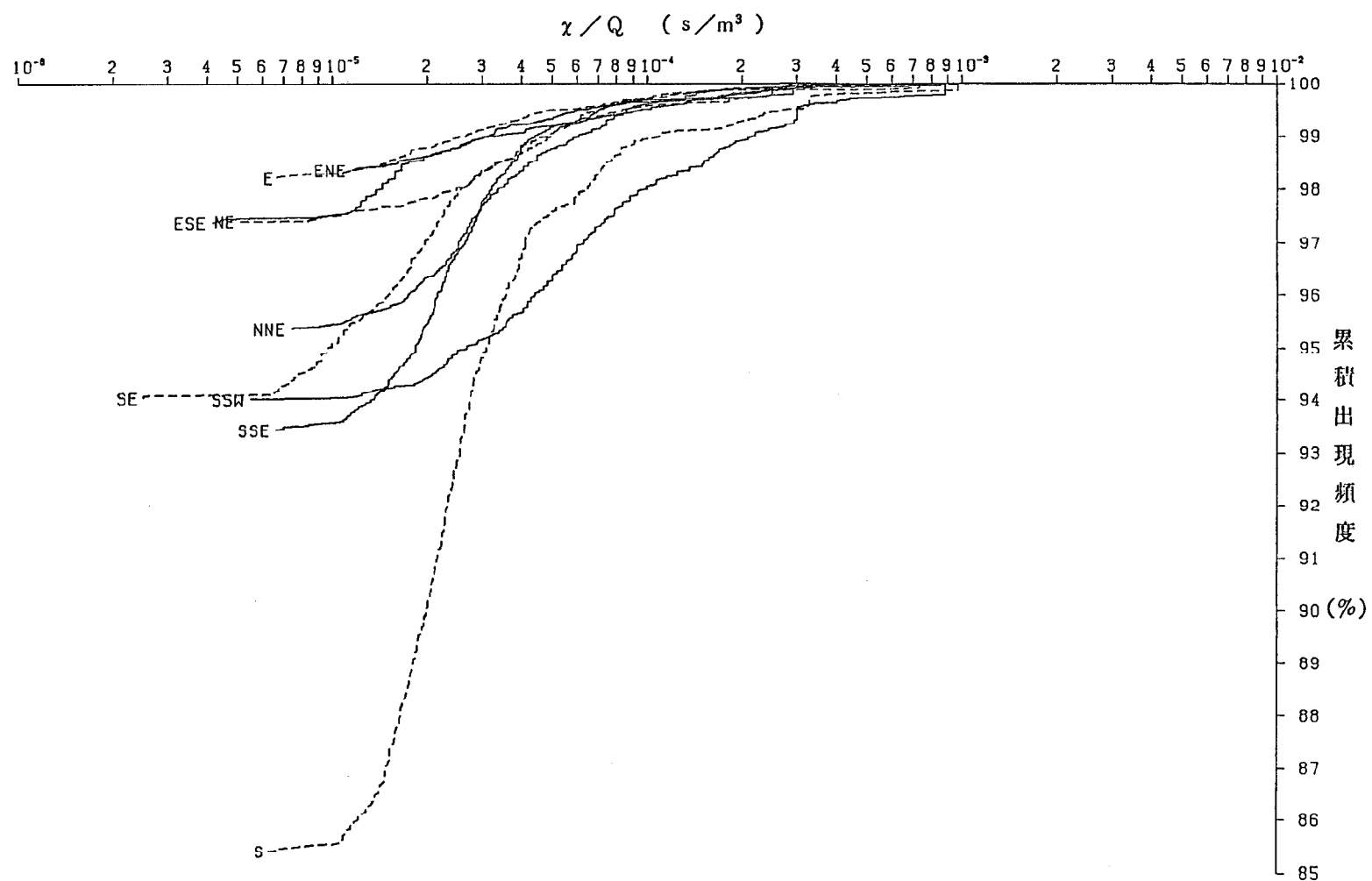
測定場所：川内原子力発電所気象観測所



第1.2-64図 年間気温差出現頻度(標高75m－標高45m)



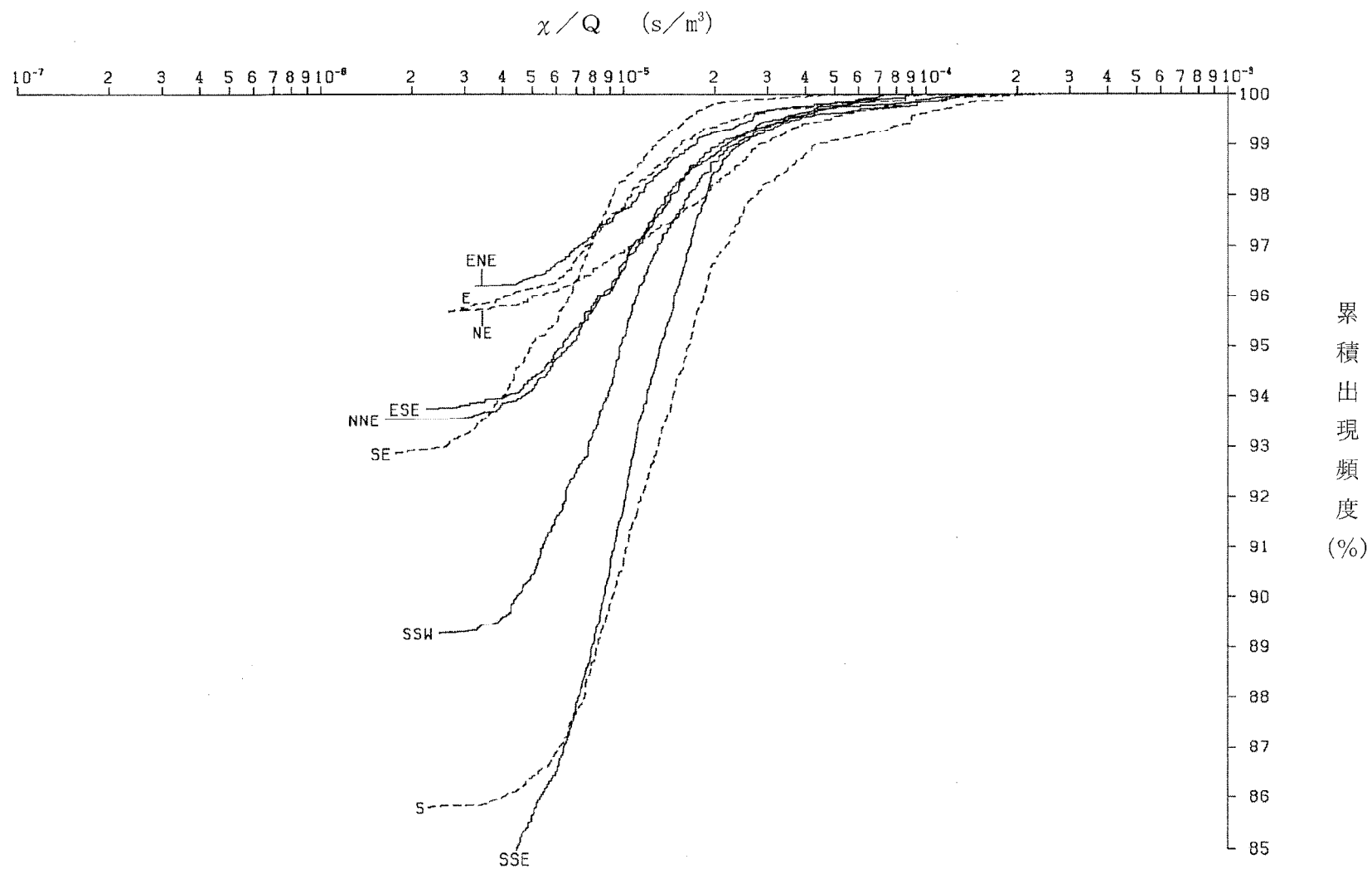
第1.2-65図(1) 方位別相対濃度( $\chi/Q$ )の累積出現頻度  
〔原子炉冷却材喪失(事故時)〕



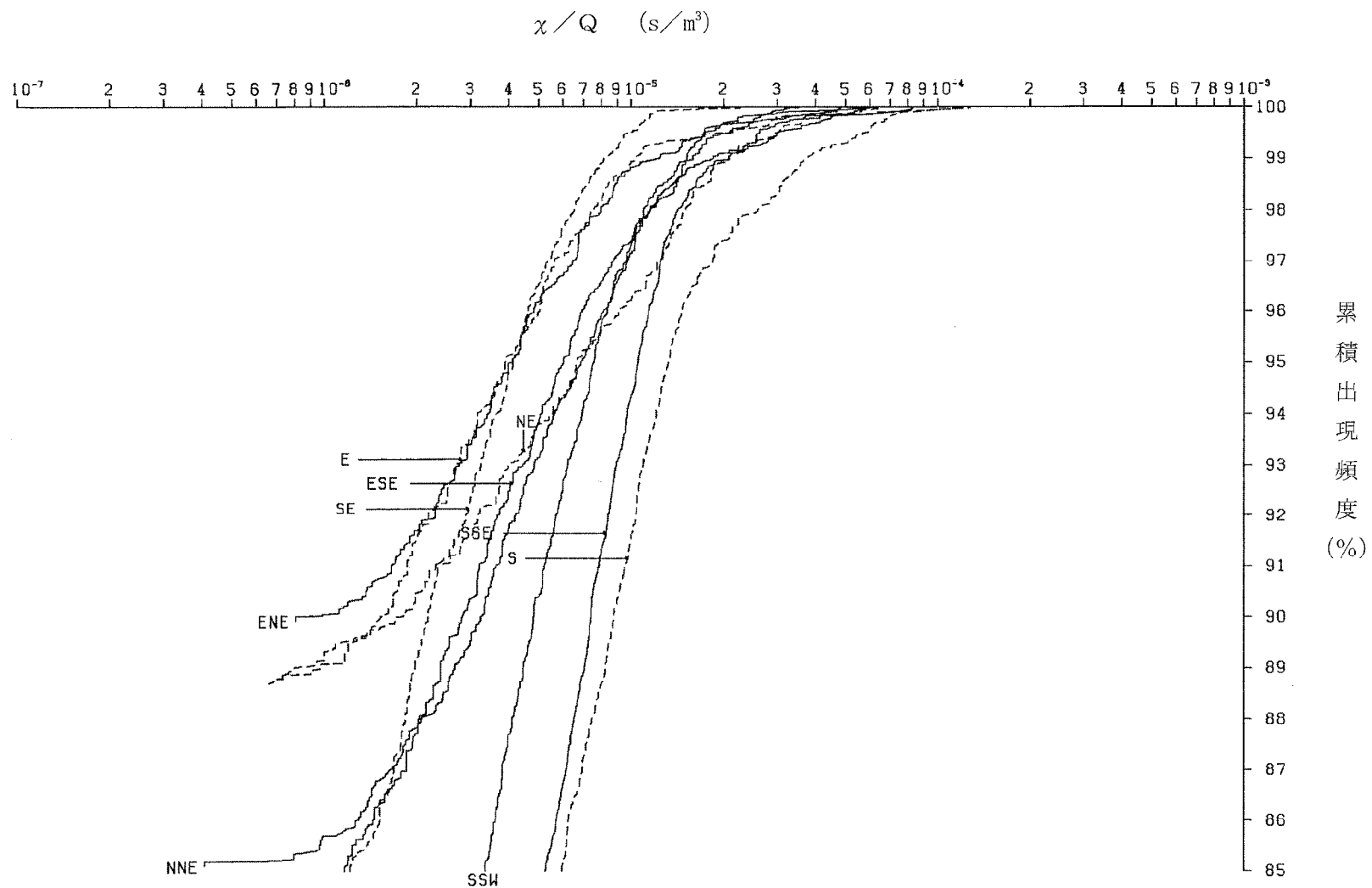
第1.2-65図(2) 方位別相対濃度( $\chi/Q$ )の累積出現頻度

〔放射性気体廃棄物処理施設の破損、蒸気発生器伝熱管破損  
(事故、重大事故及び仮想事故時)、燃料集合体の落下〕

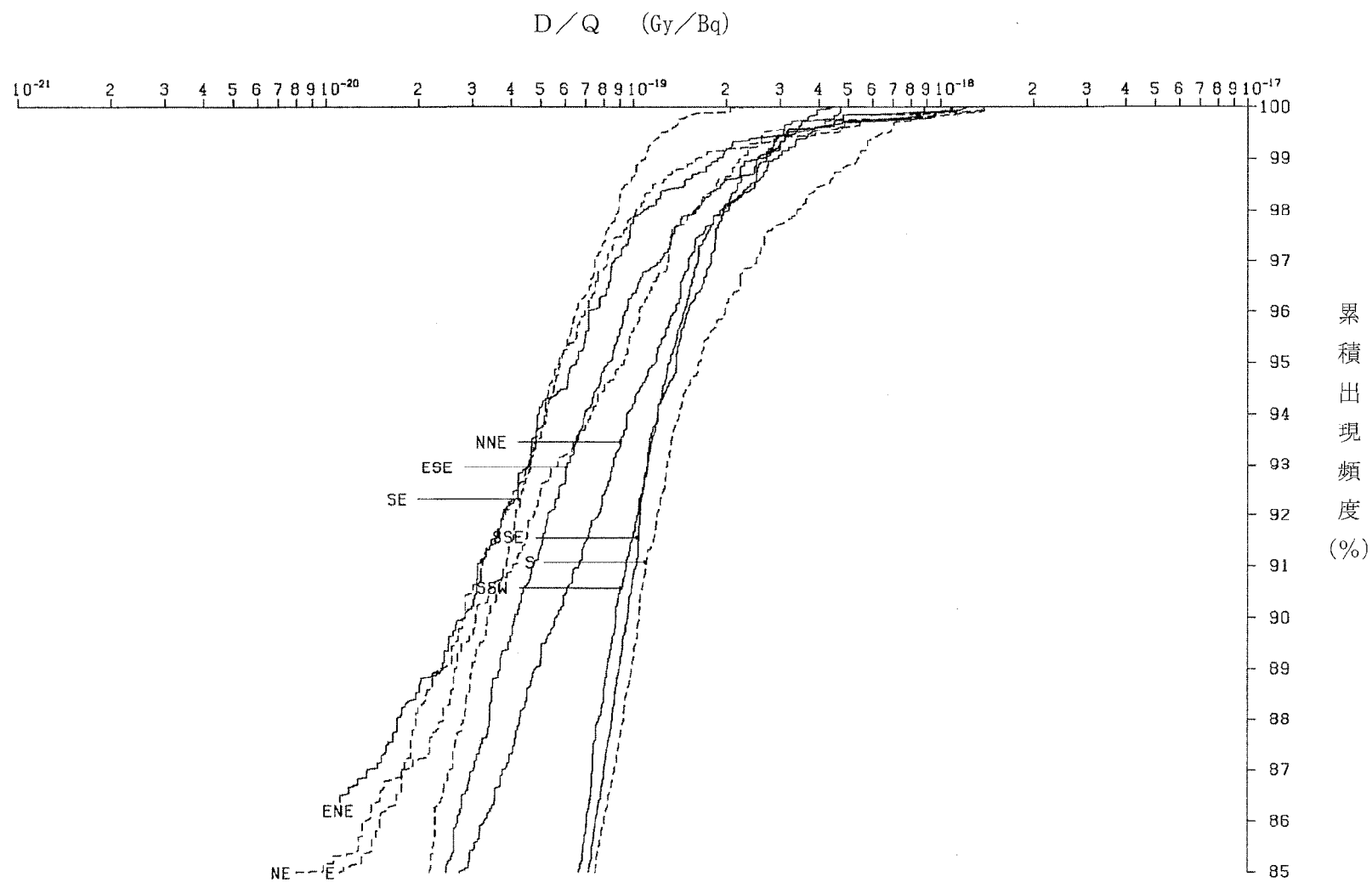




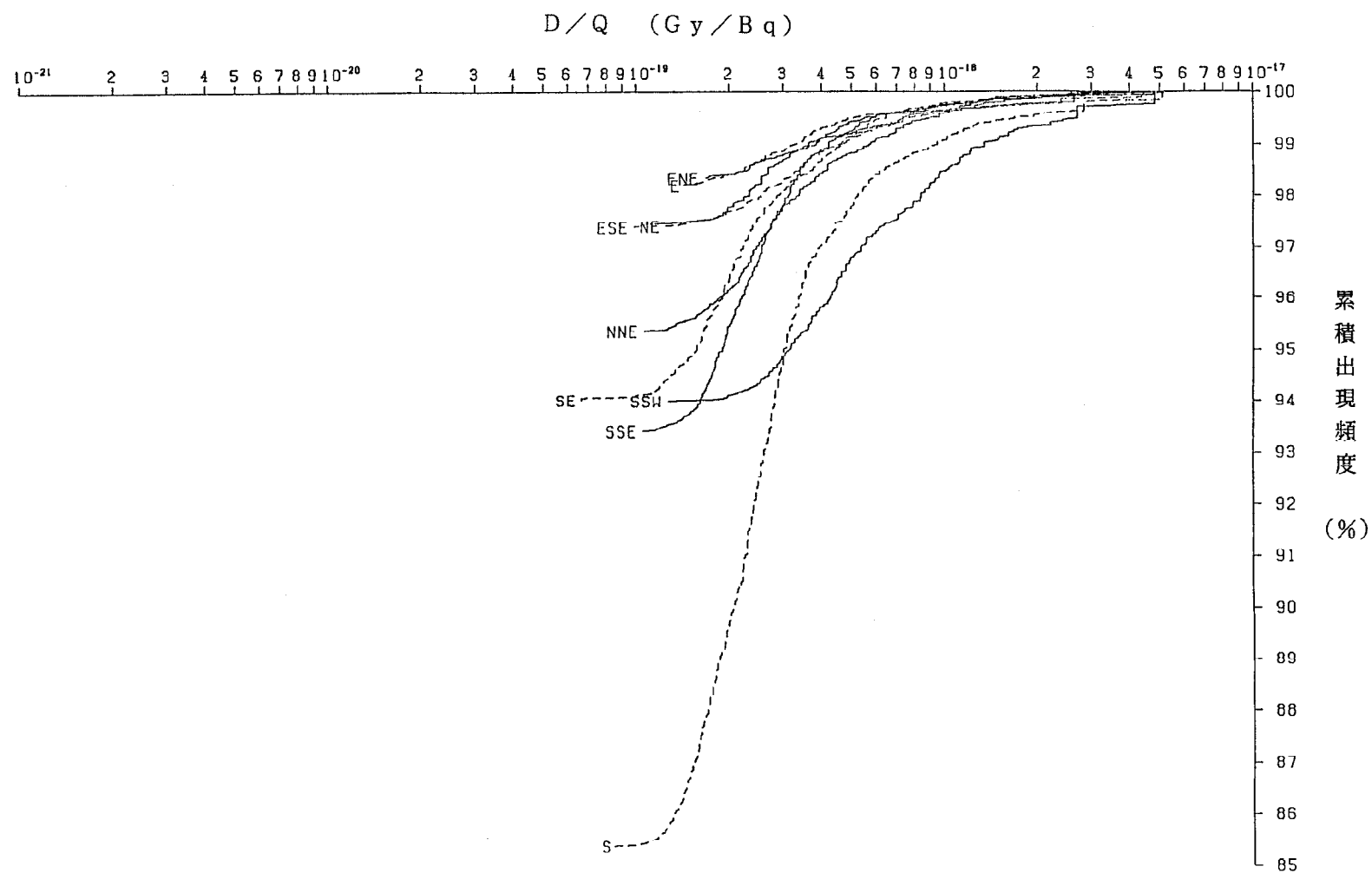
第1.2-65図(3) 方位別相対濃度( $\chi/Q$ )の累積出現頻度  
 [制御棒飛び出し]



第1.2-65図(4) 方位別相対濃度( $\chi/Q$ )の累積出現頻度  
〔原子炉冷却材喪失(重大事故及び仮想事故時)〕

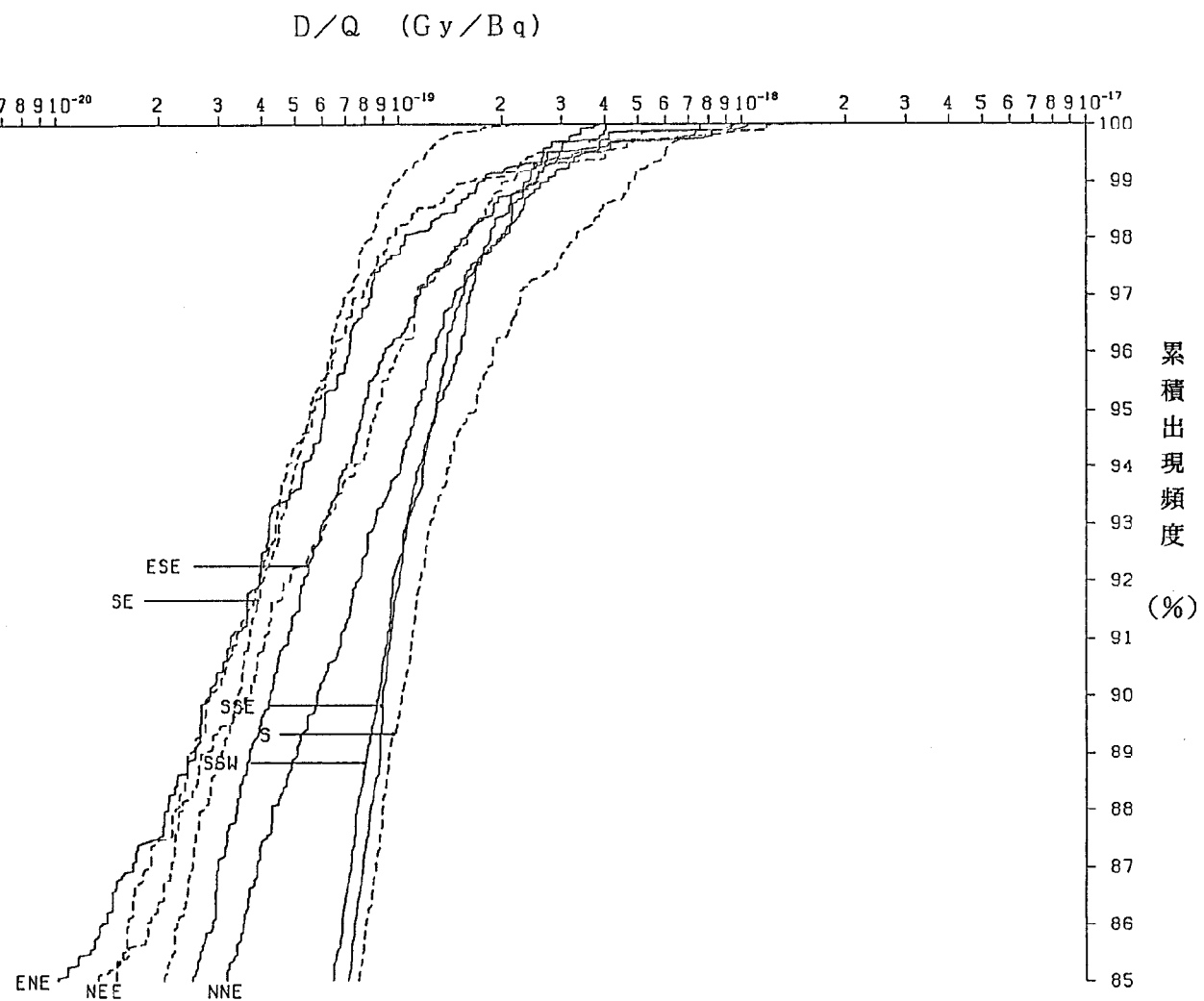


第1.2-65図(5) 方位別相対線量( $D/Q$ )の累積出現頻度  
〔原子炉冷却材喪失(事故時)〕



第1.2-65図(6) 方位別相対線量( $D/Q$ )の累積出現頻度

〔放射性気体廃棄物処理施設の破損、蒸気発生器伝熱管破損  
(事故、重大事故及び仮想事故時)、燃料集合体の落下〕



第1.2-65図(7) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度  
〔制御棒飛び出し、原子炉冷却材喪失(重大事故及び仮想事故時)〕



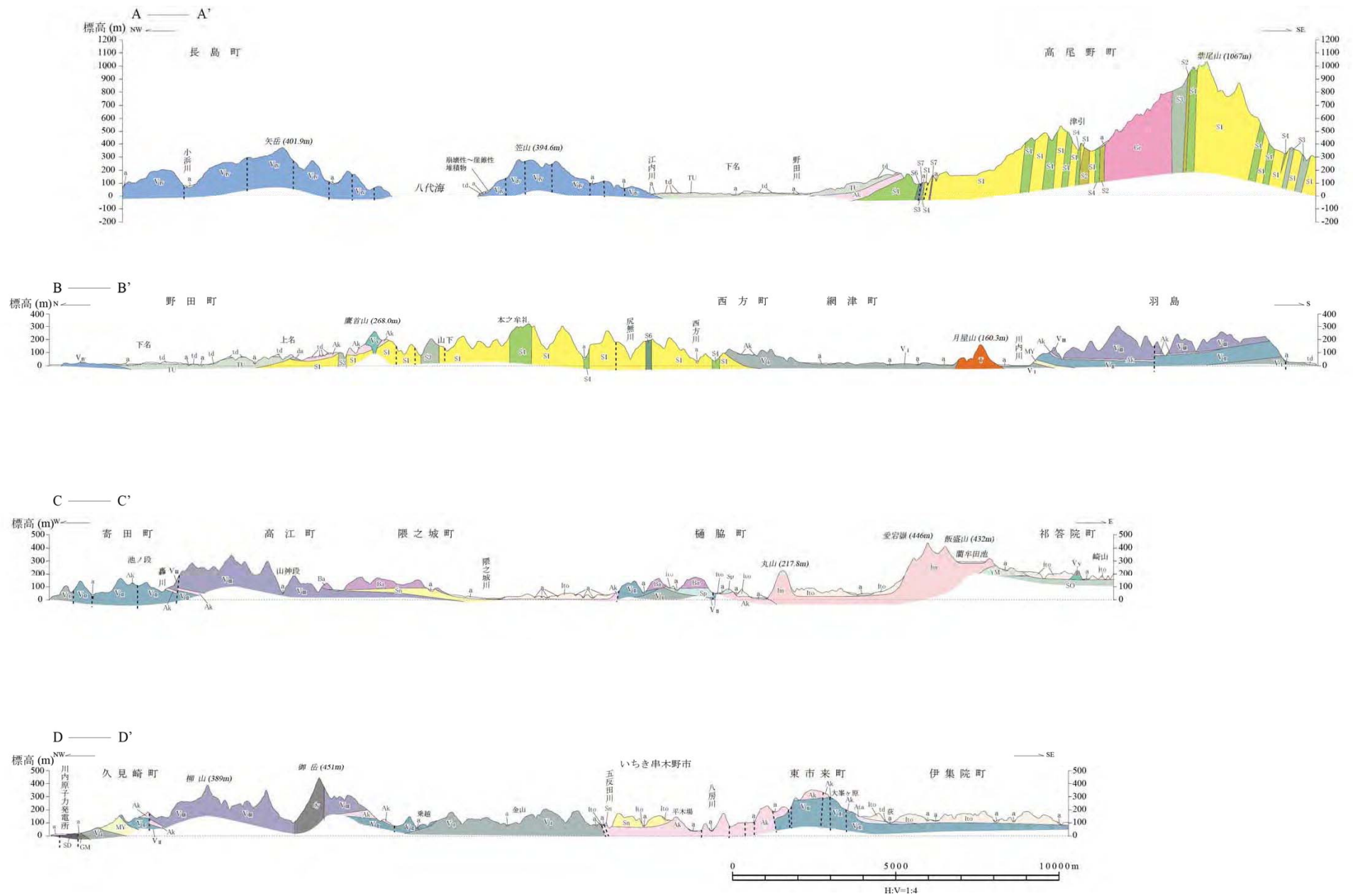


第 1.2-66 図 敷地周辺陸域の地形図



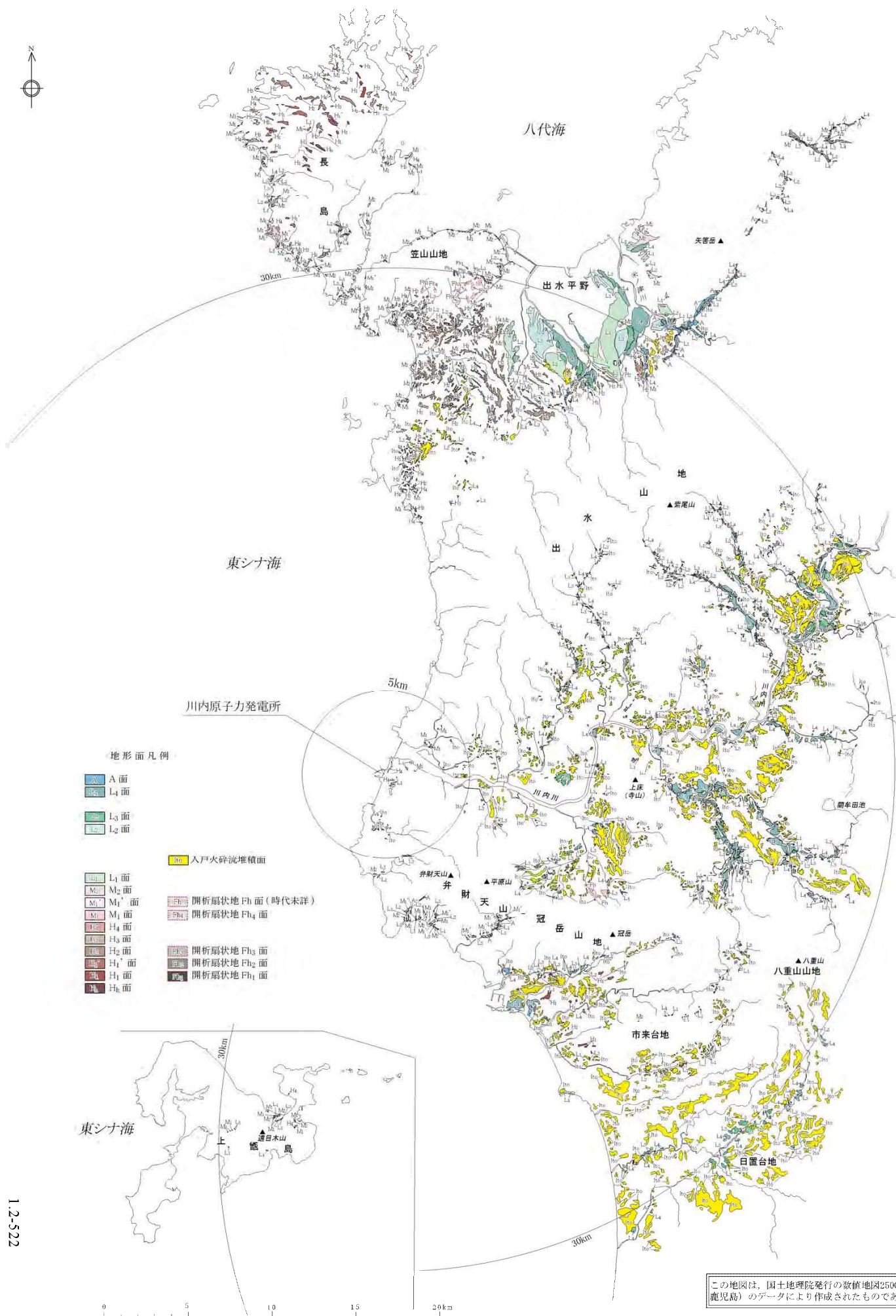




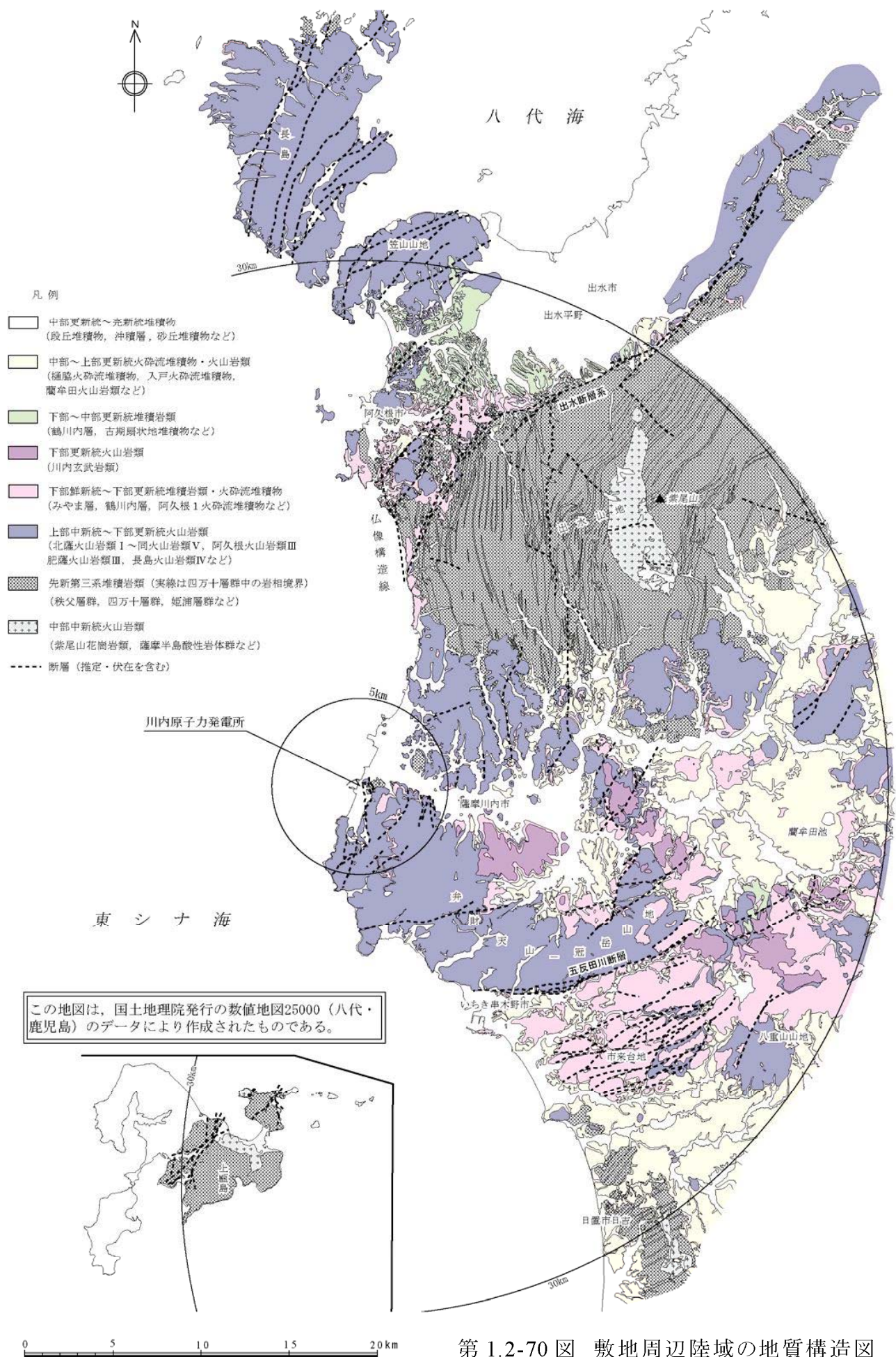


(注) 凡例は、第 1.2-67 図を参照。  
 第 1.2-68 図 敷地周辺陸域の地質断面図

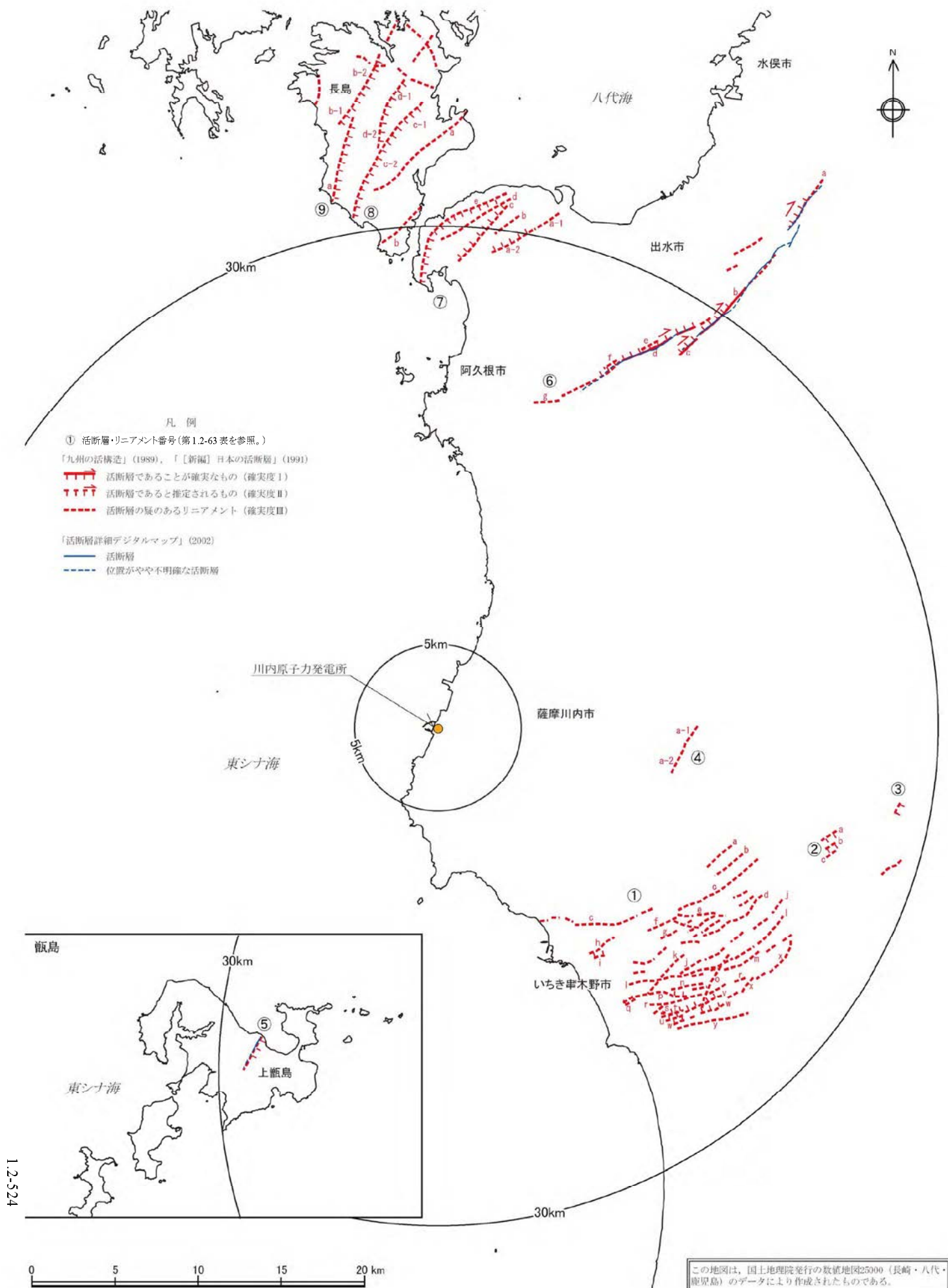








第 1.2-70 図 敷地周辺陸域の地質構造図

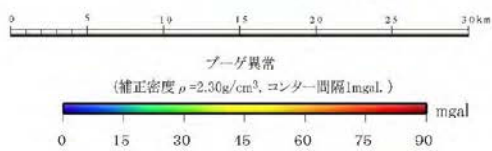
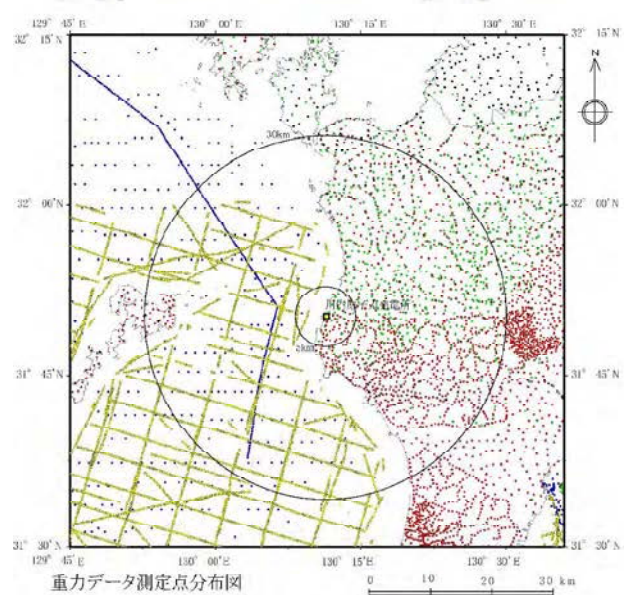
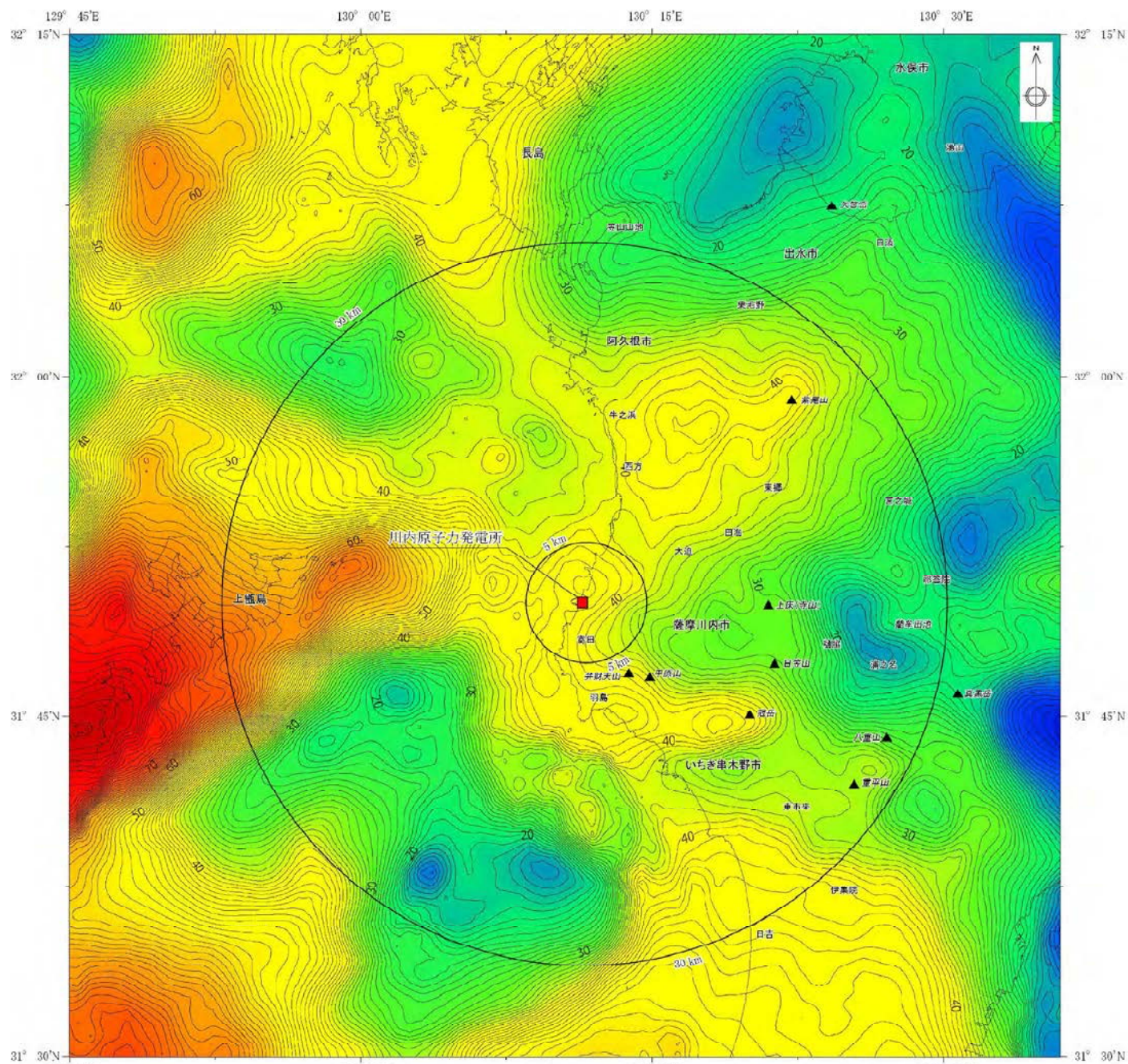


第 1.2-71 図 文献による活断層・リニアメント分布図









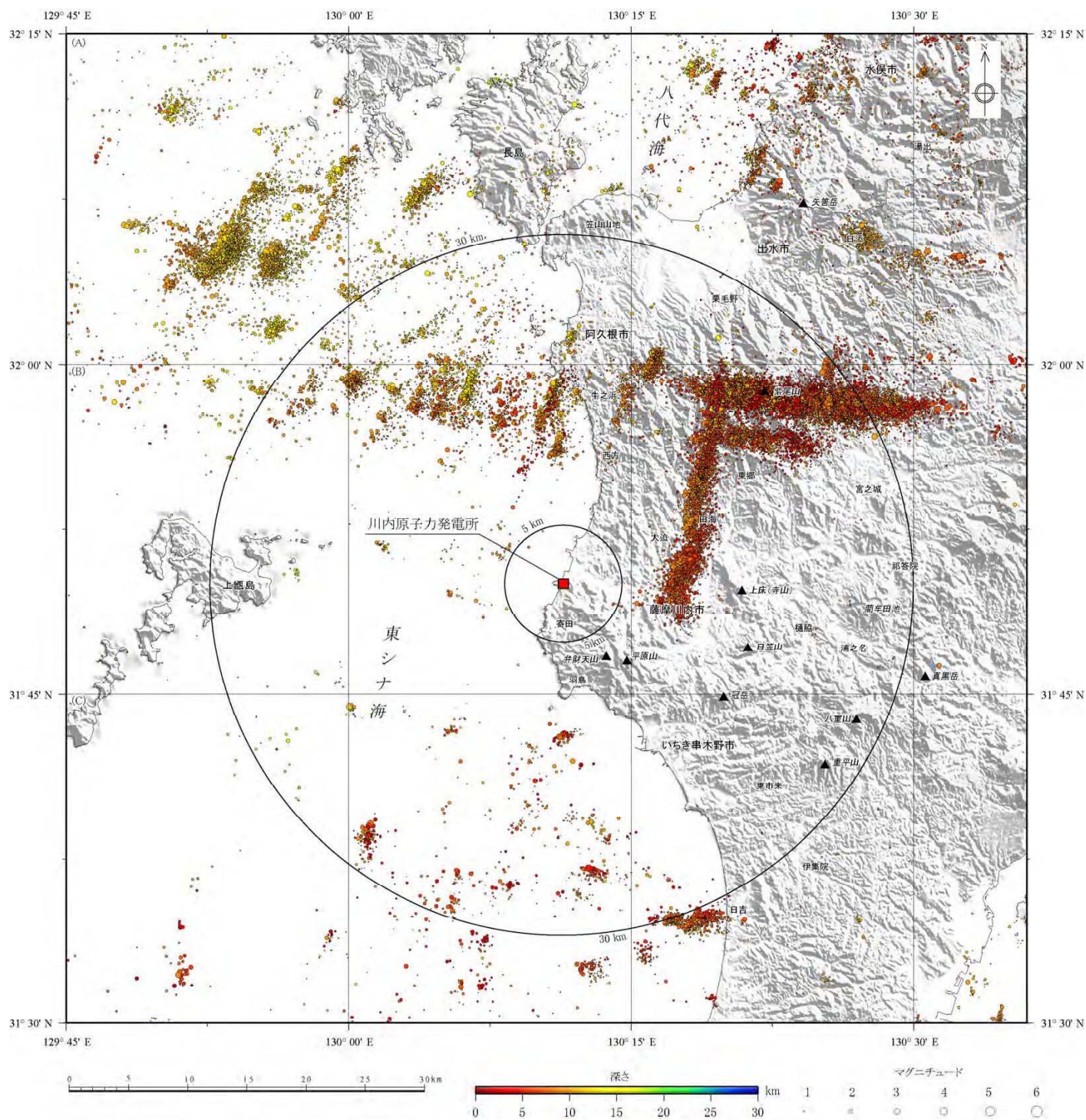
重力異常図は、陸域については、地質調査総合センター編(2013)「日本重力データベースDVD版」、Shichi and Yamamoto (2001) Gravity Database of Southwest Japan (CD-ROM)及びYamamoto et al.(2011) Gravity Database of Japan (CD-ROM)、海域については、日本海洋データセンター(2006)「MGD77データ」及び地質調査所 昭和59年度 GH841, GH843航海による重力データを使用。

- 重力データ測定点分布凡例
- 日本海洋データセンター
  - 地質調査所
  - 地質調査総合センター
  - Shichi and Yamamoto (2001)
  - Yamamoto et al. (2011)

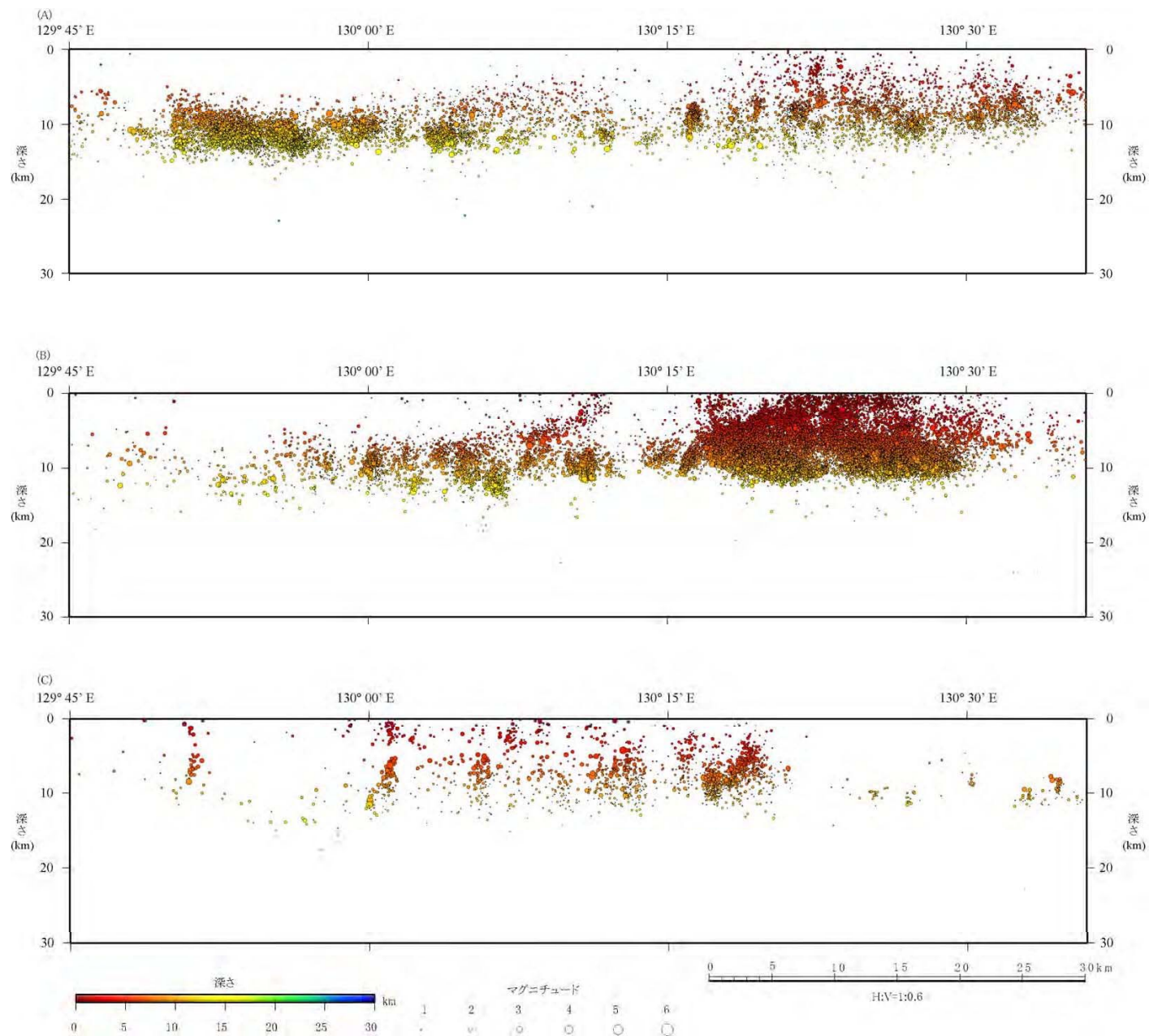
この地図は、国土院発行の数値地図25000(長崎・八代・鹿児島)のデータにより作成されたものである。

第 1.2-73 図 敷地周辺の重力異常図



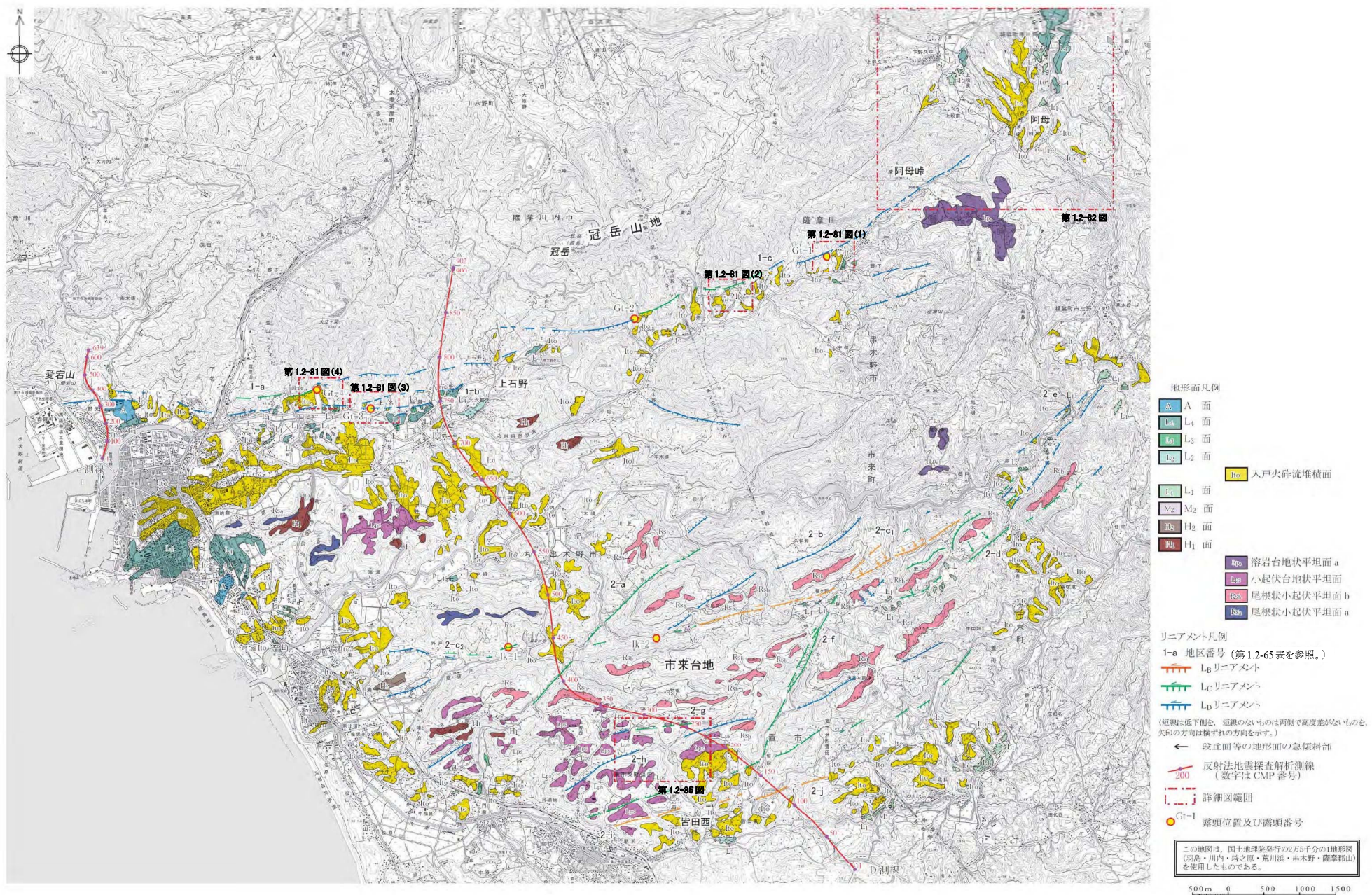


第1.2-74図(1) 敷地周辺の微小地震分布図



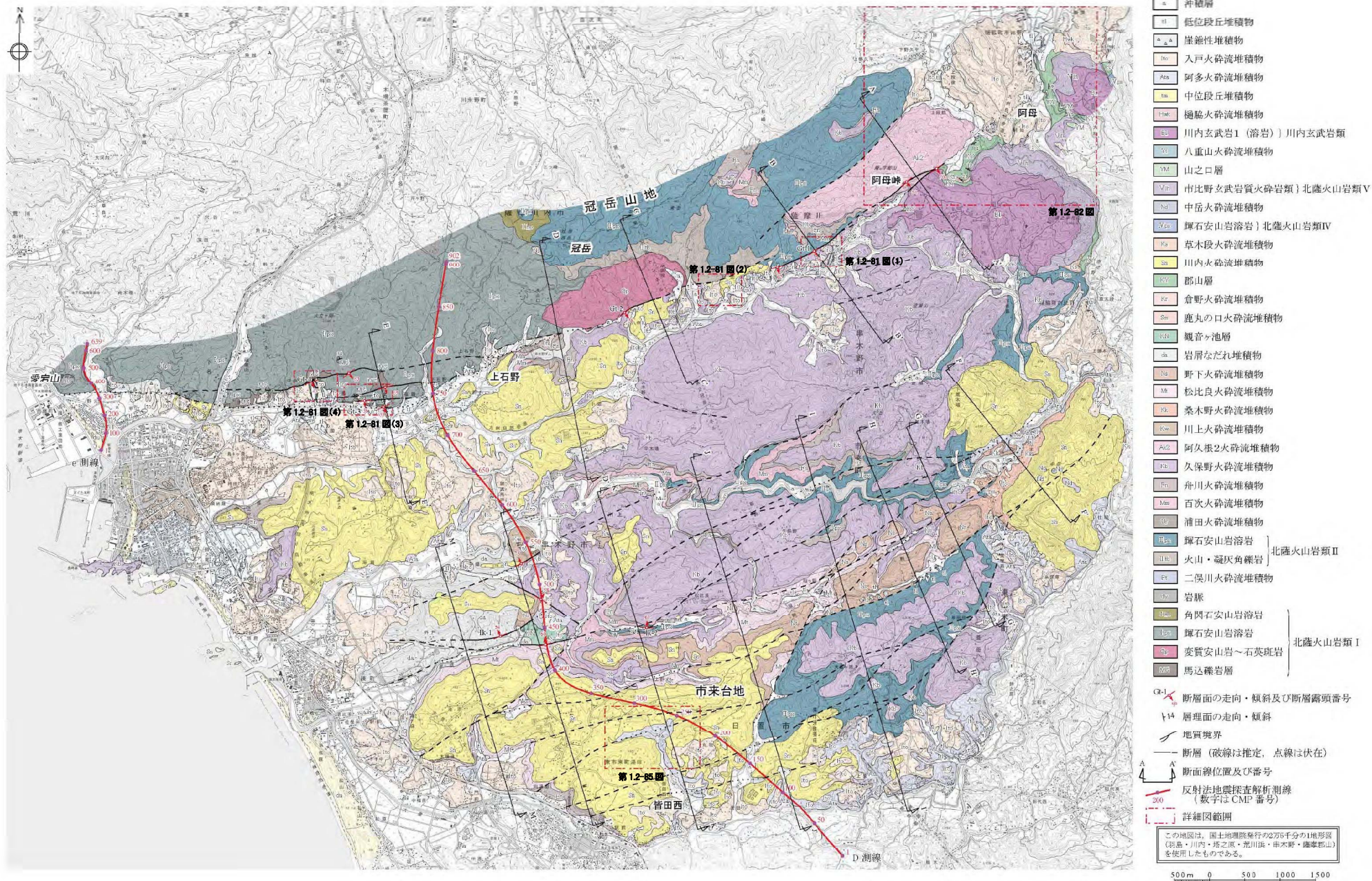
第 1.2-74 図 (2) 敷地周辺の微小地震分布断面図





第 1.2-75 図 市来断層系周辺 (五反田川断層含む) の空中写真判読図

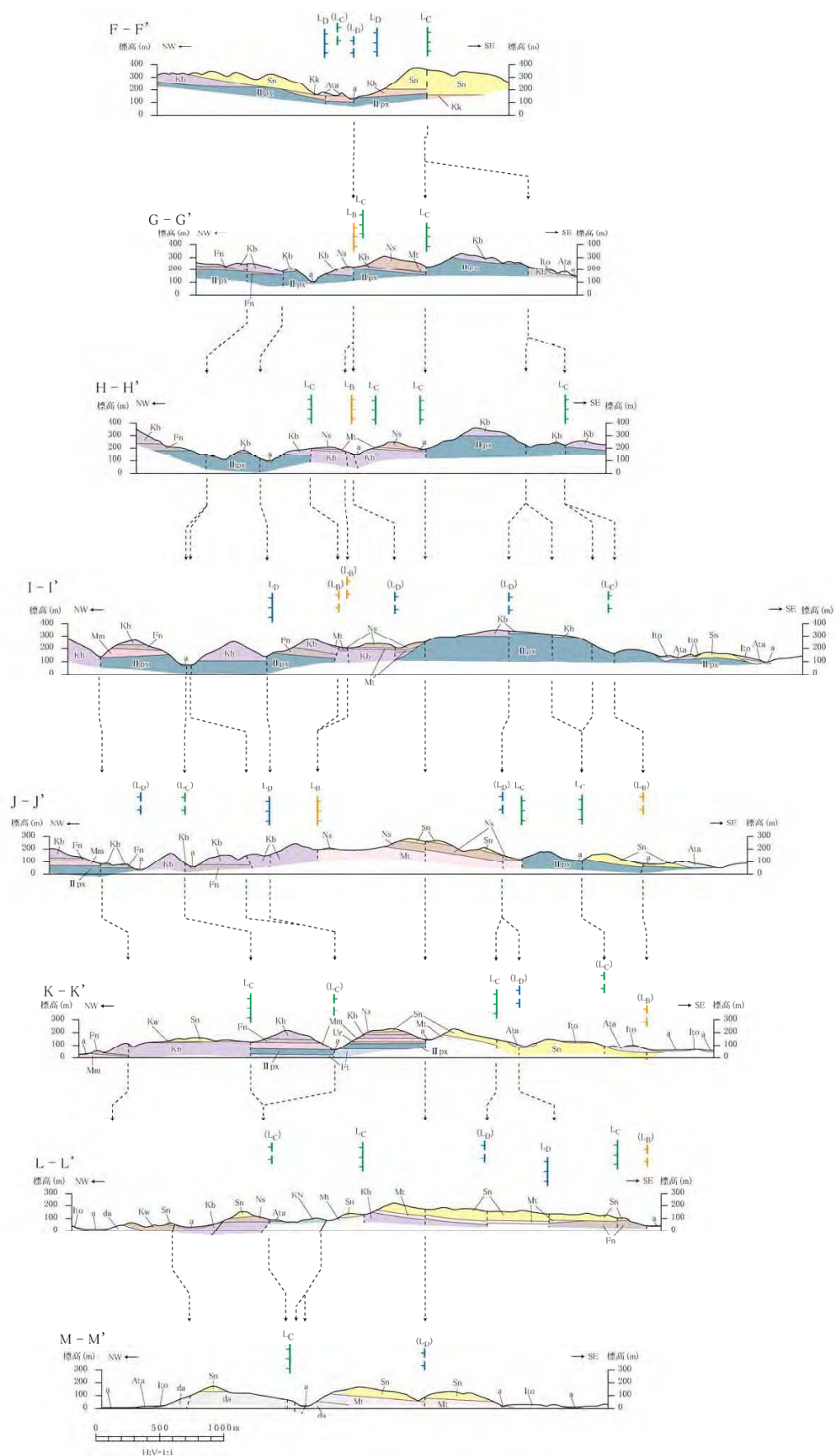




第 1.2-76 図 市来断層系周辺（五反田川断層含む）の地質図



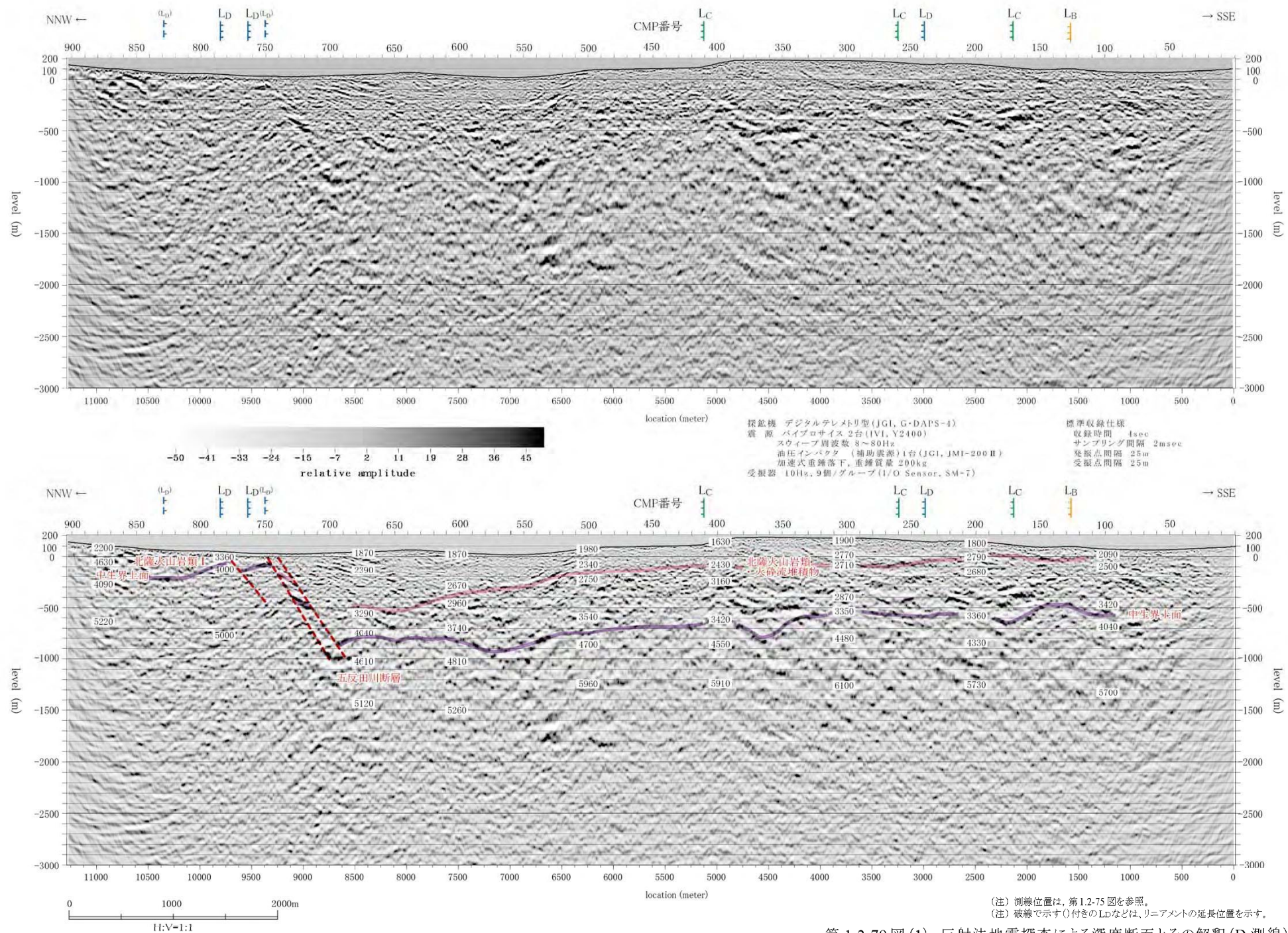




(注) 凡例は、第1.2-76図を参照。  
(注) 破線で示す ( ) 付きの L<sub>D</sub>などは、リニアメントの延長位置を示す。

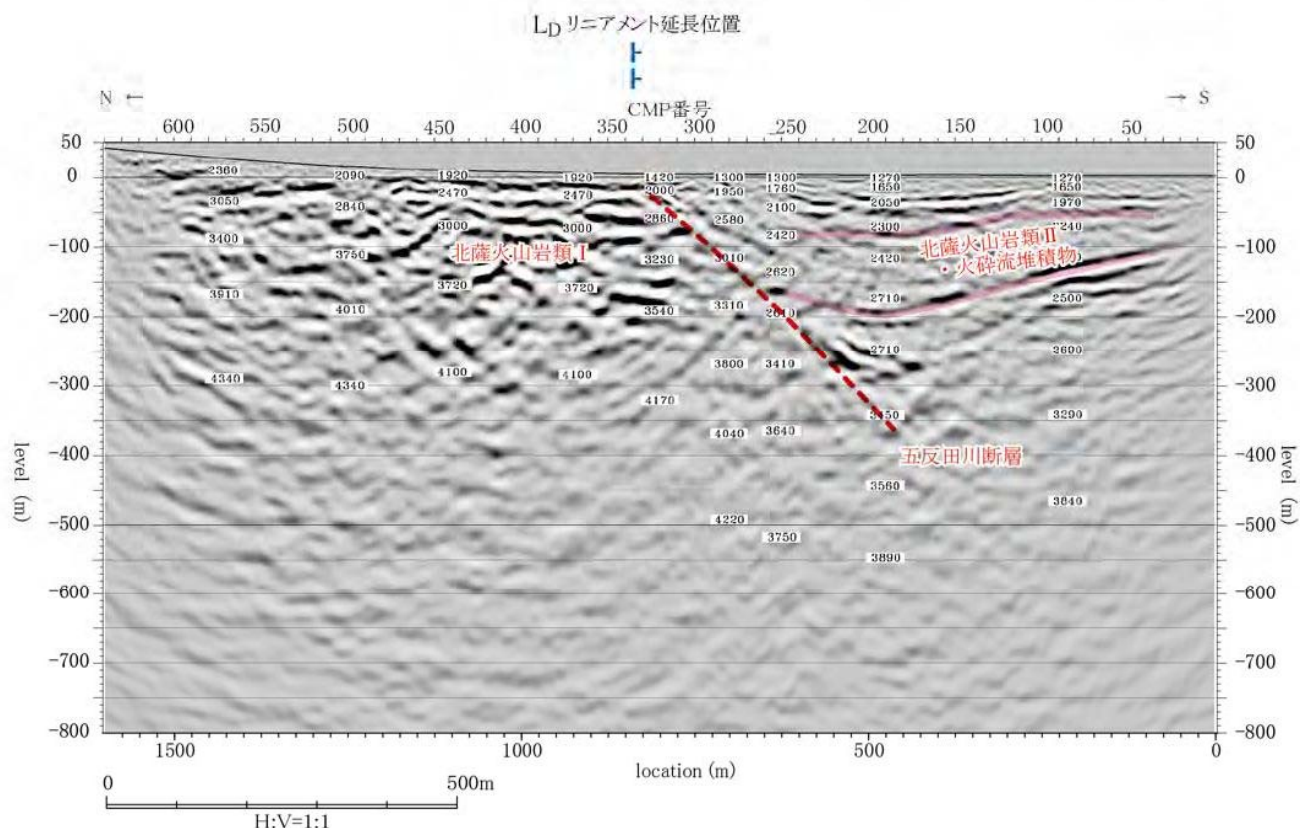
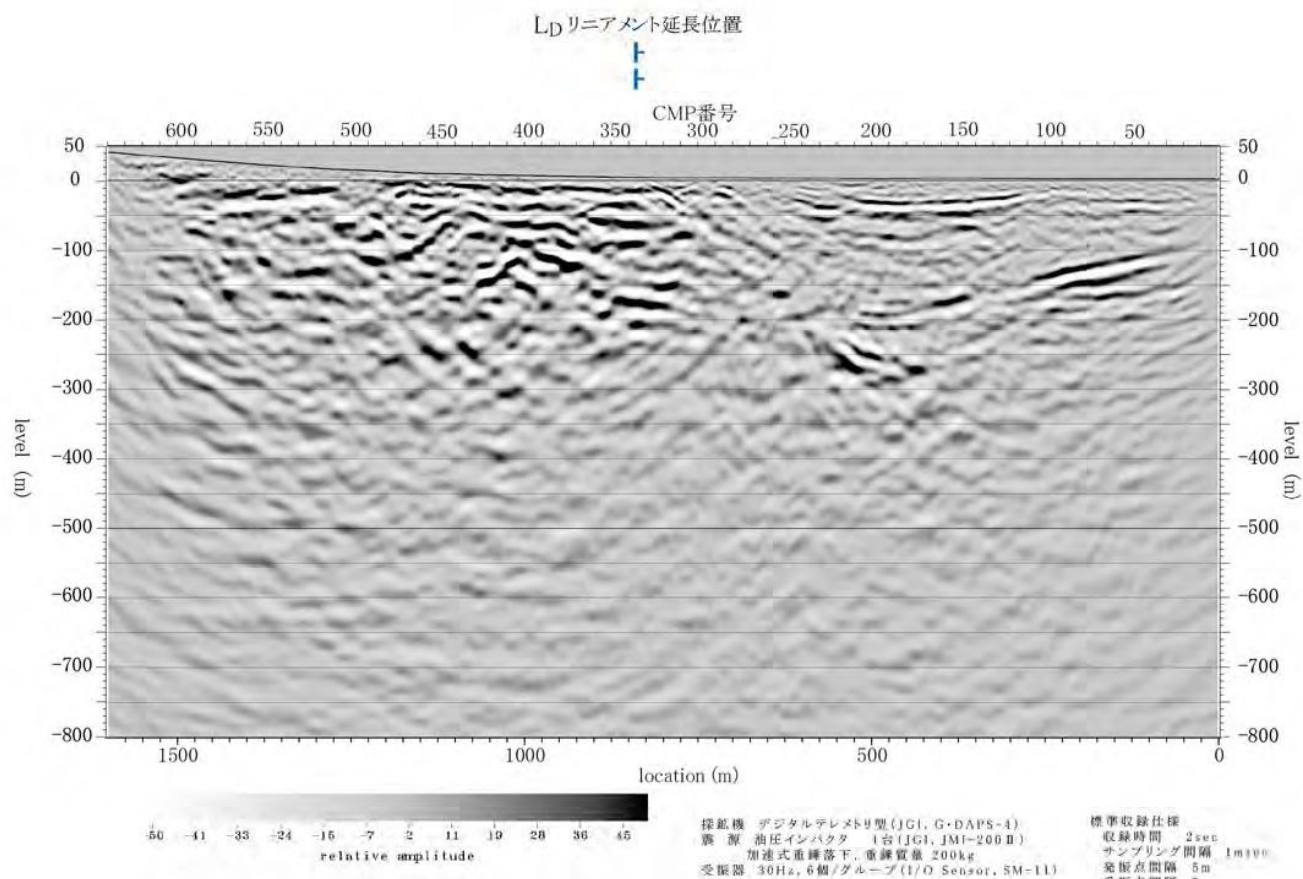
第1.2-78図 市来断層系周辺の地質断面図





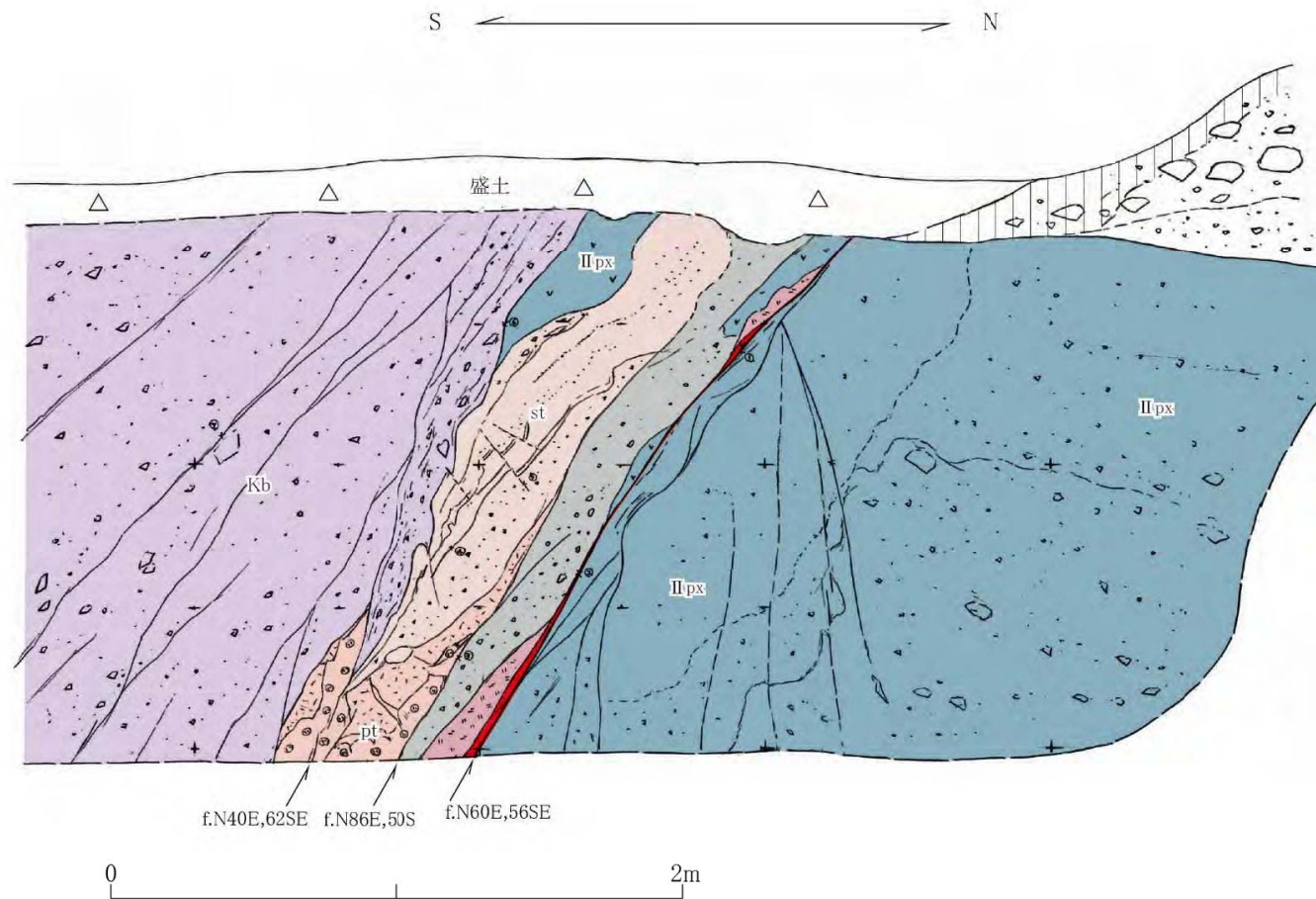
第 1.2-79 図 (1) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (D 測線)





(注) 測線位置は, 第 1.2-75 図を参照。

第 1.2-79 図 (2) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (e 測線)



南側の久保野火砕流堆積物と北側の輝石安山岩溶岩（北薩火山岩類Ⅱ）とを境する正断層。

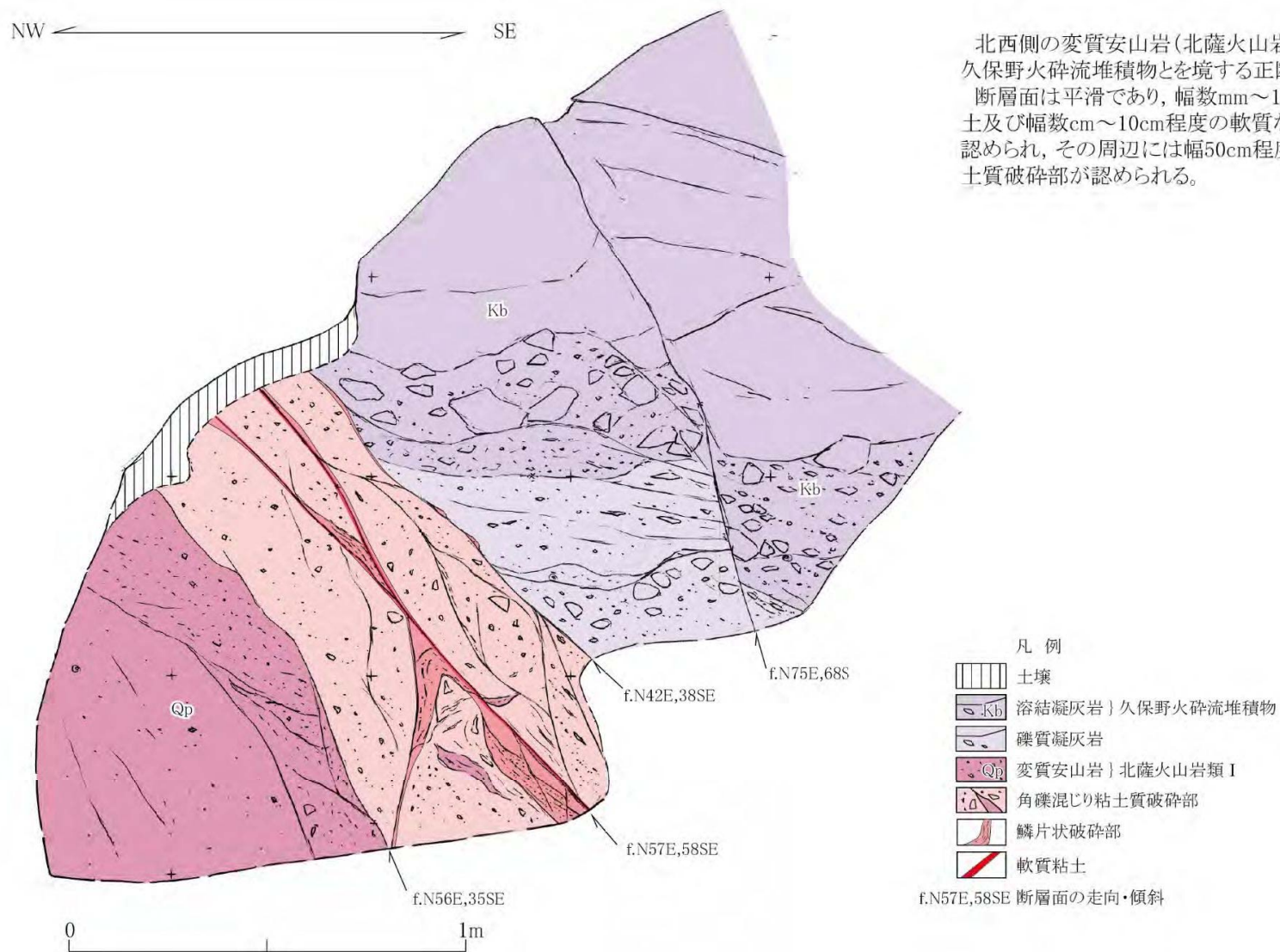
断層面は緩く湾曲するものの、平滑であり、幅数 mm ～ 2cm 程度の軟質粘土が認められる。断層面上盤側には角礫状破碎部及び安山岩溶岩、凝灰岩などの擾乱部が認められる。

#### 凡 例

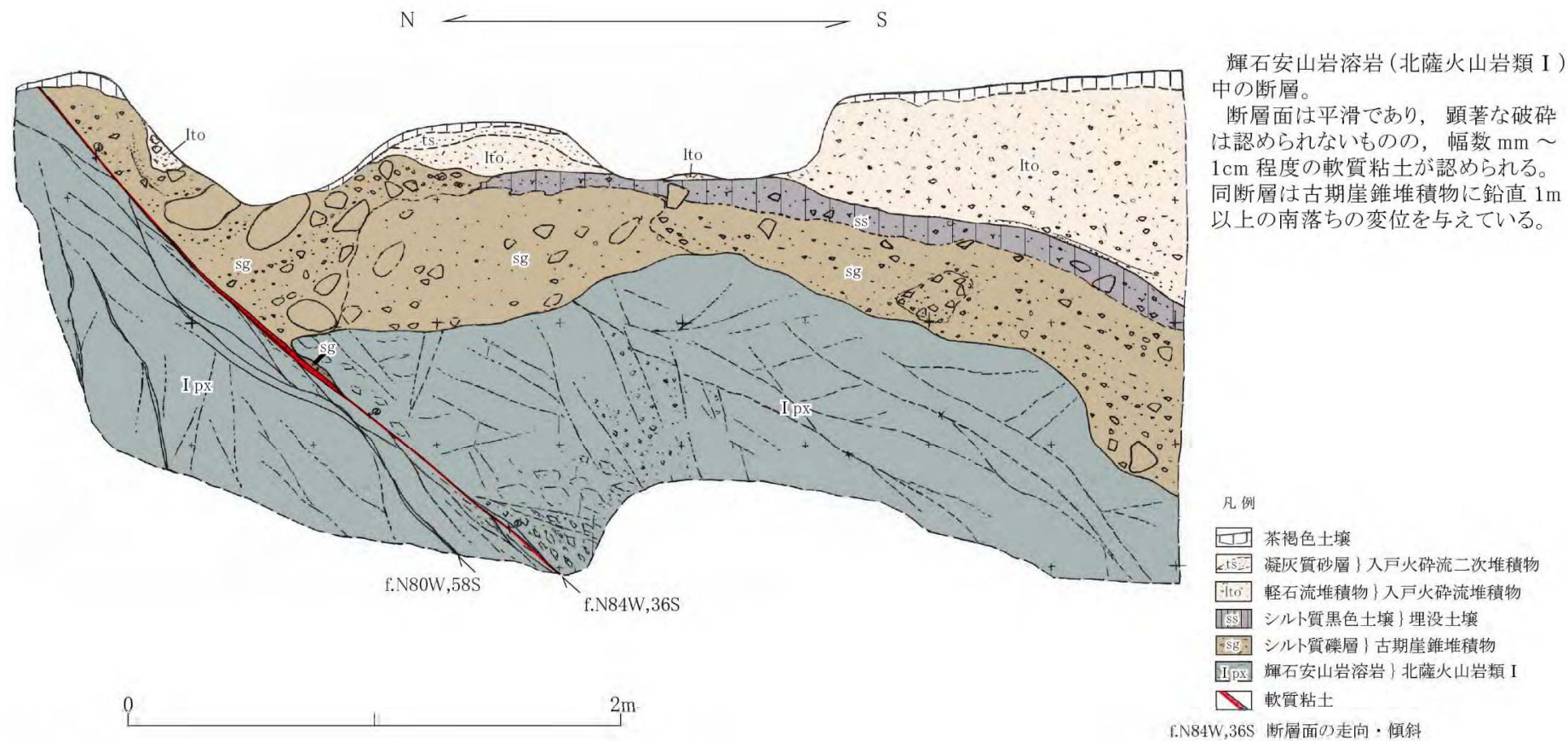
- 暗褐色土壌
- 旧河床礫層 } 沖積層
- 溶結凝灰岩 } 久保野火砕流堆積物
- 砂質凝灰岩
- 軽石凝灰岩
- 凝灰岩
- 輝石安山岩溶岩 } 北薩火山岩類Ⅱ
- 角礫状破碎部
- 軟質粘土

f.N86E, 50S 断層面の走向・傾斜

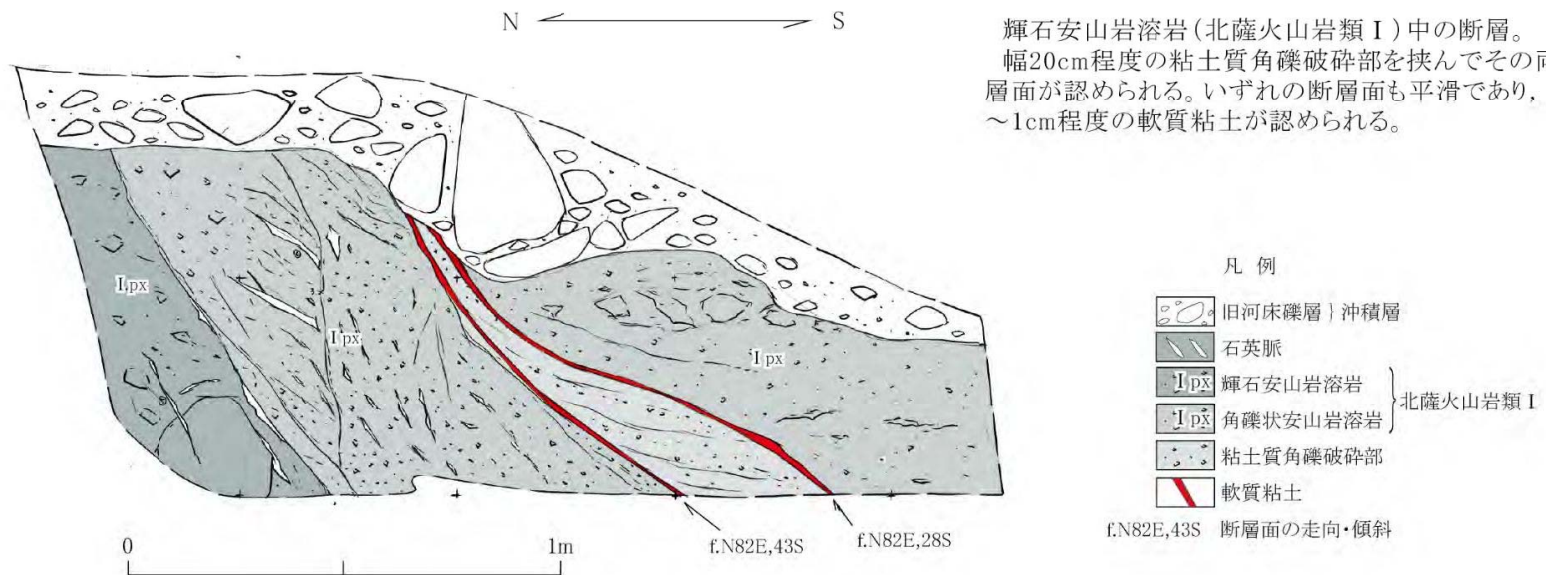




第 1.2-80 図(2) 露頭スケッチ (Loc.Gt-2, いちき串木野市八牟礼)

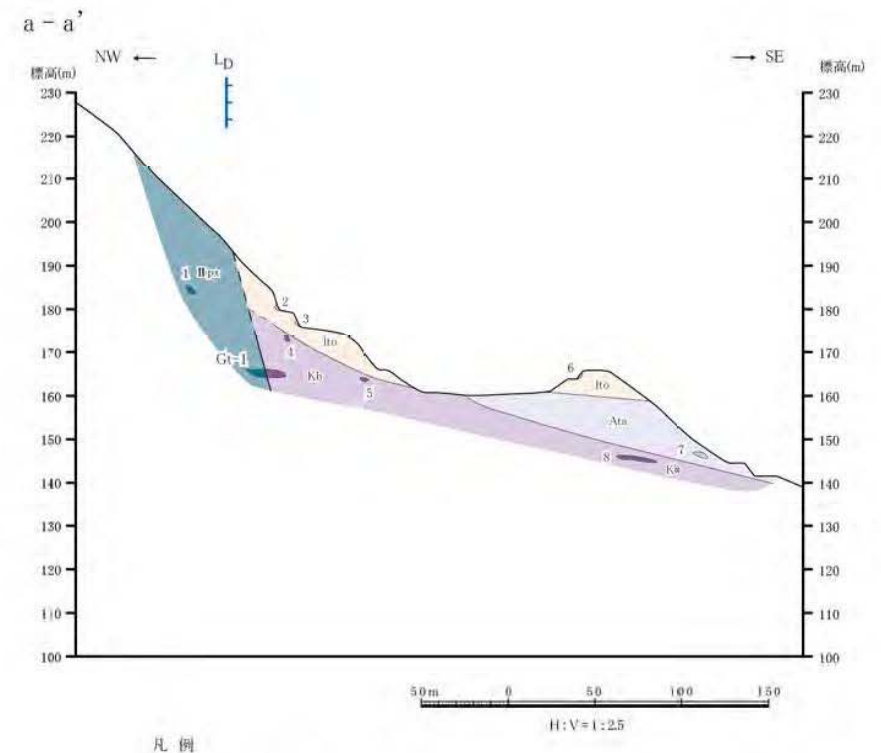


第 1.2-80 図(3) 露頭スケッチ (Loc.Gt-3, いちき串木野市上名)

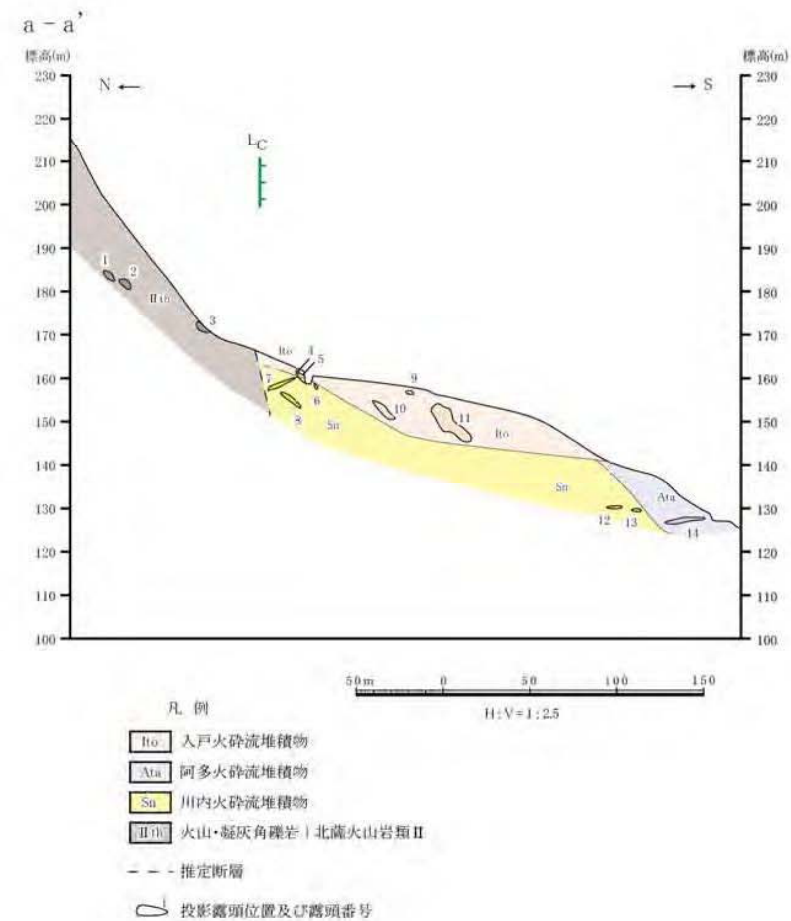


第 1.2-80 図(4) 露頭スケッチ (Loc.Gt-4, いちき串木野市河内)



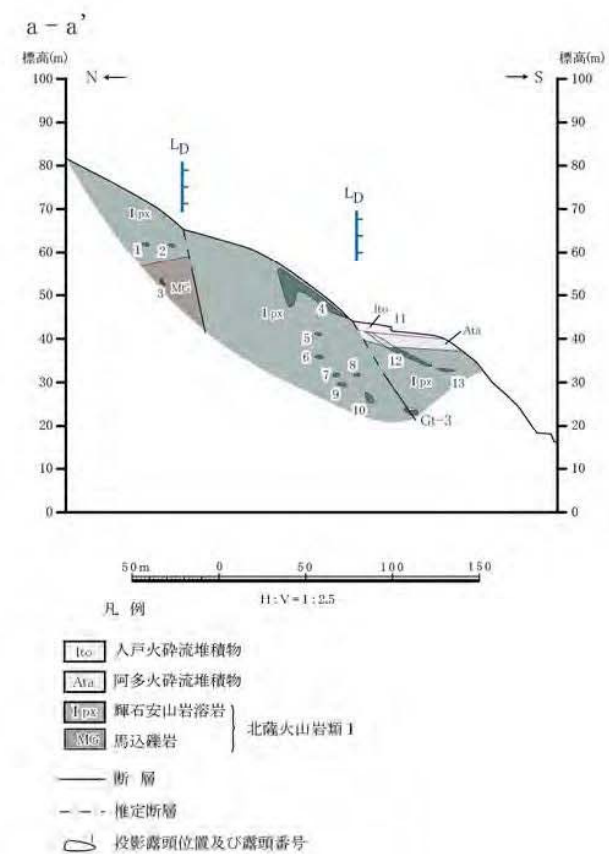
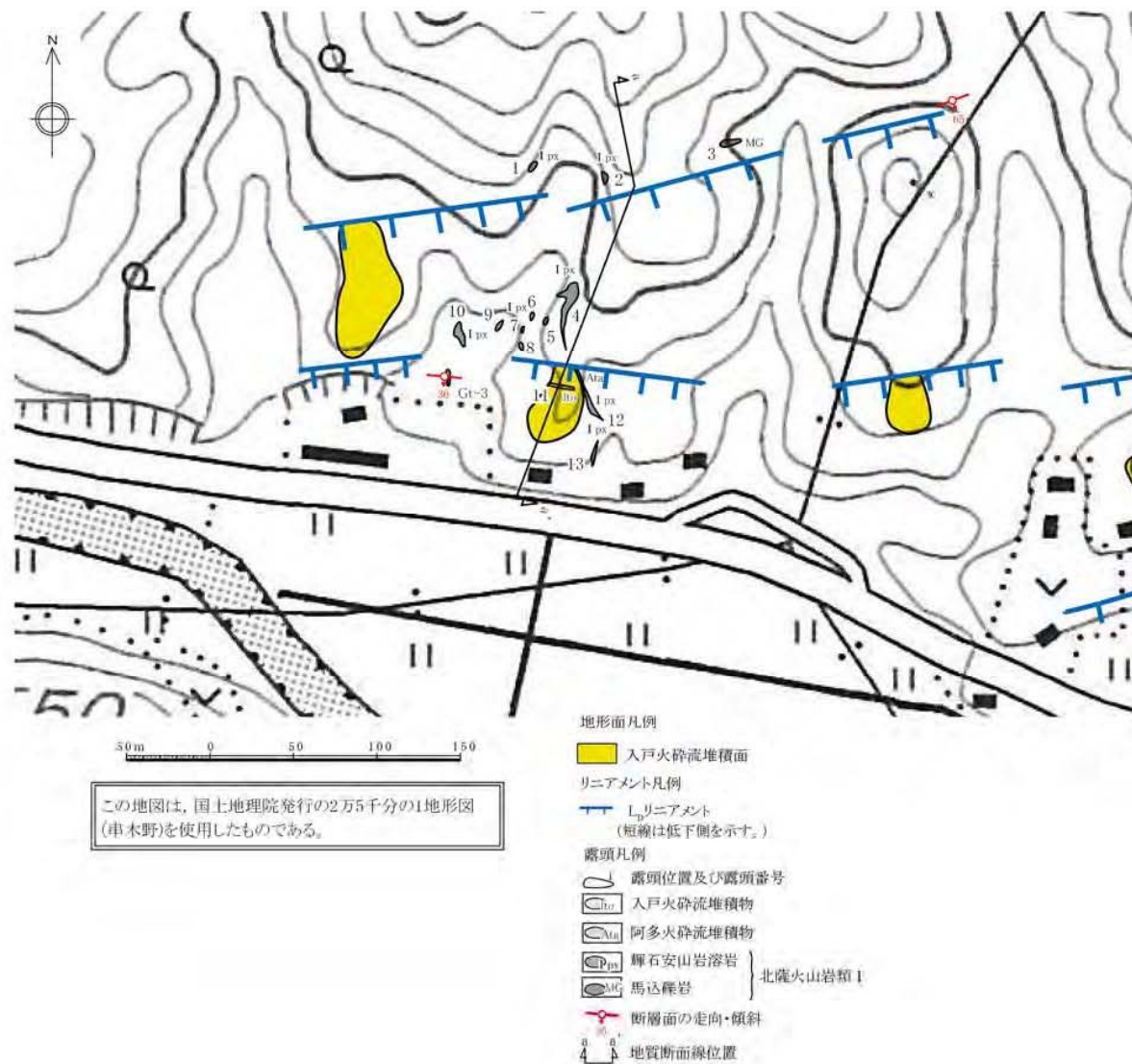


第 1.2-81 図(1) ルートマップ・地質断面図(薩摩川内市野下付近)

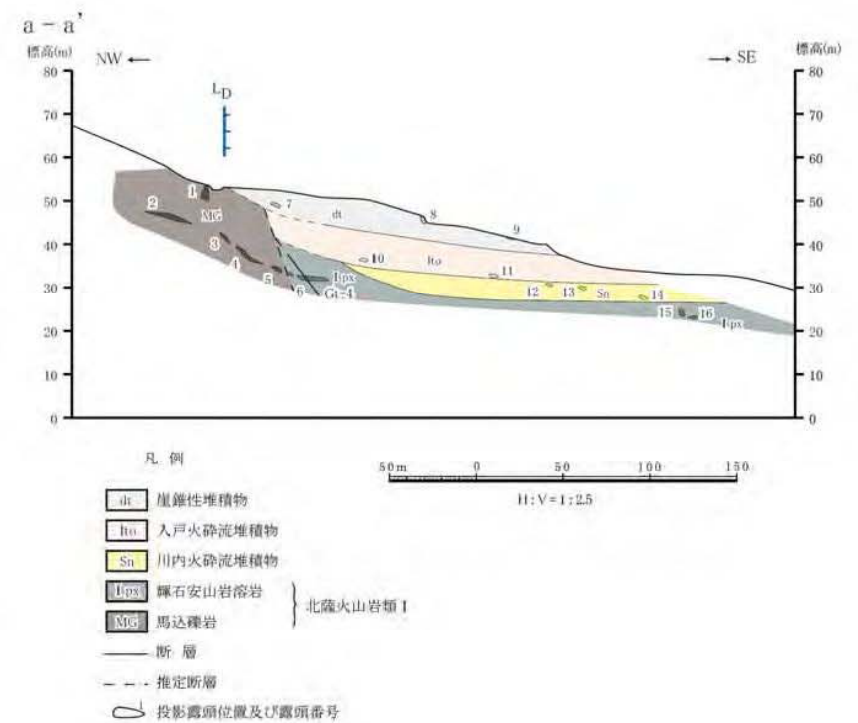
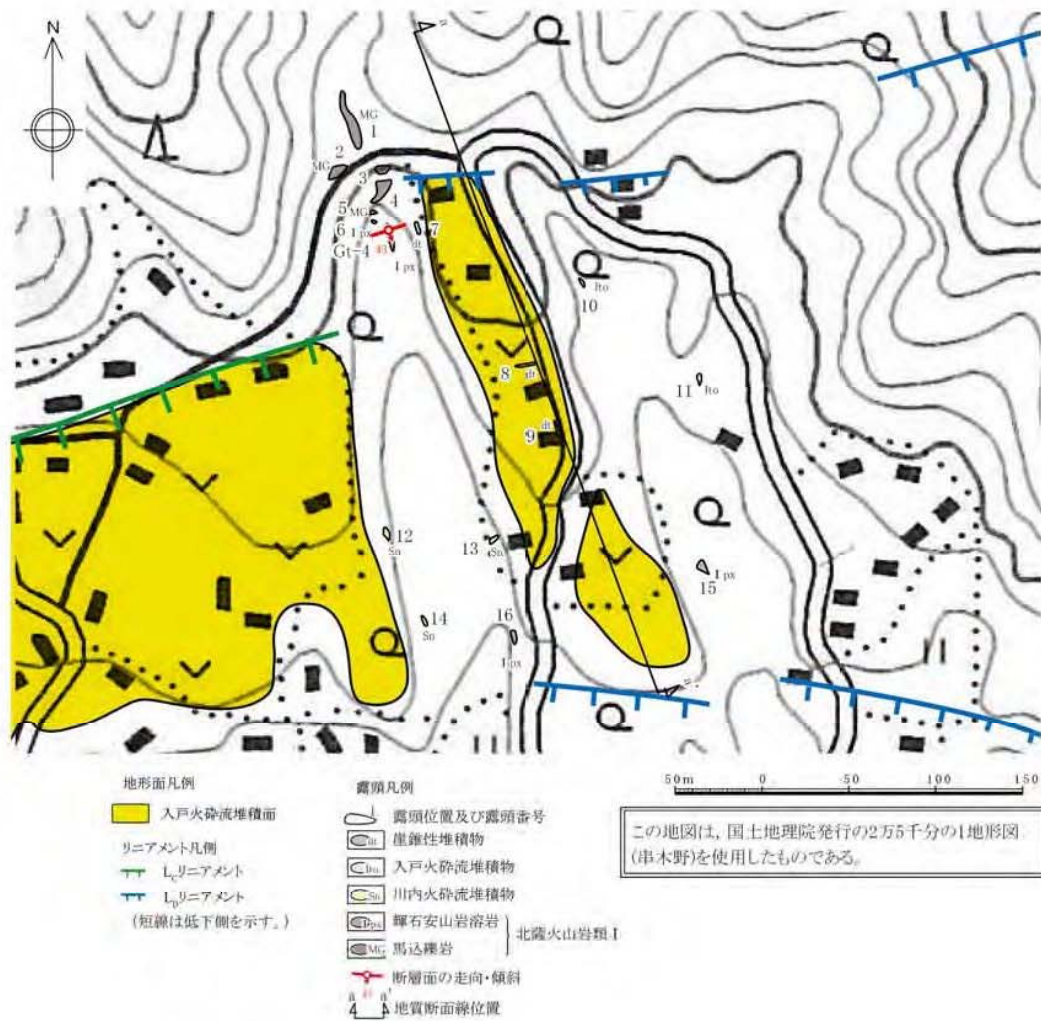


第 1.2-81 図(2) ルートマップ・地質断面図(いちき串木野市岩下付近)



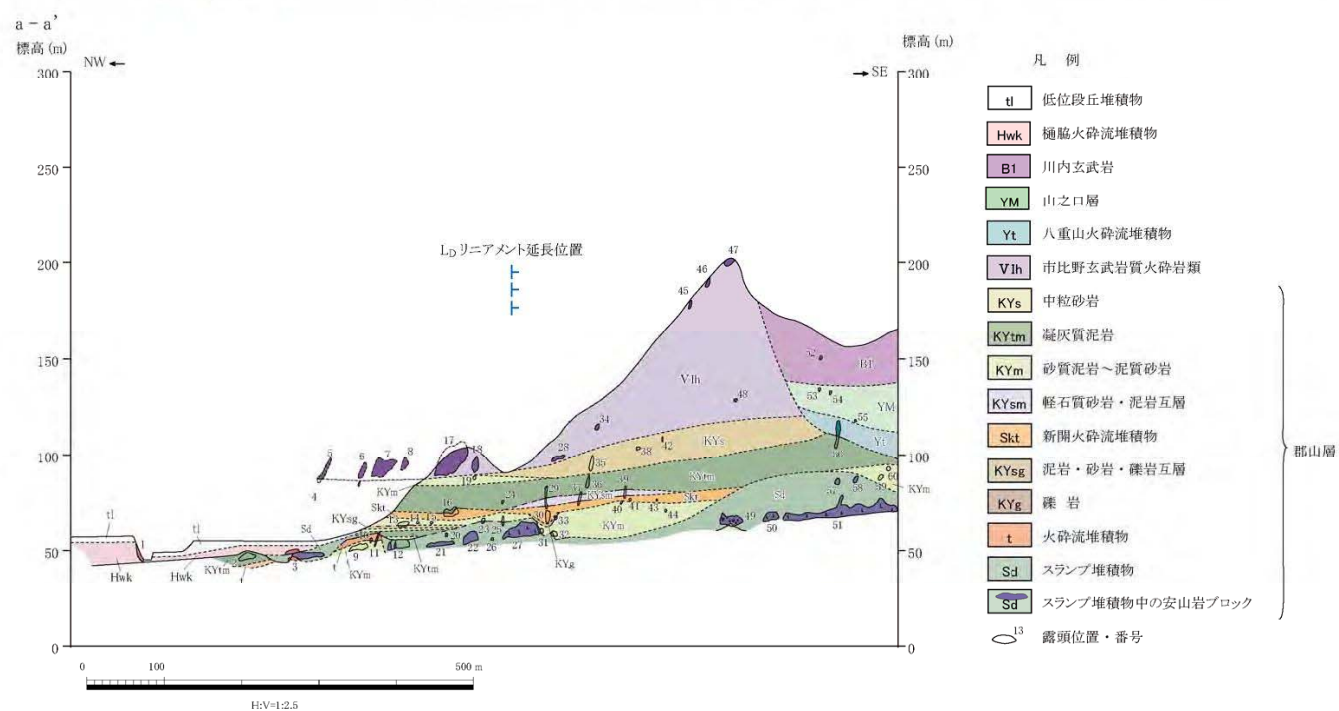
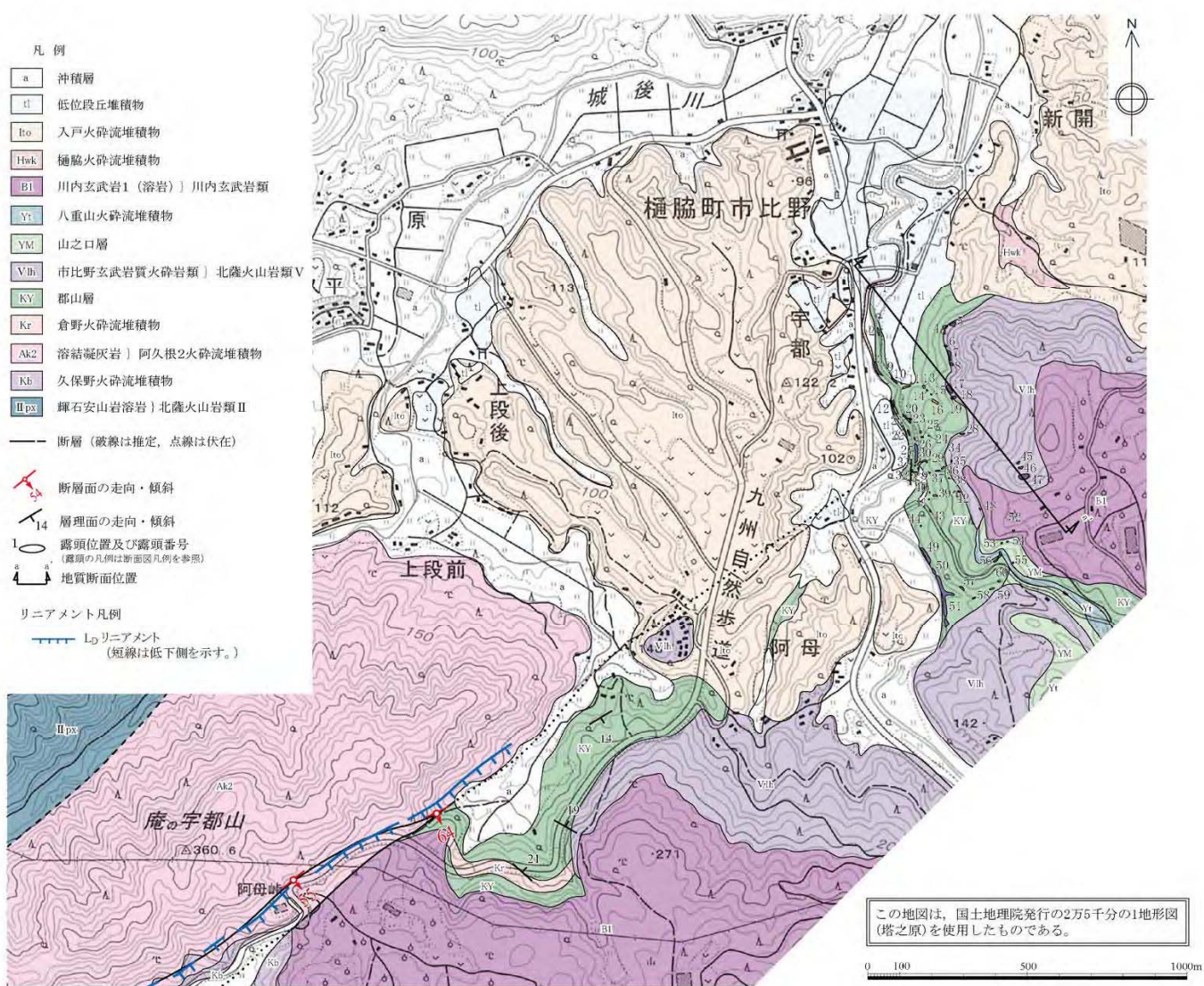


第 1.2-81 図(3) ルートマップ・地質断面図(いちき串木野市馬込付近)

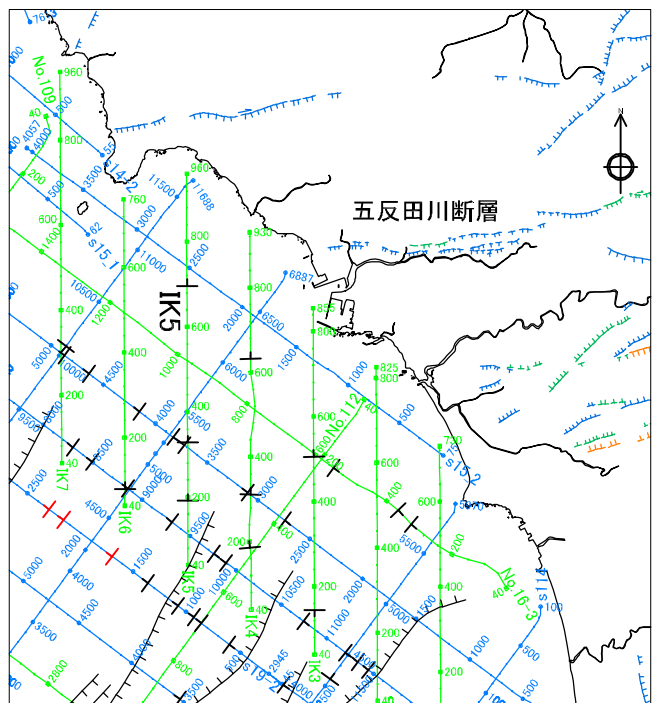


第 1.2-81 図(4) ルートマップ・地質断面図(いちき串木野市河内付近)





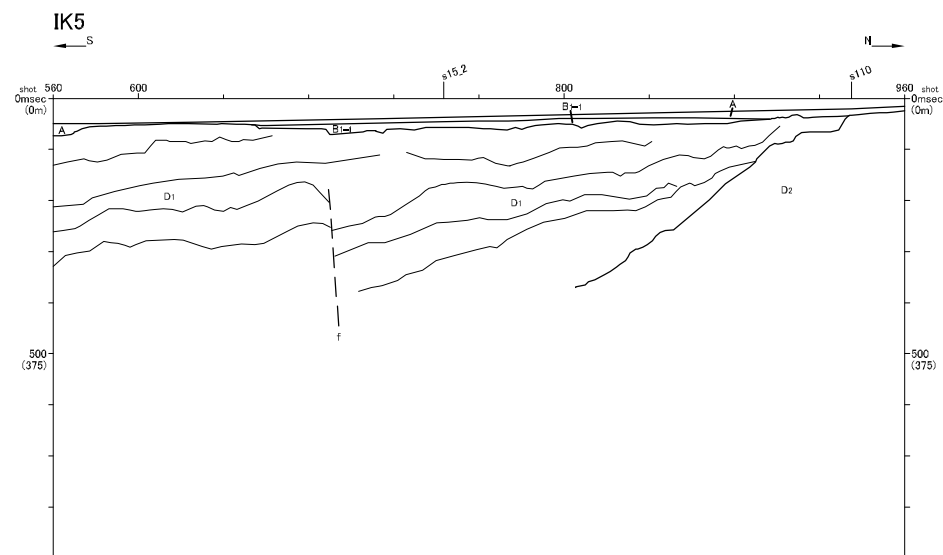
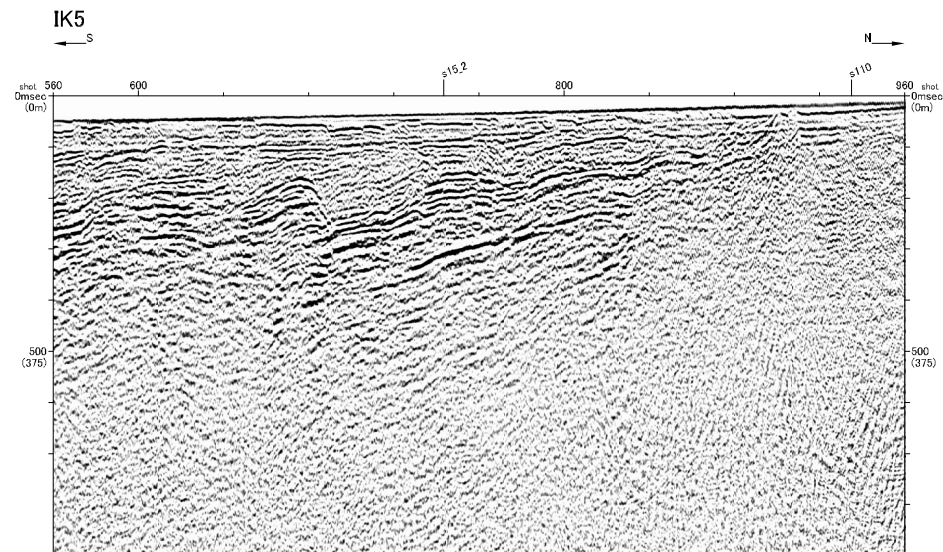
第 1.2-82 図 ルートマップ・地質断面図（薩摩川内市阿母付近）



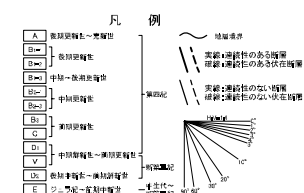
五反田川断層位置図

### 凡 例

- |  |                                            |  |                       |
|--|--------------------------------------------|--|-----------------------|
|  | 連続性のある断層                                   |  | L <sub>B</sub> リニアメント |
|  | 連続性のある伏在断層                                 |  | L <sub>C</sub> リニアメント |
|  | 連続性のない断層                                   |  | L <sub>D</sub> リニアメント |
|  | 連続性のない伏在断層                                 |  |                       |
|  | 九州電力株によるマルチチャンネル音波探査測線<br>(G I ガン、ウォーターガン) |  |                       |
|  | 九州電力株によるシングルチャンネル音波探査測線<br>(ウォーターガン、スパーカ)  |  |                       |



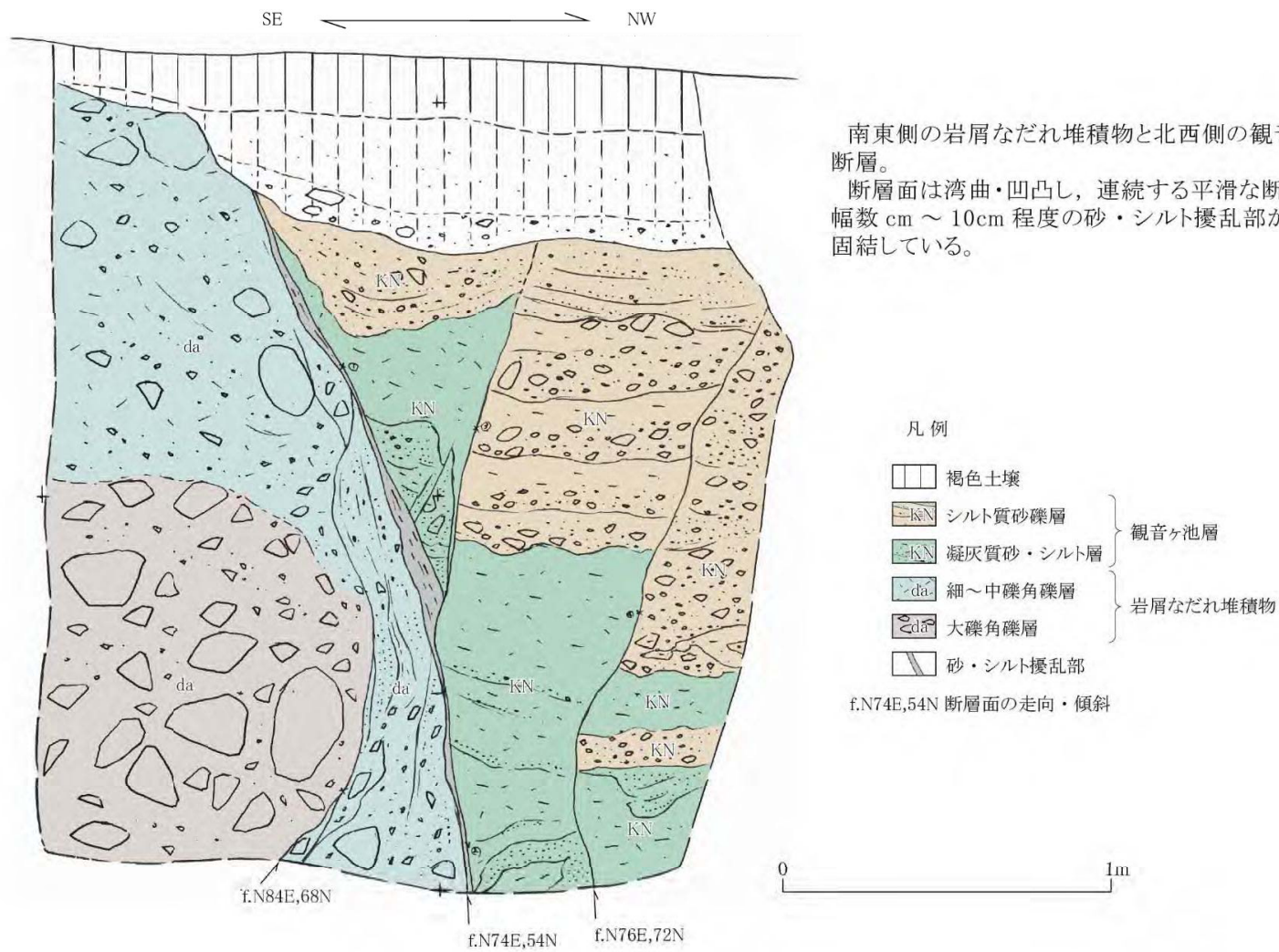
音波探査記録断面図



水涯線は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(鹿児島)を編集したものである。

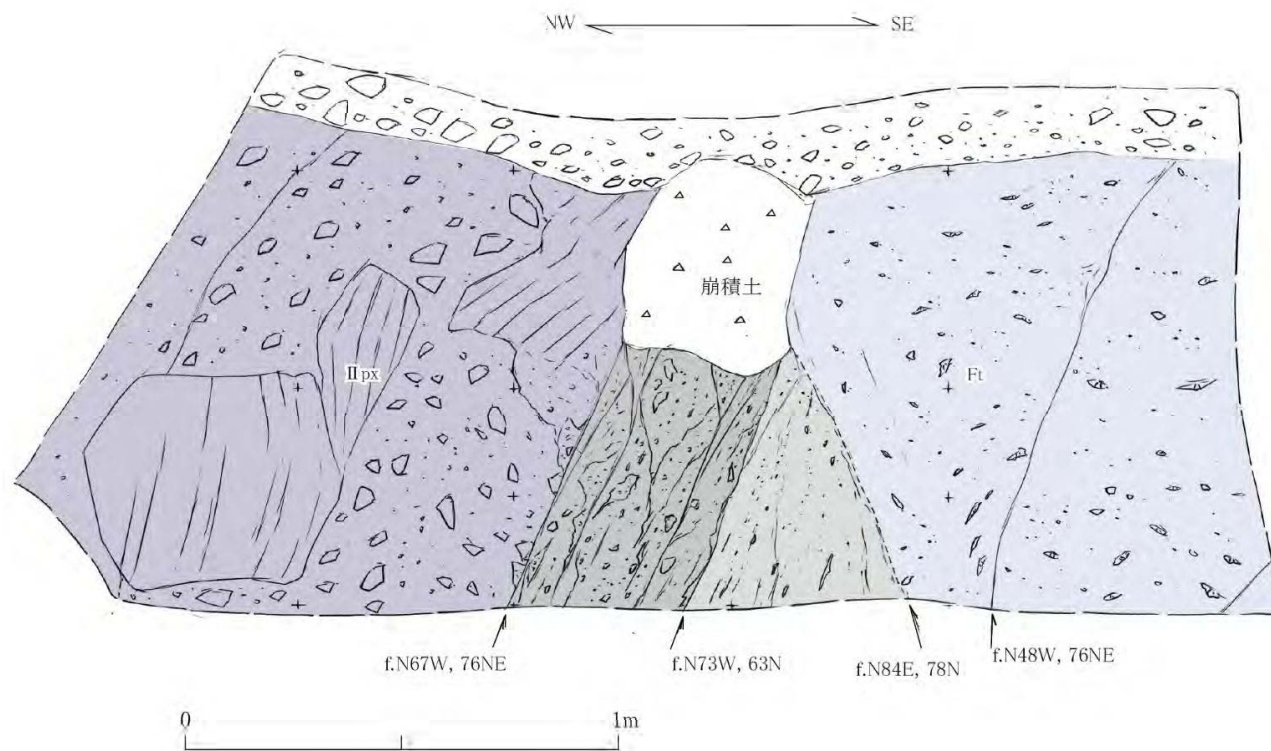
第1.2-83図 五反田川断層海域延長部(IK5測線)





第 1.2-84 図(1) 露頭スケッチ (Loc.Ik-1, いちき串木野市観音ヶ池西方)





北西側の輝石安山岩自破碎溶岩(北薩火山岩類Ⅱ)と南東側の二俣川火砕流堆積物とを境する正断層。

断層面は一部で平滑であるが、細かく凹凸するところも多く、いずれも癒着しており、破碎部も固結している。

#### 凡 例



旧河床礫層} 沖積層



輝石安山岩自破碎溶岩} 北薩火山岩類Ⅱ



弱溶結凝灰岩} 二俣川火砕流堆積物



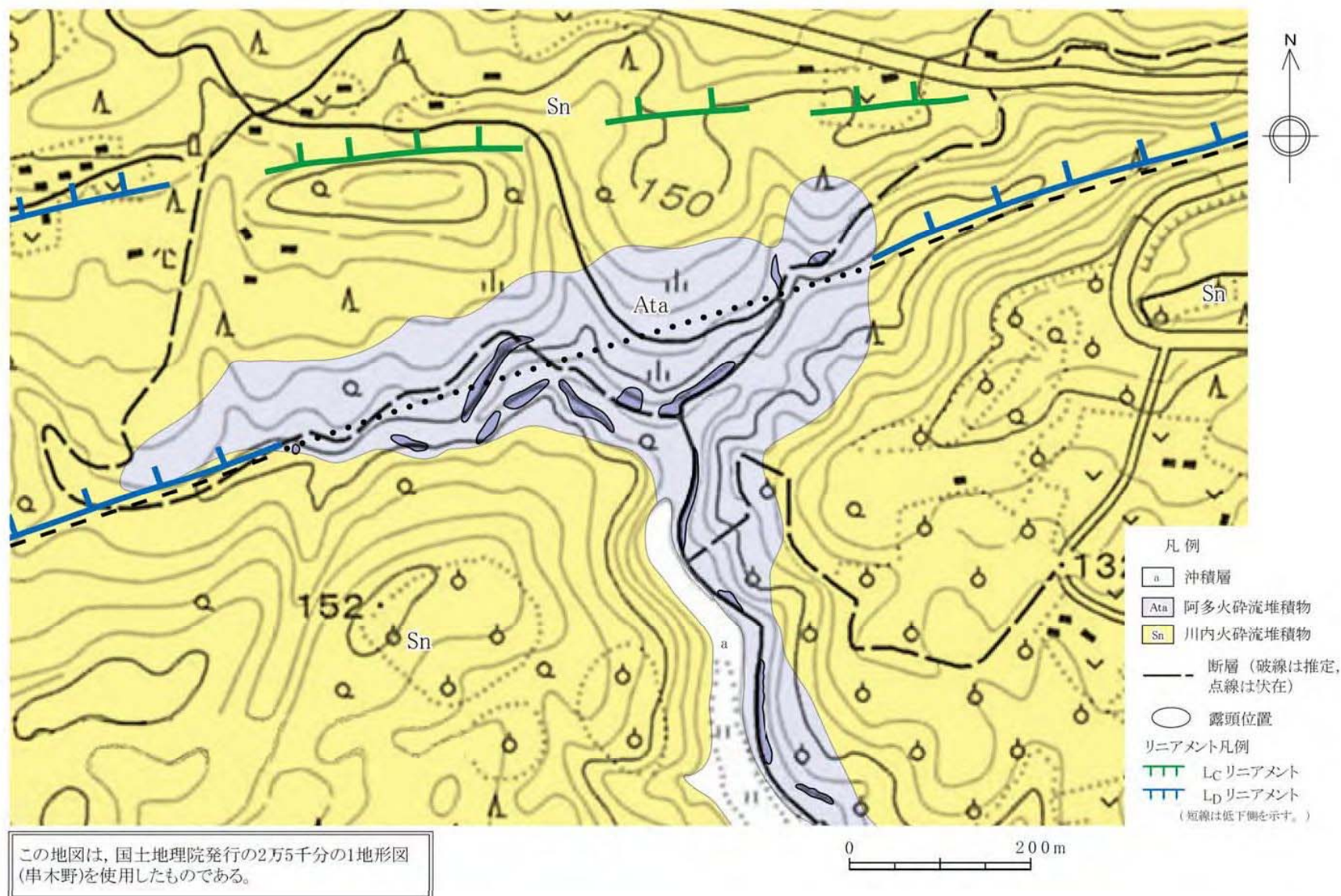
輝石安山岩溶岩角礫状破碎部



溶結凝灰岩角礫状破碎部

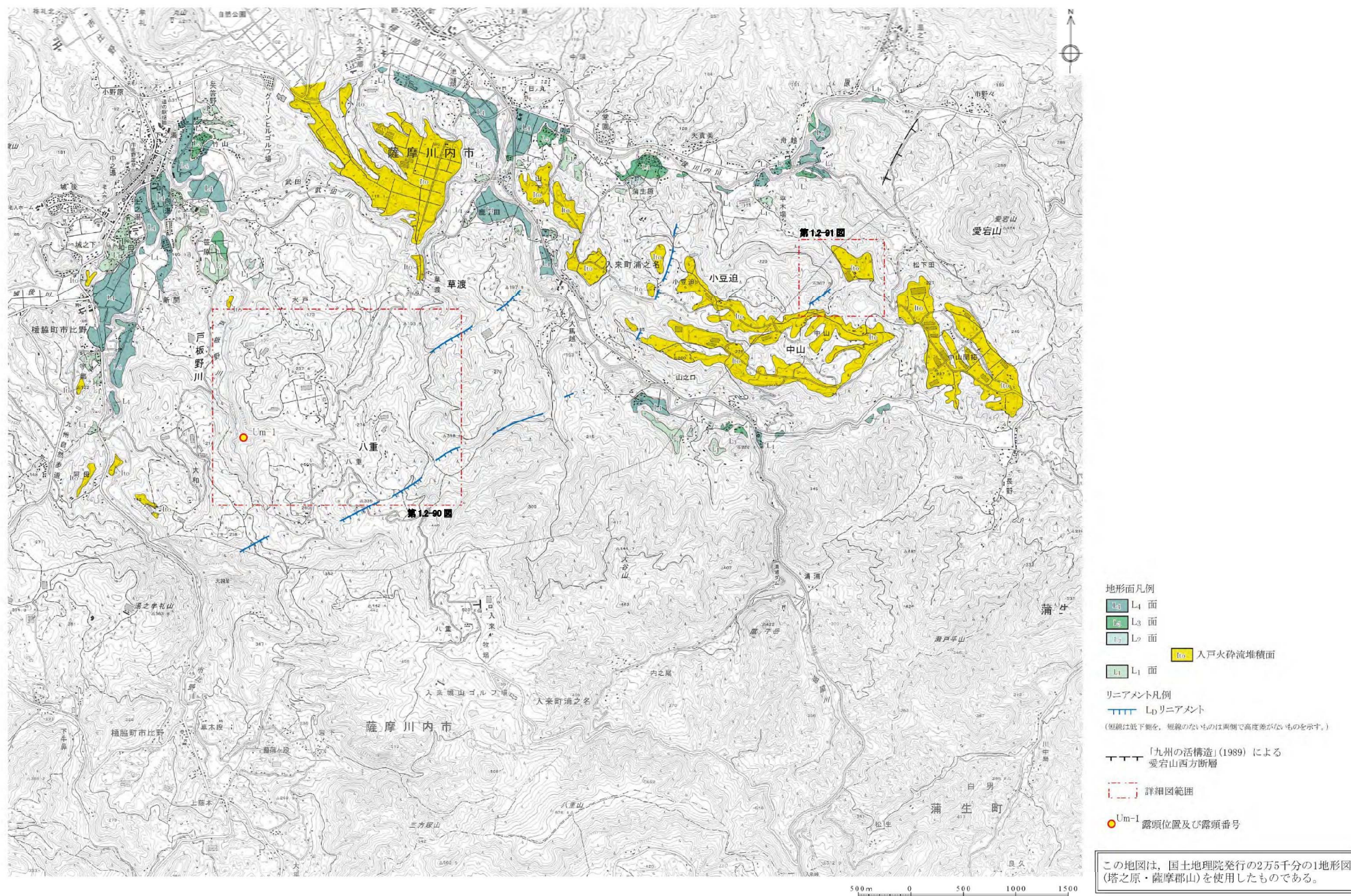
f.N73W, 63N 断層面の走向・傾斜

第 1.2-84 図(2) 露頭スケッチ (Loc.1k-2, いちき串木野市松比良南西)



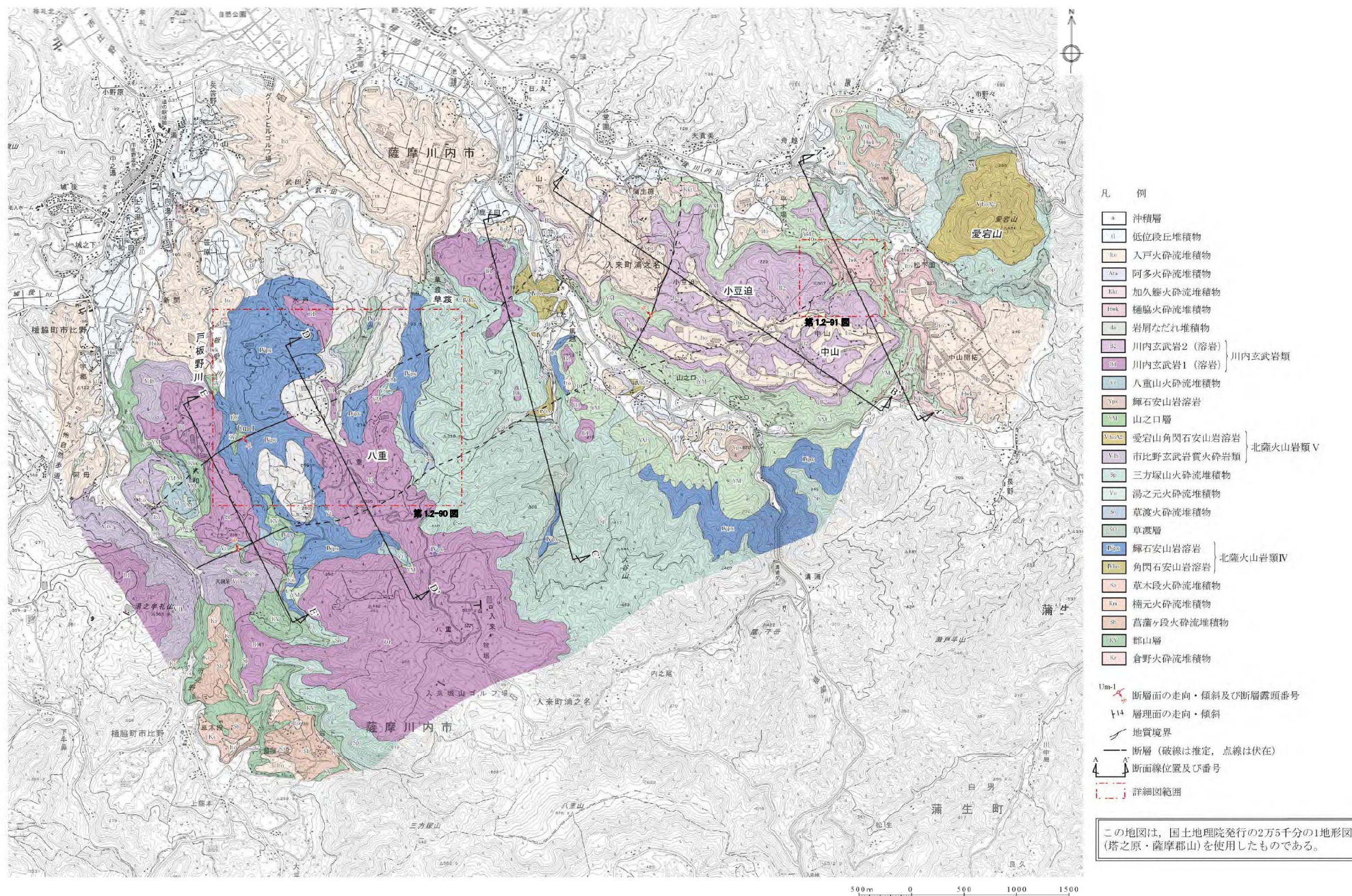
第 1.2-85 図 ルートマップ(日置市皆田西北方付近)





第 1.2-86 図 浦之名断層系周辺の空中写真判読図





第 1.2-87 図 浦之名断層系周辺の地質図



第 1.2-88 図 浦之名断層系周辺の地質断面図